断片　二〇二四

u_

な軽みに匿われ満ちる軽み異なりの、異なり限りの軽みに薫りの薄みだけかな
眩み躙りの裂き分け偏らされるしか無く裂かれた透けは、透ける儘な窄まりを
追い盛（さか）る薄みを透け違え、にも、な違えを被い懸ける透けの薄みから
剥がれ逃れる透けの重みの早割り裂かれる裂かれの反り艶めき巡り鈍る鈍みの
鈍い向きを鈍らす汚げに透けようと丸みを欠くかな形を重ねるかに震える厚み
を翳し堕とす危うさそれとも、危うげにこそ淡く危うさの吸い寄せる光りの墜
ちようも無い軽みの巻かれ傾ぎ拡がり隠るかにも、な暈け窮まった様を逆さに
曝し埋める厚みなら厚み、で無いなら疾っくに失せ滲んだ暗過ぎる円みの欠片
の重い側の縁に汚げに溜まる光りのさも喘ぐらしくに棘めいての丸み損ないが
距て厭い絡め斬る鋭く尖る厚みの鈍みへの沈み消え懸ける、拡がり流れ已む限
りの何の眩みも斥け昇る細み傾いで丸みを匿うかの陰の底を射抜くその陰の拉
かれるかな、顧みられる儘に現れ尽きない独り開かれ擡げられる透け違えが匿
い晒す丸みなら丸み頽れて丸み異なり潤む、その開かれの異ならなさが導き細
める暗みの鋭さに眩もう眩もうと乞い尖り仄明るむ明るみの噴き拉かれから覗
き暗み直される薫り擬きに揺らぎ窮まり切れない、に、ふと途切れたかに、な

程に強く繋がり尽きない波を分厚く返し散らして細まるかな、眩み躙りとは距
たるだけ距たり果てては近過ぎる儘に近さに溺れるしか無い、開かれに窒ぎ脹
らされる仄薄さの内に斑に散らばる煌めきそれとも、な煌めきの内に密かに誘
われ宿ろう白白と淡い危うさの閉ざされそれとも、な閉ざされを厭い縁取り巡
り凝（ここ）る煌めきに似せ急いて崩れ脹れよう偏りが厚みを拡げ散らす様の
消え現れ尽きる奥の無さの裏を透かし見頽れるかな斑なざわめきの繋がり尖り
競えば閉ざされに背いて曲がり続けるしか無くにも、消え現れないかに透ける
透けへ遡る遡りの噴き展かれたげに無いと知れる高みを探り果てて煌めき違え
られる儘に危うさを塞ぎ潰し延ばし明明と、と暗み凍らせる動きと動きの痕の
そのどちらとも距たり強張るならば高みな振りを繰り裂き尖り来させる兆しに纏
い付かれて乱れ透ける、濁りを匿い窮めれば乱れ透けに何の眩みも除け拡げ巡
らす流れの遠げに高ぶる程に高みを虚しく匂わせる唯墜ちる形（なり）でしか
無い一ざわめきの円み異なりへの燻みが陰を接ぎ撓めて乱れ偏る偏りの偏り頽
れ異なりは、譲り圧される捩れそれとも、な捩れの窄まり延び失せる先に独り
盛（さか）る陰の徴ばかりの震え裂き分けられ懸けて歪む限りに陰ごと偽りな
のを曝き歪む震えの透けに擬えられるしか無くに象られ已まない、象りに匿わ
れても象りを拒み乱れる果てと果てからの翳りかな重みなら重み、で無いなら
象りに絡み纏わる透けに似せ損なわれた陰の戯れかな暗みの薄みぶれる限りに

墜ち翳り舞って危うさを匿い晒す一ざわめきが残したろう痛みから痛み異なりへの透けへの換え痕を隠す静まりの徴に満ち固まり刺さる、反り切れるばかりな陰より陰めいた匂いだけ残した眩み躙りに斥けられ異なり温む、眩み躙りに擬えられるなりに陰の漂いに縁取られ懸けて揉まれ歪み巡る尽きない低逸への偏りを反らせるかに眩ませ被さり、に被せられ疼くしか無い無さに眩みみり已む已み際に映り重み刺さる揺れの細みさざめくその先からの訪れかに暗み潜む淡く遠ざかる形（なり）の明るみの、明るみ尽きない尽き無さの窮み独りが求められ弾け裂かれ、かにも、な弾け裂かれの乱れが乱れを転がし傾げ懸けよう現れかにも、に翳むしか無い乱れか唯乱れの企まれた振りの痕それとも、痕に準えられ損なう振りの痕の消え傾げ透ける兆しの毀れる様をあからさまに翳し異ならせ拋り凝らせる細みさざめきに接ぎ遡る乱れの墜ちる形（なり）に準えられよう、反り高ぶり撒かれる棘棘と淡い透け違えに絡まり吸い捩られる明るみの舐め繰られ墜ち懸ける重みの傾ぎ振りをその振りが拒み探る先それとも、先の無さの暗み弛めば明るみ透け絶えるしか無い無さの毀れ直る毀れ限りな儘な先それとも、その先に拒まれる先の有るしか無い無さの濁りに浸み傾ぐ乱れな儘に凝り断たれて乱れを貫く乱れの毀れ振りに籠もりたげに低みを匿う重みの淡く捩れ探られよう厚みそれとも、厚みを裏向ける透けの乱れを重みかに避け向かって濁りを招き砕く漣の遣り躱される様に準えるなら透けは硬く真下に

深く細みさざめきを求め已まない已ま無さに失せようも無い独りな透けの乱れ
から浸み尽くされる明るみなら明るみの透けでしか無く掴み拠られる、暗みを
眩み潰して裂かれ已まない已ま無さを犯し駆り占める狂い無い乱れそれとも乱
れ無さ、それとも始めから乱れ異なる異なりに狂い無く乱れ狂うしか無い眩み
異なりを映し損なう儘にあからさまに消え和らぐ細み独りの現れが兆すかな乱
れと明るみの繋がりようの無い繰られ振りを残し果てない乱れの乱れからの異
なりを求める異なり独りの細みへの貫かれは、硬みの兆そうとされる明るみの
偽り振られる虚ろへの軽みに砕け分けられ拡がる奥まりの厚みの裏返りに襞を
隠し翳らす細みの溢れ縮み逸れる、歪みを拒む限りに歪みを揺るがし窄めるし
か無い、陰を陰へ刺し翳す震えの痕かな濁りそれとも、濁りを偽る限りに陰を
捏ね潰し閉ざす刳られ欺きを拒み繋ぐ撓みの細みへの沈み消え接がれを重みへ
とひたすらに戯れ象る、な象りの誘い已まない限りに震え砕かれるざわめきめ
いた偏りが偏りを集め犇めかせる犇めきの剥がれを接ぎ続ける翳りの狂い無さ
へ、掴み暗まされる儘な繰られ接がれを衝き違える違えの透けそれとも、透け
異なりを翳し毀し剥がす剥がしの柔らかみが柔らかみを揉み磨き割く眩みへ暗
みを圧し触れさせる、な触れさせ限りに狭み已まない陰の消え現れの確かさが
匿う軽みの柔らかみを貫き散らす姿かは、それとも、な姿かに、な厚みに厚み
が呑まれ現れ消える消えの顧みられそれとも、な逸れ震えに重み現れる戯れの

繰られ厚み零れる透けのあやふやな濁りが呼び剥がす躱し端（はな）の透け違えに隈取られ損ない接がれる厚み零れの曲がり墜ちる連なりに失われ懸ける限りな淡い遡りに断たれる一震えの、戯れの接がれ已ま柔い已ま無さの兆しの退き異なり逸れる逸れの明明と断たれ已まない匿われの柔らかみを撒き翳し暗ませる丸みを望み継ぎ弛んで丸みを拒み透け濁らせようとする厚み異なりの異なり違えへの拒みの毀れ已まない已ま無さの独り現れる様でしか無い細みのその細みからの裂かれ窒がるかな遡りに接がれ光ろうそれとも、な光りを敷き消し暈かす暈かしを圧し滑らせる消しようの無い柔らかみに磨り減らされ已まない細みの細み窮まろうと傾ぎ透ける勢いの勢いからの剥がれ逸れ重みを重ね疼くかな、遡り窒がり割ける割けに映り暗む暗み已ま無さの触れられ尽きない失われそれとも、失われようの無さへ予め失われようとされるなら光りの敷かれ消されに光るしか無い置き去られる振りを翳し翳らす暈ける限りな光りへの柔らかみを灰めかせ、灰めかせ濁り窪まり澄むなら細みは斥けられよう兆しの細みな形（なり）を滲ませ繰り狂う狂いの頑なな硬みに映り窒がる光りの戯れが細みに銜え込まれようとされるざわめきの透け競いかな眩み躝りの灰かさを刻み明るむ穢れ放たれを、暗む限りな逸れ震えに貫き失せさせようかな黴に懸かり滑る細みに欺かれたいらしい穢れの翳りに映る、それが光りの戯れなら痺れ窒がる儘に、な儘の何とも知れなさが一つ限りに噴き測られる丸み異なりを犇め

かせて穢れを穢れから散らし距てて明るむ狂い無げにも狂うしか無いかな細みの痺れの確かさへ延び靡いて光りの戯れを呼び殺そうとする痺れそれとも、痺れ擬き凝る痺れ窒がり異なる向きへ狂い無さを遣り逸らす、その縮み已まない跡の失せ紛い現れる、細みを際立たせ続けてしか兆さない平らみ懸かって擡げられよう痺れを匿い構えながらも構え損なうしか無いその裂け目の潰されめいた、ずれた平らみを覗き溶かすかな円みのみ唯兆しばかりな透け擬きにも色を濁らせ偽る見窄らしげに弛く疾っくに失せた光りを追い消され紛われ象られる丸み異なりに弄ばれて兆しばかりの狭みを探られ拉がれるなら独りに独りを拒む儘に独り平らみの回り様を平らみに似せて彷徨き靡くしか無い、な、しか無さの透けの内に厚みを曝す明るみの噴き凝りそれとも、知らず平らみに囲まれる儘に透け擬きに抗う振りの色の、濁らせ偽り異なる向きへの向き異なりを切り出す揺らぎ窒がりに似せた偏りながらの狂い無く狂い無さの兆しを操り貫こうと逸る偏りなら偏りの、な偏りの陰の陰に叛き向かうなら透けの粗みを犇めき溢れさせる眩み躙りの狂い無さが徒と為るかに円みの有り得無さの確か過ぎる徴の溶け懸けて揺らぐかに並び尽きない、かにな限りに、な並び尽き無さだけが透けの粗みを衝き穢す透けるばかりに震え已まない已ま無さの圧し迫りそれとも、行き成りな円みの形（なり）ばかりな明らかに陰でしか無いと自らを晒し拡がり果てるそれとも、果て無さが指す円みの形（なり）の外なら外、で無

いなら並び尽き無さが呼び固める眩み躙りの偏りに因って煌めかせられよう透けの粗みの厚みに塞がれ窪まされる陰と陰の外が噛み違え戦き合う響きそれとも、湧き尽きない光りの形（なり）ばかりな噛まれ違えられ果てたかな丸みの欠片の陰を拒む陰より暗い窪まりのその形（なり）を拒む果てへ向けての明るみ果てる果てむさに沈み尖り守られ繰られる均しく窮まり翳される煌めきの透け濁りと混じ無逸る振りを鈍らせる、な鈍みに躍り窒がる真向かいの奥の内の外から襲い来りうかに甦る光りの頽れ暗む静まりへの望みの尽き無さ唯それ限りは、それ限よ異なる外の外なら外を巡り戻る眩みに貫かれ滑り匿われるしか無い透けの真下に抛られ、な真下の明るみに流され躍り抗う陰でしか無さの、細み振る無さを離れ混じる籠もり圧す限りな震えを帯びる濁り果てた清かさを測り延ばしそれとも、な清かさを圧し裂き縮ませ躍る明るみの軽過ぎるなら波立つしか無い澱みかな震え異なりの一異なり限りな陰から滲み捩られる光りの澱みそれとも、な澱みに凭れ刻まれ暗む象りの明るむ向きを細み窮め頽れる眩み躙りの覆われを準えようかな、光りの形（なり）の外を絡み走り翳される暈け偏り刻まれ果てて柔らかみに衝き溶け脹んでは躍り眩む並びに、な、それの外へと躙り招き招かれるかな躍り眩みの直ぐに濁り澱んで蹲るかに、な蹲りの真下へ白みを延ばし丸く拉がれようとする匂いそれとも、丸みの磨り傾ぎかを抛り固めようか、な様を様が距て厭う成り行きなら、な様の脇に痺れ曲げられ

置かれる響きそれとも、な響きを凍らす温みの窪まりの重みを求める響きからの響きの内を硬い剞られ潤みに換える遠ざかりに沿い噛ませられよう静かさの窒がり覗かれる偏りは、に窒がり捩れるなら仄失せ圧され穢れる角角しい振りへ逃げ違え減らされ繰れれよう、真下とも丸みとも距てられ独り断ち滲まされる白みに柔らかさ囲わら滑り逸れるしか無い無さに縋り明るんで、な明るみ一つそれとも、一くを抜れ暗んで円みへの汚れに焦がれる望みを棄てる儘に留まり分かれ、にも、な留まり分かれこそ一つに狂い無く溶け貫かれよう狂い無さの、一つを幾つにも果てなく送り翳して一つに叛き、な叛きを並べ刻む限りな一つの狂い無さそれとも、な無さの狂うしか無い、な狂いに外へと躙り逸り砕けるしか無くにも、それに随う偏りごと浄め惑い回され様を束ね殺がれよう形（なり）を匿い匿いしながら、な匿いを明るみの独り滲み消えよう細みを恃んで曝き続けるなら柔らか過ぎる白みに埋まり足掻くかに細みの細みへ滲み已まない、にしろ已み窮まりようも無い暗げな窄まりの潰れ爆ぜ開かれる円みを閉ざし尽くしたかな硬みの二つに縦に断たれる厚みそれとも、厚みの無さを覆い束ね殺ぐ厚みとの距たりを測る眩みの躙り已まない、な已ま無さへの墜ち脹れる限りな姿を裂き開こう兆しに纏わる硬みと細みの絡み凝り頽れ懸ける陰の、陰を溶かし超える明るみが明るみを暗ませる眩み躙りが陰と明るみの裂け口の丸みの縁を撫で乞おうと棘棘しく毀れ艶めき剥かれる、明明とも明るみを狂わ

す陰の漂いの薫りそれとも、漂いが漂いの重みを支え切れずにその重みの揺らぎ窪まりの底、にしろ、な底に到りようのない歪んだ丸みを爛れ残すしか無い明るみを陰と映す縁なら縁の透けに透けが絡まり脹らむ薫りだったに違いない塊に似た明るみの裏の、にも、な裏の一がに貫かれるその明るみと暗みの高みと低みに見せ掛けずれようとする透けが陰を潰し溜め覆う、明るみを狂わす程に明明と冴える硬みの、明るみる陰と映す縁の丸みだけは残そうと独り凍り捩れて陰を破る透けの紛れかな様の窒がり丸み繕われる、貫かれた裏の一重を抜き剥き躍る、にも塞がりでしか無い丸み繕われようの無い頽れが呼び招く頽れとの異なりばかりを噴かし細める漂いの重みの脱け殻とでも自らを準えたいに違いない眩み躙りの、眩み滲みようの無さそれとも、躙り異なりの頽れ已まない形（なり）なら形（なり）の窄まり濁る濁りの硬みなだけの冷たさを曝す拡がりの欠片それとも、欠片が欠片の外に求め吊すしか無い高みと低みの均しさ独りが沈み果てた色を晒し消す、陰の澱み滑り戻って幾つかの渦の欠片を継ぎ回そうとする、な回しを刺し抜きようも無さの無さが無さを刺し抜き過ぎるその痕かな暗げな窄まりそれとも、な暗げな窄まりに透けの現れが色を生むかな細み独りが丸まり已まない、な細みが細み異なりを追い眩んで眩みごと眩み異なる透けの揺らぎなら揺らぎの行き成りに揺らぎ異なって揺らぎの透け濁りをそれ限りに滑らせ開き裂く狭過ぎるなら何に向けて狭過ぎるかを吐き約めるば

かりな透けの現れの色を漂い塞がせる陰の失せの重みへの低みの望みそれとも、なり望みこそ細み異なりを求め殺がれて殺がれの陰の鋭過ぎる濁りに似せた眩み無躙りの透け滲むなら、な滲みの浸み辿られる狂い無い細みの裂けるしか無い無さの欺きに覆われ狂う狂い無さの戯れ束ねは繰られ尽きようかにも、細みの影も失せたなら細み異なりの痕とも見紛い兼ねない遥か円みの崩れ滲む薫りなら薫り異なるしか無い眩み躙りから逸れ偏り暗む形（なり）の形（なり）ばかりな窒がりそれとも、窒がり異なりが圧し破り貫き揺らぐ繰り返される明明さが追い眩むそれとも、眩まされる向きの、向きに背く細みの痕が影だけを残したかな向きの殺がれ澱む窒がりの束ね裏返る硬みに、縮み殺がれる限りに再び明明と硬みの内に淡い弛みを探る、な探りを掻き回して自ら狂い透けるしか無い暗げな窄まりの、細み窮まろうと明明と明明振りを暗げなら明明さに約め換え、にも、に狂いの弛みを寄せ毀れるしか無く毀れ縁取られ失せる浄められ已まない眩み窮まりの振りを翳し薫らせる現れの消え損ない揺らぎ捲る向きの束ねられた流れかに縋り過ごされる透けの硬みから裂かれ脹らむ、透けと明明さの溶け裂かれ交わる交わりの空回りを焦がれ偽るばかりな様に縋る重みなら重み、で無いなら硬みに透ける細みの透け現れの直ぐに消え盛（さか）る明明としか眩み躙らない接ぎ乱れ震える震えの硬みより確かな狂いの向かう向きからの映り込み擬きな、な擬きごと漂い崩れ懸ける形（なり）の形（なり）を内から破

り貫き散らすかな硬み異なりにしろ、な異なりごと已み翳される先行きに焦がれ尽きた形（なり）の形（なり）ごと弛み果てよう、硬み異なりから消え現れ沈まされる明明さの失われに違いない硬みの急かされた象られかな戯れ鈍る限りに重ね滑らされる重みの重なりに歓びを隠し鈍らせる、贋の映り込みを翳し厭うしか無い淡い限りな暗みの漂い明るむ明明さを撫で震わせる企みなら企み、で無いなら放ち散らされる狂いを装う限りな戯れ鈍りが映し匿う暗げな窄まりを偽る透け濁りそれとも、透けに叛く濁り異なりなら細みの浄め直されたかな薫りの洩れ偽られ盛（さか）る浄まりの穢れの衝き圧しに丸み剥かれる接ぎ乱れを接ぎ改め懸ける暗みとも明るみとも異なる戯れ鈍みの薫りの失せる向きへの偏りに濁り果てた白みなら白み、で無いなら白み異なり鈍り曝され穢れの限りの限り尽くされる浄まりに圧し細まされる姿の顇れ粘る消えを追い逃す、繰り返されてしか無い白みの尽きない暗みを湧き噴かせる傾きに擬えられる傾き異なりな、衝き暈かされるそれとも、暈かされ違えられては衝きに沿い損なう湧き続ける暗みの傾きなりに擦り墜ち懸ける儘な限りに掠り延ばされるなら陰の紛れに変わる軽みの掠り延ばされは、已み窮まった明明さを甦らせる振りに危うげに揺らぎ消え靡かされようとも、揺らぎばかりを消し塞いで直ぐに塞ぎ失せさせられる向きを呼び拉ぎ断ち已まずに、な已まり無さの接がれ消え靡く軽みなら軽み、で無いなら、拉がれ擬きな痺れ染みた白みの透けそれとも、白

みの透けが透けを穢し延ばし傾かせる透けの抜き難い暗みを、暗みを抜け頽れ
て更に暗みへ先走るかに籠もり漂わせる徴に徴を受け交わらせる限りな掠り延
ばされる軽みに擬えられる徴の内の虚ろが虚ろの傾ぎを支い翻す微かさを競い
軋ませる徴の徴から湧き裂け眩む真下に焦がれる偏り已まない已ま無さ限りに
掠り延ばされる軽みを翻す先それとも、先ごと違えられる先異なりの危うそう
にその震わせ違える兆しを硬みに換え已まない軽みを軽みに擬えられる徴に映
し頽れさせるかに、な頽れさせられに接がれ揺らいで徴の縁を破り塞ぐ嵌め掠
られる影ならば影、で無いならの影の欠片が影の元の姿を測り明るむ掠り延ばされ
の揺らぎようの無さを、その接がれ揺らぎ失せたらしい真下に衝き躍らせ接い
では軽みを翻す影さ欠片を囲み傾がせて湧き上がる徴が切り分けられ損なわれ
ては、な切り分けの姿を映し透かそう接がれ揺らぎ凝る傾きの、その影の欠片
の薫りを継ぎ捩るかな姿の真下に衝き躍らされる徴の失せた徴それとも、失せ
た真下に衝き躍らされる徴の内の虚ろの繰られ接がれに擦り粘られる震え已ま
ない明るみのその先へ明るみの薫りを映し移す兆しの兆しから違え狂う狂いに
墜ち窒がる窒がりに兆す明るみを遮り暗ませる軽みの噴き散る様を直ぐに、な
様で砕き接ぐなら痺れ構えられる構えの内の虚ろの繰られ接がれを掠り磨いて
躍り細まる細み限りに幾つかに虚ろに切れ込んで構えの内とは係わらない限り
に外な、明明とも冷め刻まれては穢れ放たれるしか無い明るみの薫りに擬えら

れて際立ち割ける軽みの、外より外かに薫り濁り拉がれる穢れの狂いを狂い無
さに換えて外より外の虚ろの在処を欺き繰るならそれごと狂い細まり傾ごう外
の内を覗く振りに自ら振り翳され偏る煌めきそれとも、煌めきを狂わせ窒ぐか
に拗り傾ぐ、内とも外とも異なり異なるしか無いなら、な様を淡い兆しに圧し
吊し躍らせる徴の擡げ明るむそれとも、暗み裂かれて、な裂けが測り抛る内と
も外とも異なり異なる異なりの、な異なりを淡い陰かな細みに溶かし約めて細
み已まない形（なり）を唯形（なり）ばかりに形（なり）から違え異ならせ、
な異ならせにさも濃やかに滲み放たれる強みなら強み、で無いなら強かに強み
の先の無さを晒し傾ぐ失われようも無くその様を灼き沈ませるかなその真下か
らの明るみの衝き上げに揺らぎ靡き走る、なさも裂けるかに速そうに切れ切れ
な走りばかりが先走るかな翳りの薫りの撒き散らされる、かにも、それを貫き
逸れ現れる細み已まない形（なり）からの違え異ならせの掠り延ばされが繰り
返され已まない已ま無さ限りに切り離された已ま無さのぼんやり後ろかな狭み
已みにそれを映し墜ち窒がるそれとも、窒がり拉ぐ儘に窒がりを焼き切りたい
かな常に明るみばかりを明るみ限りに細みで剥き被い接ぐ、な接ぎに接がれる
形（なり）を細みの明るみに映し舞わせるなら細みは明明と眩み拉がれ、な暗
み拉がれが自らを数え弾いて細みは数知れないどれも鋭く短い瑕に換わり消え
て丸まり懸け、な丸まり懸けに覆い尽くされたい望みに過（よ）ぎられるかな、

な丸まりに徒に差し渡される眩みの内に象り掻かれる震えに内向く細み已まない形（なり）の唯強く躍り窄んで眩みの内の眩み已みそれとも疾っくに裏返されたの眩みの暗みへの溶け刳られが象り失せさせる硬みの縁に似せ已み煽られて纏わり光る鈍みを数える円みの痕に擬えられ損ない懸ける、かにも、硬み距たりに眩みを絡み裂き盛（さか）らせ、な盛らせの暗み澱み凝り流れる流れそれとも流れの途絶えに薄まり艶めき噛まれて暗みに晒し匿われた光りを強まらせ返し堕とす、細み窮まり已まずに明明と揺らぎ圧され並び圧される暗み澱み凝りの頽れが準える光より光る光の過ぎ陰の暗がりめく円みの痕の窄まり染み過ぎた後かな細み窮まりへの覆い触れ圧し已まない已ま無さの脹れ縁取られる光りの陰に苛まれ続ける光りには厚過ぎようか眩み違えられるしか無い自らへの弾き躍られに躍り弾かれて自らを吐き薄め穢す、な穢れに照り映え延べられ映え窪まる偏りへの窒がりが数え静められるかにも、な静まりに潤み抗うそれとも抗いを強いられる強いられに穢れ繰られる穢れの細みな形（なり）を溶かし超えては、な形（なり）を束ね躍らせる硬み距たりに穢れ直されそれとも、な直されを遮る兆しに映え狂い窒がる擦り潤む軽みの揺られ接がれる先に裂け接がれ偏る偏りこそが数え直されなければならない余り揺らぐ定めかな潤みの虚ろな鈍みに貫かれる硬み距たりを吐き薄める、裂け接がれが映し寄せ干す光りの潤みの鈍みの纏わり光る鈍みを呑み懸け已まない小さい限りに拉がれる虚ろ

なら虚ろ、で無いなら虚ろに衝き躍り冴える光りの鈍みの裂かれ灼かれる光り
の影の照り鈍り裂ける窪まりかに仄穢れ均される明るみ限りなら、硬み距たり
を差し湧かせる鈍みの距たりかに穢れを授け破られる形（なり）の光り渡され
駆られる軽みを翻して吊られ沈む明るみなら明るみ、で無いなら明るみ割かれ
る陰の窒がりを貫き均して映り渡される硬み距たりの凝る様ばかりが回り干さ
れる形（なり）に急き撃たれる勢いを望む明るみの内に穿たれよう窪まり窮ま
る翳りの凝り閉じて閉じ窮まる丸みの丸みに届きようも無く穢れ弛み失せるし
か無い細みの欠片なあからさまに贋な姿を転げ曝すしか無い細みの触れられな
い捩れ始まりを測り脹れようとするらしい白み滑る重みを逃れて脹れる翳りの
奥の疾っくに失せた光りを匿い直し已まない明るみの揺らぎめいた、白み滑る
重みを潰し締める硬み距たりの傾き焦がれようを映し降ろし転げ、に失せ閉じ
果てた丸みを丸みの重みへとでも戻し傾げるかに差し湧く距たりの硬みから零
れる鈍みそれとも、鈍み異なり外れる外を満たすかな濁り果てた光りから滲み
接がれ異なって変わり続ける繰り返しの唯数えられ逃れる白み滑る重みの重み
を刳られ固まる硬みに似て捩れ細まる穢れそれとも、な穢れから閉じ失せ距た
り裂かれる先に噴き切られる硬みの開かれを繰り揺らがせる限りに凝り已まな
い白み滑る重みの重みの影かに急き抜けて触れられ潤む丸みを匿い捩るかな窪
まりの痕めいた明るみの頽れ窒がれて穢れ繰られを強いられ已まない、な已ま

無さに滑り抉られる儘に弛み偏るしか無い無さを接ぎ照らし映し移すかにも、な無さを延び窄め尖らせる明るみの重み振る硬みへと展べ象られては、な無さの緊く纏わり駆られる虚ろの驕り縮み暗むかな無さの狭みに厚みを浮かばせたげに、な虚ろを直ぐにも虚ろ異ならせよう硬み距たりの距たり異なり失せる形（なり）なら形（なり）を揺らぎ均す成り行きが兆し授けられ、にしろ、な兆しは数えられ損ない腐って腐り薄まり窮まるかでは、な薄みに薄過ぎて刻まれようも無い穴に擬えられ損なう丸みの丸み異なる異なりなら異なりの、異なり限りに異なり限りなりな、丸み異なりからの贋の丸みが移ろい添わせる、な移ろいの外に映り失せる虚ろの兆しそれとも、な兆しに潤み頽れ直る暗みが暗みを裂いて暗み逸れる眩みなら眩みの、薄過ぎる厚みな様に固まろうとする、白み滑る重みを抉り滑らせて眩みを超える振りの驕り象られよう眩み染みた狭みを浮かべるそれとも、な狭みを匂わせ象る象りが薫らせる明るみの繰り揺らぎ已まない已ま無さの薫りそれとも唯、薫りめいて並び尖るしか無い弛い燻みか燻みの燻みからの硬み距たりに誘われ添い傾ぎ触れられるそれとも、な触れられの直ぐに撃ち貫かれ、な貫かれの数の重なり換わって潰される兆しの仄象られる眩み染みた狭みの一つに数えられ浮かぶ儘に狭み異なる異なりの異なり已ま無さの無さに縋り纏わってさも眩みから逃げる贋の形（なり）を差し翳し延べる、硬み距たりから噴き接がれる丸みの柔らかさそれとも柔らか過ぎる鋭さ

の駆け纏わられる、虚ろが虚ろの有りもしない裏を裏の外の内を目指すかに僅かに噴き映えて映え已むなら、な已みを癪し映したろう潤み揺らぐ振りに振り翳される常に偽り燻んで、な燻みの狂い無さに拉がれ接がれ窄まり並ぶ並びに燻み直り映える映えに硬み距たり接ぎ棄てられるなら、な接ぎ棄ての鋭さが匿い滲ませる鈍みから転げ映し裂かれる硬み距たりからの距たり凍る形︵なり︶を脹れ偏らせる鈍みの鈍みを鈍み異ならせるしか無い鈍みには薄過ぎる硬み距たりの距たりからの距たりの薫りなら薫り、で無いなら薫りかにそれを象り抛り凍らせる、接ぎ棄てられ已まない裸の硬みの噴き脹れる姿かな眩みの徴を匿い偽るかな薫りの驕りを偽る痕に潤み抗う凝り已まない限りに眩みな儘な躍り窒がるしか無いそれとも、な、しか無さに欺かれ狂い収まる限りな、な限りを映え明るませる限りに眩み明るむそれとも、に明るみ異なり已んで、な已みを已み限りに細み覆うかに明るみを刻み穢し放つらしい徴の痕かに狂い無く測られ明るむ眩み躙りの窒ぎ煌めきめいた薫りを抛り映させる、潤み抛られる硬みに並び添う明るみの薫りからの距たりに噴き凝り渡る徴の徴を食い裂き抛ってもも抛り切れない儘に明るみの薫りを纏い躍り締まるしか無いなら無いで、な無さを均し強いる白み滑り墜ちる低みに埋もれ浸みる触れられない捩れな形︵なり︶なりに重なり被さる果ての始まり痕の徴に巡る眩み躙りの潤み延びる陰の粘りかな明るみが明るみを蝕む様を吐き撫で已む硬み距たりの已みを堕とし匿

う痛み振りは、な已みに映され濁り映し移す白みの抉られ続ける影かに溶け固
まる捩れ振りに粘り窄まる、な窄まりの真下へ墜ち延び已まない小ささそれと
も、に、な小ささを高まらせ閉ざし丸まらせる硬み距たりとの距たりに、な距
たりを覆い沈め始める徴なら徴、で無いなら、な距たりを距たらせる硬みを抛
り切って重なり被さる小さ振りらしい振りを、その小ささを壊し匿われる儘に
切り裂かれ懸けて痛みを失った痛み振りは呑み潰されようかにも、な小さ振り
に常に潤み絡む痛み振りの疾っくに溶け墜ちた裂け痕かに刻まれる震えの震え
異なる硬み距たりに並べ貫かれる儘な姿に、な姿な儘では眩み躝り映す陰かに
も圧され偏り滑るしか無い、な無さへと象られ已むしか無い已み際に掻き映え
させられるそれとも、自ら映え已む企みに自らを凝り抉らせる震えの重みに接
ぎ乱れる撓みを描かせて硬み距たりを埋め懸け傾がされて、に失せた距たりに
硬みは、な距て失せる奥の削られ失せて偽りに円み暈け偏る、な偏りを偏らせ
る距たりを距て失せさせ、それは円み偏りからは硬みそれとも硬み異なりの距
て失せを円み異なり偏らせようかな硬み距たり尽きる象られで有るしか無くに
も、な象られの直ぐに円み異なりに暈け偏り潰されるなら、に失せ偏る距て失
せの失せる限りに数を殖やし尽くし潰れ拡がり閉ざされ、な硬みなら硬み、で
無いなら白み異なりの異なり尽きる限りにも硬みの縁へと象り縮む徴の浮かび
深まり向き合わされよう高みそれとも、に、さも高みに溶け刻まれ震える震え

の連なりをさも高みの奥へ走らせる筈の逃げるばかりな陰の崩れ散らされる様
が、な様を集め圧し低まらせて已み懸ける已み際を測り巡らせて硬みの縁へと
象り縮む徴と擦れ斥け合う先なら先、で無いなら先を掠り頽れさせて刺刺しく
偏る円みの影でも孕むらしい震えの並びに貫き過ぎられる過ぎられの照り映え
窪まる明るみの透けるばかりな勢いに、硬みを淡く穢し均し揺らがせ象らせる
眩みそれとも眩み已み失せの失せ偏る先の無さを剥き晒し、かにも、な剥き晒
しを象り已まない潤みを匿い強いられ繰られるしか無い、な無さの徴めいて浮
かび深まる裸の仄潤みを象り溺れるしか無い上滑りに似た高みに匿われる濁り
への丸み粘られ並ぶ儘に滑り抉られよう厚みを拒む濁りを象るばかりな上滑り
直って滑り頽れるしか無い速さを吐き流し撫でさせられる、裸か怪しい潤みの
重なりずれる果ての果て始まる始まりの痕を痛み巡るかな、な痛みの真下から
衝き躍り溢れて弛み偏る狭い限りな暗みの狭みの内に匿われた明るみの外から
暗みを灼き苛む贋の潤み縮み揺らぎに抉られ捩れる速さそれとも、な速さを探
り延べ明るませる高みの果てなく数え棄てられる燻みの装い惑いを透け潜る低
みを窄め圧し滑る、透けを拒むかに艶振り惜しむ透けに、な透けに掠り抗う限
りに噛み合わないらしくも換わりに掠り清まり已まないかに高みから伝わり謀
られる企みそれとも、な企みの企まれ漂い迫る、逸るばかりに粗く上滑りな重
さを已み重ねる、艶振りの偽りに重ねられるばかりなら清まり已みから吐き撫

でられ低みを望む限りに曲がり急く、かにも、な急く様を映し濁り傾げる、明るみに抉られ浮かぶ清まり已みに匿われた重みなら軽みへ移ろうと凝る重みは硬みをその映し濁りから距たらせよう硬みを引き巡らせるしか無い筈の徴の浮かび失せ深まり已まない已ま無さに怯え喜ぶ形（なり）を晒し窒いで、な窒がりに溢れる振りに墜ち翳される徴それとも、徴異なるしか無い異なりが並べ震わせる痕にか衝き穢され躍り窮まり異なりの異なりそれとも始めから異なりは明るみに遮られた虚ろの陰でしか無かったかな兆しを責め苛む振りに頽れ撃たれる陰のあからさまに切り取られた欠片の失せ透ける透けの縁にでも已み重なる異なり重なる明るみが暗みを重ね薄め渡す暈（かさ）のような薄み已まない明るげにも明るみを失せ驕らせる限りに薄みを偏り漂わせ翳す硬みを明明と剥がし縮ませる透けの窒がり尽きるしか無く噴き映される厚みめいても明るみに戻り渡るしか無い、その暈な形（なり）ごと暈な形（なり）を衝き貫き移ろわせ、な移ろいに映り浮かび穢れる硬みそれとも硬みを巡る硬み異なりそれとも、異なりから拒まれる硬みの失せ果てた形（なり）に明るみの穢れを暈かに浮かばせ匿う仄かに丸み細まるなら直ぐに細まり尽き直って直る限りに丸みを匿おう、硬み距たりから距て失せられる潤み狭まり溜められる清まりに棄て翳された陰の惑い紛れる細まりかにも、な様が、な様が匿う振りを翳すらしくに、な様へ転げ戻ろうとする丸みの影を厚く濃く暈かす向きに延ばされ巡らされる真

下へ墜ち脹れ眩む暗みに逃げ捩れ已まない、細まりの欠片の束の並び撤かれるかに、暗みを圧し透けさせる丸みを接ぎ棄てた高みからの映り已まない明るみの濁り窮まる、な窮まりの弾け偏る鋭さそれとも、な鋭さの鈍みばかりが滲み転げよう向きが厭わしげに探られ、清まりに棄て翳されたさも陰の陰の痕に抉り丸まらされる硬みの向きなら向き、で無いなら向きを流し断つ硬みの薄まる限りに、な薄みとの距たりが剥き尖らせ固める、な距たりと硬み距たる距たるの、硬みな限りに硬みを硬みから距たらせる硬み距たりの翳され頽れは、な硬みばかりを距たりから距てよう形（なり）に凝り籠もり潤って、な潤い限りに硬み距たりを暈に隠るかな明るみに差し懸け曇らせるに違いないならいな硬み距たりを拒み抜けたい望みを翳す厚みの崩れかに染み籠もらされるしか無い凝り潤いの暗み振って硬み距たりを丸み掲げる透けに擬え傾がせ浮かべる延び切り穢れるらしい姿なら姿の浮かび深まり逸る丸み嵌まる捩れ滑りそれとも滑り已みに蝕まれる滑り已ま無さは、な已ま無さに自らの僅かに明るむ黴に蝕まれ均されるかにも、な已ま無さ限りを明るみに逃し映させる鈍みを隙無く纏い狭まり過ぎよう、に必ず狭まり過ぎるなら狭みの始まりの黴へとも貫き向かい巡る筈の向きの向きとの距たりそれとも距たり失せに侵され漂い窒がる鈍みの、穢れ逸る見渡され独りに圧し照らされる眩み躙りの躙り已む限りに映え象られる高みの真下に深み浮んで明るみに穢れ触れる黴を囲み舐めるかに浅み煌めく

それとも、煌めき向かう暗みへかな消え懸ける向きを焦がれ潤む先の煌めきに先駆けて鈍みが孕む穢れから滲み沈む明るみの穢れ潜らされる偏りに墜ちるかに窪まり鈍る鋭さそれとも、な鋭さの徴を内へ濁らせ散らす向きの数知れなげな硬みの溢れ返りを、な硬みに棘棘と鈍みを滑らせる重みを纏わせ接ぎ抜く眩み躙り痕を乞うらしい煌めきかに透け向かって鈍みの刺刺しく滑り尖る重みに圧されるかで途切れ象られよう象られの溢れ固まるしか無い無さに映る穢れの鈍みに貫き渡される濁り窮まれば明るむばかりな軽みに染み通され顛れるそれとも、な顛れに抗い留まるしか無い煌めきの薄みそれとも、煌めきに薄みを強いる汚げな明るみの矯め滲み拡がる鋭さが滲ます滲ませの透けの震え已まないで透けの内へと粘り巻き呑まれようと細みの回り丸まる向きの崩れたげに接ぎ澱まれる触れられる穢れかな、透けの透けより透けて陰な陰ばかりに明明と犯され直る細みそれとも、細みの顛れが細みを更に細ませる明るみなら明るみ、で無いなら明るみを明るみの外へまで明るませて明るみ異ならせる眩み躙りの寄り懸け遊ばれて遊ばれ接ぎ抜かれる暗み痕の煌めきに匿われ翳される煌めきの暗みに隠る穢れそれとも、穢れ已みの已み果てないかに、な已みが煌めきに集り偏る眩みの已みへ躙り逸り抜け裂けて行こう先を受け潤わす明るみの明明と明るみが孕まされる陰ばかりに犯され直って細みめくしか無い拡がり、にしろ直ぐに拡がり已むしか無いなら細み偏り急く、な已みがまた明るみを已み逸ら

せよう煌めきに換わって已みを煌めきの先に向かわせ擬える眩み躙りの躙り已
む様に抛り頽れる眩みなら眩み、で無いなら、な眩みが匿うしか無い細みめく
煌めきの仄薄まつて象られ触れられ偽られる硬みの、煌めきの暗みに隠る穢れ
已みの細まりを呼び接ぎ流し纏つて纏い尽きない無さ限りに倦み照らされ失せ
る穢れ已みの現れ眩むしか無い姿の予め裂かれ冷めて窄み拉がれる奥まりなら
虚ろを呑み固めたかに震え閉じられる奥まりは、奥まり異なる向きに厭わしげ
に整え毀されよう奥まりが匿う仄かさの撤かれ象られ溢れる兆しの外を失せ換
え、に暗み偽る形（なり）が奥まりの潤みを奥まりの仄かさに擬えるよう促す
に違いない、明るみを偏り汲んで汲み頽れて明るみの微かな温さかな淡く浮か
れる騒がしさそれとも騒がしさの内を侵し固める透けの淡い限りな振りに、奥
まりを薄みに換え薄みを奥まり直し潰してその奥を掘り圧そうとする奥まりの
潤み失せ曝され、曝され透かされ、な透かされが象る、な象りの溢れる徴の外
を外の内から内へ失せ換え、な内の外へ換え戻つて奥まりを失せ曝す、奥まり
の内向きな丸みさえ兆す硬みの何処にも無いのは明らかな丸み異なりの潤み傷
む、な潤み傷みとの距たりに明るみ浸る一振りに象られ揺らぎ曇る微かな乱れ
なら乱れ、にしろ、な乱れに映り崩れる眩み躙りそれとも、眩み躙りな儘に眩
みを穢し整え矯める揺らぎ曇りの曇りを内へ濁す向きの硬み已まない数知れな
げに途切れ繋がれて象られる細みの鋭さそれとも、な鋭さを映すしか無くに脹

れ掠められる曇り透け捩れる暗みの内に穿たれる虚ろめいた硬みなら硬み、に
しろ、その象られを乱れに犯されて窒がり丸まろう、に丸まりを圧し偏らせる眩
みの自らを象り自らに象られ已まない已ま無さの無さの際に際疾く映え換えら
れよう、眩みの已み傷み始まる始まり痕かに眩みを潤ませて、眩みを斥け唯已
ま無さの為の象りの已ま無さを映し已まない潤みの躙り映えるしか無い筈の象
られに犯し込まれた乱れの象りそれとも、な乱れを乱れの象りに映し浮かべて
浮かび透かされるなら、な透かされに貫き墜ちる眩み躙りの映え乱れて乱れ刳
られた痕かに圧し矯められる筈の、に映え已まない無さに貫き犯される振りを
偽る乱れの象りに煌めく、な煌めき限りに眩み躙りの映え乱れの仄か過ぎる細
みそれとも眩み異なりが導き接ぐ明るみなら明るみの、明るみ直されようも無
い穢れ振りそれとも眩みだけは拒み透かして浮かび燻む丸まりの剥き固まる限
りに拉がれ逸る窪まり偏って偏り潤み吐かれる、転げ駆られるかに躙り染みた
形（なり）を乱れの奥に匿い噴き昇らせ、に兆される高みの明るみを拒む汚さ
に透け侵され侵される儘に燻み崩れるそれとも薄み細まる限りに硬みに窄まり
砕かれる勢いに現れ尽きるかに細み傾ぐ暗みの弛みに繋がり急かれ棄て置かれ
る儘に静かさに浸り隠され硬みに傾ぐ現れと現れ尽きる尽きに混ざり込み失せ
る眩み異なりの狂い無さ振りの、已むとも無しに狂い無さ振りの危うさを失せ
纏うかに頑なに眩み異なりの透けに眩む硬みを拒み映し撥ね続けよう失せ纏い

の失せごと狂い失せ纏われるらしくに硬みを丸まらせる丸みの外の、丸みに窒
がれその外の内の外を除かれる外の足らなさに、虚ろを注がれ喘ぐかに細まり
窮まる、消され懸け開かれては数え溶かされる震えなら震え、で無いなら、なり
震え一つ限りへと浅み懸かる細みの丸みからの切り接がれが匂わす白でだけは
無い色に似た細み傾ぎの、傾ぐ程に暗み漂う弛みに繋がり急かれる静かさの静
かさ限りに自らを反り裂き已まない奥まり窮まり損ねる限りの柔らかみは、か
に丸みの外からその外の内へ隠り焦るかに重み昇る儘に象られようも無くにも、
な無さを纏い囲んで、な纏い囲みを丸みは頽れ唯外の内でしか無くに外を失い
漂うしか無い震えを虚ろの剳り貫かれに擬え損なう、な損なわれに受け映える
儘に外を外へ数え弾くかな丸みと細みのどちらもどちらの内で外な距たりそれ
とも距たり失せが映し距てる外の頽れ濁り透けるそれとも清まり匂う匂いが匂
いの外を撃ち匂わせる清まりの、その外しか無い姿が丸みを虚ろな震えに象り
現す、なら現れ尽き躍る躍り振りを喜ぶかに、な象りに絡み纏われる細みの向
きを砕き移ろわせ静まり尽きないらしくにも現れ已まない細みなら細み、で無
いなら細み異なりでも構わない、に狂い無く細みで有るしか無くに躙り渡る現
れ已ま無さの照り映えに随い巡る狂いの兆しを、頽れ濁らせて現れ已ま無さが
匿う透けの奥まりを噴き狭めさせる躙り渡り限りに匂い清まり撃たれ、な様の
浅みを濁りへと撃ち噴かし砕く、に砕かれ凝るなら凝り滲んで唯細みの狂い無

さの弛みとしか見通されないせいで揺らぎ掻かれる静かさの虚ろの外へか剞られ換わる果てなら果ての静まり尽きない儘に、揺らぎ掻かれを接ぎ失せ已む已みを窮め薄めさせる狂い無さそれとも、な狂い無さを映し逸る鈍み独りに換えられ果て静まる柔らかみの、砕け撒かれる限りの細みの向きを凌ぐ振りに自らを投げ溶かし溢れさせる狂いと狂い無さの距たりのその穢れを途切れ途切れにも象り痩せ細める弛みを、透け眩みな限りに棄て映えさせ数え弾く儘にか、な儘な柔らかみに浸り隠る眩みの躙り渡され照り已み窮まる浅みの濁りなら濁りに数え挟まれる細みに狂い無さを奥まらせる真下からのそれとも真下からでだけは無い数知れない下からの重みの昇りの象りの移ろい辿られ尽きない震えなら震えの柔らかみそれとも柔らかみの震えの次次に接ぎ超え凌がれる眩みの硬みに丸みを添えずには居られない狂い無さの、透け奥まって独り頽れ急き逸れる逸れ振りに締まる、な振りに換わる重み昇りのその自らの虚ろさを暴き已まない、丸みへ墜ち砕かれる様を何処へか映し移したい望みに潤み傷む乱れ振りの穢れ束ねられる徴の徴の内へ剞り接がれ抜かれる暗み痕の煌めきかな騒がしさ限りに曇り透ける穢れの、穢れ暈ける昇りようもない重みを、明明とも暗がりを籠め色付かせるかに犯し接ぐ棄てられた眩みの象りかに接がれ溢れる徴の象られかの距たりの距たりからの距たれ無さに捩れ凝る儘な透け奥まりそれとも、な奥まりに受け映える透けを纏うばかりかに細み尖る鋭さの兆しに溢れる暗が

りに接ぎ裏返され惑い固まる騒がしさかを、僅かな乱れも厭い回し滑らす果てに暗み痕の煌めきを仰ぎ拗るそれともその煌めきに仰がれ直る透け奥まりの、更に奥へと数えられる重み昇りの数を明るみ窮まらせる色を走らすその端から呑み掻き震わすかに映え暗むそれとも映え潤み測られる、な潤みの縁に澱み震え貫かれる静まりに導かれ墜ちる硬み限りに弛み磨かれ交わるなり交わり異なれば唯墜ちる限りな墜ち独りは、にも、な墜ちを抑え撥ね巡らす潤みの内に丸み暴かれる独り躙り眩む振りに狂い尽きるかに騒がしさを丸みの齎す苦さへ渡し換える、なら吐かれるように換え昇るしか無い、にも、な昇り墜ちる儘に奥まりの奥を傾ぎ窒ぐ昇りの暴かれ墜ちて丸みに容れ弾かれる様の苦くも脹れ艶めく磨かれ異なる異なりの甘さの徴ばかりを惑い乞う奥まりへの貫かれの、その暈け暗んで沈み懸ける浅みに貫かれ窒がり薄まる貫かれた奥まりを濁らせ映すかな濃やかな限りに狂い無くも濁りを墜とし怖じけさせる静かさかな、な静かさが怖ず怖ずと触れようとも為そうな丸みとの距たりそれとも距たり頽れに添い延びる様の幾つかは数えられそうな瑕を透かし薫らせる眩み躙りの兆そう辺りは、にしろ、な兆しの直ぐに消え直る儘に奥まりを拒み棄てるしか無いなら無いで、な拒み棄ての丸みとの距たり頽れに凭り掛かり弾かれる儘な躙り眩みから噴き偏るそれとも、な偏りとの距たりを触れられる硬みとして鈍らせ凝らせる煌めき汚れるかな透けを匿い静まらせる、な透けに磨かれ交わろうと丸

みとの距たり額れから昇り乱れる鈍みの照らし穢される先行きそれとも先行きを断たれた痕かに狭み匂い粘る清まり限りにそれとも清まり限りに過ぎるなら清まり異なって失せ纏われ失せ曝される硬みの滲み溢れる儘に、な儘な象り汲み騒がせよう暈け暗みの脇に穿たれ窒がれる虚ろなら虚ろの躙り眩みからの距たりの撒き刷かれそうな形（なり）に誘われ侵される明明と晒し匿われる危うさに仰がれ研がれよう高みへとも擦れ已まない、ならそれは危うさへ躙り澄まされるに違いなくに細まり棄てられる潤みとの距たりを測り濁らせよう静まりを辿り抉るそれとも潤みとの距たり独りの、独りなら汚れるしか無い圧し返しを貫く噴き極まり切る細まりの触れられない、かに狂い傾ぐ兆しを抜き暴こうかな狂い無さそれとも狂い無さだけを欠いて剞られ眩む重みに叛く触れられる距たり額れに、にも、な額れを接ぐしか無い孕み砕かれる狭い限りな冷え冷えとも温さに包まれる薄みを重ね根差し暈け尖る平たさの予め定められたらしい見晴らしそれとも唯平たさの暈けの圧され負ける儘な限りな見渡されを、硬く震え已まないなら震えごと消し明るませる明るみの断たれ已まない已ま無さを狂い無く接ぎ毀し溶かす、戯れ研がれ裂け接がれる明るみに高みからの鈍みに擬えられて挟み込まれ裂かれ已まない明るみの暗みそれとも明るみな儘に暗みを暗みに映す明るみめいて暗みを磨き距てる艶に圧し傾れる重みの一続きに流れ奥まる奥まりの墜ち迫りは、触れられる距たり額れの傾れ拡がる震えに凝り

噴かされ撥ねる暗みそれとも、な暗みが抜き已み掴んだかな震え凝りの已ま無さの暈ける限りに奥まりを唯細みかに纏い穢そう見渡されの見渡されとの距たりの測り数えられ損ない馴染むそれとも馴染み異なる儘な見渡されの穢れに溢れ研がれ脹れる光り擬きな、な擬かれる外の内がその内を拒み食らい剳って外を脱ぎ棄て繰る限りに外の光りなら光り、で無いなら内をも外をも厭い隔たる光り異なりに凍り丸まるそれとも角張り尽き無さを輪切られるように巡らす形（なり）の光りの奥を探るかに光りへ映し毀され昇る流れの脹れ已まずにも凍るかに光りに匿われた暗みを眩み躙りに連れ響かせるか、に、な連れ響きに翳み溶ける向きを望み損なうなら間近に過ぎる脹れ已みの已ま無さ限りに狂い傾ぐ狂い無さを欠く儘に暈ける限りに細みに纏い穢れるそれとも細みを纏われ穢す徴の暈け圧され艶染みる翳み溶けを光りの跡に擬え随える儘に一呑みにしそうな兆しの痕がその痕を接ぎ続けるしか無い痕で無さの、にしろ細みに連れ響かれる細みを纏われ穢す徴の欠片かの棄てられるように辛うじて響き残された姿なら姿は姿を異ならせるかにも、細みを厭うかにも、な徴の欠片を銜え尖るなら、に細まり撥ね弛んで拗り剳られる内向きな奥行きとの距たりの偏りが掻き容れ頽れ昇る、な細みの狂い無さ限りに仰ぎ嵌められ眩み静まって硬み染みた距たりとの距たりの計られようにも、な儘にその周りに失せ纏われ棄て映えさせられる硬みの緊く揺らぎ象られる薫りかな震えそれとも、な震えを透け清

まらせる狂い無さの頽れ透けて透ける儘に濁り離され、な離されの高みから逸れ裂ける、躙り滑り延びさせられ噴き研がれる凍る光りの流れ照らされるかに細みの暗みの窄まりに戯れ丸まろう、に磨かれ窒がれる眩み躙りの陰かな唯狂い無さ限りの象られを、な儘に繋げ狭めようと唯それとも距たりとしさ現れない光りを刻み数えるように急かし暗ませる限りな、な事独りの外に渡され窮まってよう明るみなら明るみ、で無いなら明るみの弛み溶ける厚みを焦がれ傾がせ、な傾ぎへの近過ぎる失われの失われ無さが振り向き翳し纏う、かにも、な翳しの重なり穢れるかに連れ響かせられる薫りの象り偏る偏りを薫らせる限りな狂い無さの内へ切り頽れるかな象られの何処へも置き捨てられようの無さに触れ已まない明るみの墜ち迫りに、迫り向かい急いて急き竦み振って延び切る陰に隠る円み異なりと異なり已みの隙に円み剥がれ阿るかに狂い無く翳され硬み狂わせられる遠回り為たげな疑いを吐き已まない儘に籠もり撃たれ速まる奥を舐め高めよう奥の暈け薄まる薄みの白み際立ち際に立て続けに連れ響くそれとも、響き竦み揉まれ固まる奥まりに響き腐り舞い沈む粘りめいた弛い限りに弛い高みに力尽くで誘われ砕ける硬みの曇り尖り回る速さそれとも、な速さを殺ぎ掻き揺らがせる幾重もの同じ陰染みた厚みの溶け暈かされ腐り走る窪まりへ磨き裏返された様を映し響かせる、な響かせの何の厚みも斬る重みに随い見晴るかされ偏ろう偏りの円みへの兆しでも焦がれ見たいかな低まりが延び拡が

らせる狭みの厚みに仄窄み残される形（なり）でか偽り象られそうに狭まり已まない已ま無さの朧に失せ爆ぜ染みて纏い穢れ翳される細みそれとも細み窮まり棄てられ細み限りへの触れられと距たり頽れる徴に墜ち丸まるなら丸みに脱ぎ直って映り濁る形（なり）の重ね拗る厚みに圧され入り巡るしか無い、予め、な圧され入りに震え異なって異なり揉まれる成り行きの果てを衝かれ容れる、重過ぎてだけ光る光りな濁り窮まりなら窮まりと鬩ぎ合い鈍る鈍みを撃ち已まない已ま無さに揉まれ尽きなり儘に、なら尽き無さの厚みを触れる貫かせ並べる、に尚も貫く触れの震えが震わす隙が隙を重ね貫かせる響き竦みの明明さこそ掠め高ぶらせなければならないと焦る潤み焦がれの乞いる偽られる隙を隙異なりに換え埋め捩らせるしか無く、にも、な隙異なりは異なり異なるしか無い儘に、な無さ限りなら透け抜かれる象られに灼かれ潤んで、な潤みの艶めき偏りを薫り接ぐ儘にその象られ直されに仰がれ馴染まれる、暈け逸れて滲み棄てられたその重みを積み数え潤すそれとも、な積み数え潤しを掻き揺らがせ戯れて戯れ昇る振りに潤し顧みられ、な儘に潤み躙るその象られに潤み戻され撃たれる明るみならの明るみ、で無いなら潤み躙りが自らを裂き拡げる裂け口から放たれる明るみ異なりの、その外の内に真っ直ぐに生まれ嘲られ隈無く裂かれ尽くされた数知れなげにも一繋がりかな裂け口の始まりを呑んだ始まり、なら始まりは無い儘に無い始まりが始まりに拒まれよう、かな、その外の内の外を外に現す為

に内から震え分かち触れられる明るみ異なりそれとも、な異なりへの疑いの外に潤み戻され撃たれる独り明るみなら明るみ異なりようも無くに失せ明るみ眩む限りな、明るみの放たれ抗われる外からの揺らぎ已ま無さそれとも、な已ま無さこそ偽りめき際立って揺らぎ失せ異なる徴を接ぎ温まそうかな冷え冷えとも明るみの脇へでも垂らされ高ぶる高ぶりの数えられ固められた数の犇めきそれとも犇めき響き失せ損なう姿に厚み頽れる、にも、な厚み頽れに凍り傾ぐ滑らかさの、穢れに覆われ弛む徴の乞われ企まれよう儘に溶け暈け沿われる暗み痕それとも、に厭われ崩され懸ける暗み痕を去り異なる企みの断ち騒がれ満たされ尽きよう汚れ回され涸れて透かされ残るしか無い震え明るみ潤む高ぶりの、窮まり崩れ、明るみの騒ぎ犇めきに匿われ響かされる潤み直しが延ばし騒がせた痕に、独りを拒み馴染む形（なり）に細まり揉まれ失せ懸け呑まれよう徴への独りでしか無い墜ち迫り、な墜ち迫りを去り渡り断って断ち随う儘に出分かれる内の一つ限りに頽れ象られるその一つ頽れながらに数を拒み窄ませ懸けて一つ頽れを含み生ませるざわめきを設け狂わせる円みへの僅かにも狂い欠ける徴の差し逸らされ痕を映し潤ませ延び澄ます淡さに纏わり穿たれる窪まりなら尖り過ぎよう翳み溶けに呑まれ吐かれる厚みの揉まれ抜け換わる換わり際に染み掠められるかにも、な染み掠められに誘われて現れ蒙る替わりに欺かれ通すらしい煌めき穿たれ棄てられ躙る穢れ響きの窪まりに舐められ狭められる儘に、

滑り戯け揺らめき凝る円みを映す移されの歪みに舐め懸けられよう兆しの重みと厚みの貫き逸らされる振りを翳し満たして軽み窮まった歪みの裂け塞がり繕われた細まり限りなら細みの延び裂け白む、延び澄まされる淡さなら淡さ、で無いなら淡さに纏わり穿たれる窪まりの穢れ窮まる底を撫で差し翳し潤ませる透かし頽れる向きに抜け変わり欠けるばかりに淡さを延び澄まし撃って撃ち異なり馴染むしか無いなら無いで、なさの絡み研ぐ淡さに渡され温む浮き断ちに温み砕け穢れて、穢れの直ぐに毀れ直り昇る歪みの裂け塞がり返る、唯硬みを狂い傾がせたかに連れ揉ませる冷え細まりそれとも、な細まりの翳され隙めく狂い傾がれ異なる延び澄まされを傾ぎ仄暈かし墜とす硬みの墜ち迫りは、潤み逸れて暈かされ異なり掻かれる剥かれた姿を呑み揺らがせる形（なり）に向かい凍り丸まって丸み棄てられる向きを呼び向かい異ならせる儘にも、な向きの孕み響く限りに丸み棄てられを犇めかそう円みの欠け騒ぎ映り呑まれる、な呑まれを撫で差し欠け尖らして暗み通される重み頽れを揉み失せさせる軽みそれとも軽みを細ませる明るみの眩みなら眩みに揉み失せる外に到り絶えるまでの内の接がれ際に潤み戻されよう撫で差し欠けは、重み頽れに傾れ懸かられる儘に棄て掠められ濁り窒がり接がれて接がれる儘に、なら窒がり欠け眩む眩み振りを振り切る厚み頽れの躙り逸らされを幾つかに湧かされ分かれて滑り戯け翳むしか無かろう翳みを厭い逸れる逸れ際の暗みの撥ね翳みに沿うしか無い、

にも、な翳みへ墜ち迫るそれとも墜ち騒がす徴の眩み躙りを延び澄まそうかに
響き暈け揉まれ狂わされる狂わされの積まれ接ぎ揺るがされる儘な硬みの仄暈
かされる向き限りに測られ馴染むそれとも測られ撫で拒まれる冷たさめいて崩
され頽れる崩れ異なり企まれよう向きを超え墜ちる墜とし移されに先駆ける硬
みの墜ち迫りの果てに、眩みの底を窪まり現すかに断ち騒がれる翳み躙りの透
け撥ねかを、な透け撥ねに添え垂らされ潤むかに過ぎ頽れ振る形（なり）を吐
き接ぐ硬みなら硬み、で無いなら硬み已まない硬みを撫で拒む拒み躙り揉まれ
て揉み騒がれ断たれる頽れかにも硬みを練り偽らせる象り限りに翳み溶かし添
う触れられる翳みとの距たりに窄み掻かれたかな痕なら痕の狂い傾がれるに違
いない無さの歪みに自ら傾ぎ直る薫りを断ち已まずに硬みから弾かれ立つかに
も、な薫りの歪みに覆われ逸る頽れながらに翳され湧く徴に満ち涸れ回され透
かし崩れるしか無い暗みの撥ね痕かとも翳み響かされ噴き分けられる淡さに迫
られ穿たれよう偽り象られ偽られて仰向けに潤み狂う狂いに匿われた狂い無さ
を呑み砕くかに、な狂い無さな姿を薫らせ戯れ凝る様を驕る円みとの距たりを
磨き渡し偏らせる、な偏りの触れられる明るみの円みとの距たりを硬み溶かし
消す細まり鈍る撥ね匿いなら匿いな儘に、な儘を潤み晒され、にも、に添え違
われ流れ澱む薫りの丸まり変わり払われる先に頽れ異なるに違いない細まり冷
え揉まれが齎し鈍り孕む見通しの分かち照らされる冷えの数の犇めき垂らされ

の陰かにも鈍みの煌めきに擬えられる明るみの硬みに行き着くしか無い、円みとの距たりの仄か過ぎる厚みそれとも厚みを圧し接ぎ抜く眩みの暈け果てた貫きに衒え拒まれ接がれる眩み躙り振るばかりにも、鈍みの煌めきを硬み窄まらせるそれとも、な窄まらせに透かし圧され照らされて煌めく徴擬きにもその徴を澄ませ震わす、円みとの距たりを拭い去った厚みの明るみに呑み揉まれ冷やされる儘な揺らぎかな煌めきの厭い滲み細まる向きへの圧し照らされかに、鋭さ限りの独り掠り延ばされよう硬みの弛みを向く鋭さそれとも、な弛みの向きを細まりの揉まれ溶け振りを越え継ぐ数それとも数を拒む限りに円みとの距たりを焦り顧みる形（なり）の偏りを滑る陰の切れ目かに躍り断たれる向きに呑まれ舐め絡められる窪まりの接ぎ撓み乱れる、幾重にも偏り已まない柔らかみ独りに窒がれる勢いは、な儘に抜け磨き反されて光りかに、な柔らかみが独り柔らかみを接ぐ窪まりの撓みに窒がれようかにも、な窒がりに接がれ衒えられる細み限りな柔らかみからの翻りを真下に躍り戯れさせるにしろ、な躍り戯れは直ぐに暈け汚れ傾がれる陰の窪まりに呑まれ砕かれるかな形（なり）を晒し凝らす儘に溶け偽り象られよう象りの、円みとの距たりに偽りを継いで映り沈み狂う儘かな墜ち窒がる様を幾つも繋げ映し移し為て、な映し移しに纏わり差される穢れを刳り貫いて細まりの鈍り孕みを薫らせる虚ろかな象り偽り、なら執濃くも穢れ繰られよう虚ろを象る窪まりを匿う穢れの刳り貫かれでも有ろう、

かに光り鈍る虚ろの薫りを砕き沈めさせるかな潤みへの抗い頽れに添う筈の、
光る限りに虚ろで虚ろの触れられ撃たれたい焦がれの欠片を転がし騒がすかに
冴え接ぎ已まない潤み穿たれへと換わり棄てられる薫りの窪まりそれとも光り
の易易と潤み穿たれ尽きない穢れ繰られに圧される焦がれの欠片の裏を撫で差
すかな光りの粘りに抗う照り映え振りは、な映えを移し映す望みに換え接ぎ窒
がれよう触れられない潤み穿たれの捩れを薫らせるかに光らせ、な光らせを光
りの陰の裏から舐め鈍らす潤みのさも陰の裏からの厚みの勢いが勢いを急き貫
き抜く様に似せて潤み穿たれる、な潤み穿たれの唯硬み薄まり已まない儘な穢
れの照り映えそれとも映え窪まり傾がれようかにも、な傾がれに撫で差し欠け
ようと誘うしか無い眩みかな潤みの穢れの穢れ偽られるしか無い偏り、な偏り
では眩みを呑み剥くしか無かろうかにも穢れ偽られに掬い躍らされる眩みの縁
の撥ね躍るかな光りの厚みが捩らせる明明と映えるしか無い潤み穿たれに磨り
翻される真下への偏りを貫き抜こうとでもするに違いない触れられない穢れな
ら始めから穢れでも無くに触れられ無さの外の明るみの流れに塗れるように穿
たれ弛み頽れ放たれる円みとの距たりが陰かに添わせる歪みを、円みとの距た
りを払い接ぐ儘にも穿たれを冴え剥がして戯れ辿られる兆しに紛れるせいで細
まり潤み穿たれ滑って潤む細まりを吸い昇らせ撫で越えよう向きに背く限りに
傾げ抗われる端でかに揺らぎ縮む真下への偏りの、偏りの向きを酷く温くに埋

め逸る為の穢れの浄められかな円みとの距たりとの距たりが誘い込まれる様の束ね磨かれるなら、な磨かれに纏わり逸れるかに頑なにさも小さな重みの漬れ冷やされる儘に暗み逸ろう暗み痕かに暗みを暈かす柔らかな厚みに磨き過ぎられるなら厚みは柔らかさに惑い固まき裂かれるしか無くに漂い滑り尽きよう向きの欠片を集め損なうかにも、な向きの欠片に追い眩もうと厚み独りが絶たれ放たれたかに窒がり毀れる形（なり）を拉き群がらせては束ね頽れ、に遠い眩みとの距たりに軽みを嵌め滑らす厚みの重みを計り穿ちその穿たれる儘に穢れを透かし噴かす潤みの兆しを汲み逸らす窪まりなら窪まり、で無いなら唯穿たれ漬れた儘にその陰の傾きを冴え滲ませる、重みの掠り延ばされる限りに触れられるそれとも触れられ異なる異なりに添い逸れる向きの丸みの縁を透かし脅す振りを振り翳すかにも細か過ぎれば数知れ無げな見掛けを辿り窮めようと焦がれる筈の細みの淡さが凝り見せる失せた円みとの距たりの歪み窄まる硬みに犯されて潤み捩れ暈けるしか無い硬み細まりかな痕に接がれよう細みの貫き翳る酷く柔らかげに丸みめいた艶を剥く厚みそれとも厚みの唯勢いを、丸みめくせいで棄てられるしか無い艶を呑み剥き直す為には必ず暗く映え漂おう潤み抗われては厚みを厭うかに躍らされる細みの脱け殻かな真下に映え直され磨かれ薄まる虚ろなら虚ろの掬い拉がれる様に纏わり躍る、硬みの翻りを細み窮まる瑕に刻もう淡さの刳られ映える映えとの距たりに映え沈む陰に映る潤みの尖り

揺れる底かに濡れ平らぐ光りの眩み躙りそれとも、潤み揺らめきに掠め圧されるる限りな、虚ろを幾つかの裂かれた玉に象り崩して転がし偏る偏りの厚みに送られ果てるなら、な果てられを仄窄ませその様を裏向きに拗り仰がせる真下それとも真下でだけは無くに墜ち極まる底に磨かれ映る唯暗みを拉がせ滲む丸みの欠片を束ね捩らせずには済まない翳りに粘り染みる傾ぎ光る縁の削られて小さ過ぎる丸みの僅かに暗む振りを圧し昇らせる、にも、な圧し昇らせを鈍り濺ませ接ぐ偏りに分かち窒がれる明るみが明るみを裂き暗ませて棘棘と煌めき渡る厚みの裏を剥がれ明るまされた様の重そうに暗みを越え墜ちる窄まりの明明と厚みを孕みたげな脹らみそれとも、厚みを厭い斥ける煌めきを匿い潤ませ、なるめきから滲み裂け衝かれる丸丸と硬み閉じる厚みとの距たりから搾り汚されるる硬みの砕け接がれる形（なり）に映り移る透けを象りたいらしい撓りなら撓り、で無いなら光りから硬みを剥がし穢し刳る失せた煌めきの向きに擬えられる薫りからの向きを砕く衝き躍らされか、は、な向きを照り映え弛ませ崩す向きへ明るみが裂き拡げる眩みに纏わり暈ける穢れの暗み晒されを刻み溶かし凝らせるかに眩み鈍る儘な真下への偏りを匿い貫く細みの明るみ限りに暗みの裂け沈み拡がる先を焦がれるかな奥まり果てない唯、な自らへの偏りに偏り逸ろうにも、な逸り偏られる穢れの暗み晒されを斥け窒がる窒がりの奥まり脹れ拡がる形（なり）を頼んで明るみから弾かれたかな硬みの撓りの拡がる暗みに

衒え穿たれる細みの厚みを象り映えさせるらしい潤み騒がしい透けなら透けの穢れを滲み暗ませるそれとも、な暗ませを映し吐いて吐く儘な細切れな冷たさを犇めき暈かす鈍みの陰かに繰られ震える、透けの弛みを躍らせ拒む明るみの潤み騒がしい透けを棄て撫で墜とす様の、な様を弄び断ち添う儘に騒がせ戯れる、な戯れい奥に透けの淡みが躙り構えて居よう透け撥ねるばかりに濁り昇り先細る兆しの、兆しより映え逸り厚み窄まって兆しを丸みの粘りに呑ませ延ばそう果てなら果てが独り定められたげにその丸みを拒む硬みを冷え研ぐ儘に硬み已まないで、な已ま無さ限りを籠め接ぎ重ねる眩みの有りもしない厚みを消し包むかな汚れ穿たれる硬みに貫き躍らされ継がれる淡みなら淡み、で無いなら貫き躍らされの燻み辿られる明るみに纏わり凝る騒がしげな煌めきの淡い限りな透けの弛みの触れられない明明さに集り刺さる硬みそれとも硬みに包み尖らされる仄か過ぎるせいで潰れ震える真ん中を衝き転がる暗みにしか係われない透けの弛みの撥ね穢されよう兆しの潤み垂らし損なわれる明明と眩み頽れる騒がしげな貫かれを丸い痕を狂い無く残して切り刻もう眩み頽れとの切り結びそれとも、な様の暈け窪まり翳されるしか無い潤みへとさえ至れない弱みに束ね剥かれる煌めきの騒がしげに撥ね粘る硬みに擬え乾く乾きに映るかに吐き接がれる硬みを撫でる狂い数えられ映える映えに垂らされ折れるらしい折れる向きの戯れに溶かされて渦を抱え込まされるかな透けの潤み絶たれ暗み始まる、

光りの腐った薫りを冷やし漂わせるかな真下それとも、な真下へ窄まり渦巻かれる硬みの照り映えそれとも、な硬みを映え換えさせる尖り溜められた明るみの鋭さの、窒がり尖り鈍るらしくに鈍みに燻され爛れる煌めきの貫かれの縮み衝かれるなら、に衝かれるの内に限られる触れられない明るみに噛まれ揉まれて淡く潤み丸まり欠けるしか無い無さに窄まり纏わる、予め、な丸まり欠けと異なるさも虚ろな様の小ささを積み光らせ奥まらせる眩み曝かれに添い濡れる柔らかい細みに嵌まり埋もれ掛ける煌めき鈍りの柔らか過ぎる陰かに奥まり損なうかないの上っ面を滑り逸れる逸れの暈け縮む僅かな虚ろを先走らせようかに堕ち撥ねられ、な撥ねられへの裏向きへ滑り尖り濃やかに縮み脹れる、な脹れとの隠れた距たりの更に低くへ距たり溶ける徴が溢れ滑り角張り際立つ際立ちに円みの欠片を与えようと眩み躙り揉まれる先なら先に先とは狂い無く異なる灼かれ燻んだような陰を消し隠らすかな傾きそれとも傾かなさに迫り纏い逸れる透けた厚みの粘りだけが粗く浮き尖る、かにも浮くより先に尖り已むなら、な已みを匿い回す真下からの透けの撥ね昇り躍る踊り振りの暗みへ滑り象られる象られの濁り固まるしなやかさを誇り偽り滑らそう細みの細みから細みを隠す舞い回し損ない凝る凝りに滲み垂れる重みそれとも重みを静かに窄まらせ輝かせよう欠け果てた円みへの流れの果てに眩み躙りの脇を撫で過ぎ戻る偏りに暈かされ映える映えを細かに刻み震わせ止める軽みなら軽みの硬みに向かい温

む一筋の向きのみを僅かに逸らす仄冷たさの虚ろに裏から侵されたかな軽み潤みの陰そっくりに象られよう穴の厚みの匂いめいた奥まりの冷たさそれとも、な奥まりを疾っくに埋め沈め裂いた円への欠片すら無さの冴え渡り映える触れられる弛みかに狂い無く、な弛みの脇痕回り滑る色なら色、で無いなら色の穢れを滲ませ細まらせた痕なら痕のその痕に阿り堕ちる真下への真下ごと断ち切られ浮き丸まり懸ける、な真下を拒む影を絶ち拒んで拒み潤む隙に埋もれ切り込む影かな偏りなら偏りの、その見えもしない縁を刻み出したかな丸み振りの偽りめいた真下からの絶ち噴きに滲み切り傾げられる丸みの唯薫るだけかな、にしろそれで却って薫り直る色なら色かに明らかに贋の色を接ぎ撥ね凝らせる濁り果てた果てに圧し接ぎ丸まり懸ける、明るみ暗む傾きの映え吐かれる光りの流れかな隙を埋め開き窒ぐ細まりの重なり脹らむ硬みを真下へばかり刻み延ばし暈かして滲ます細みに準えられてしか明るめない僅かな泥の厚み回るかに光りを呼び腐らす真下との距たりが行き成りの明るみ已みを溶かし散らす、に明るみ已みの明るみだけが切り頽れれば已みばかりの失せた円みを知り腐るかに震え尖り匿われる薫りそれとも、な薫りから醸される陰の捻り巡らされ窄み掛ける数を増やし已まない真下への兆しに撃ち震え触れられる、な触れられに竦み脹れる明るみの潤み痕かに狂い無く透け撥ね奥まる奥まりに浸み暈ける薫りからの陰へ堕ち添え斥けられる様の誤りがさも吐き接がれる硬みを纏う成り

行きに硬み已まない疑いを噴き彩らす、に、な誤り限りに照り映え澱む潤みなら灼き垂らされるしか無い煌めきが煌めきを圧し絶って滲ます鈍みの撥ね噴き尖り損なう損ないに纏わり映る数知れ無げな撃ち掠められるかな穢れそれとも、な穢れでだけは無い汚れ果てた透けが映し吐き接ぎ穿つ消された明るみかな浅過ぎる窪まり限りな明るみの散り揉まれる失せるかに惑うかな形（なり）に形（なり）が縋り堕ちる内に溜まり弾ける上滑り砕け暗む偏りなら偏り、で無いなら、な偏りを眩み偽り象る眩みより偽りな淡い陰に絞め嵌められる震え透ける硬み限りな円みの欠け潤みに圧し翳される小さくも小ささを大きさより大きな小ささで凌ぎ越える振りを翳し潤ませるそれとも、な潤みから搾り迫る硬い暗み限りな陰の失せの漂い偏り捩れる陰を灼き裏返し逸る明明さそれとも明明さ異なる明明さとの距たりを食い腐らせる腐りの潤みの脇へ逃げ細まって行こう、照らされ冷えるばかりに確かに数えられる数を溶かし固まらせ固まり盛（さか）らせる儘な偏りに呑まれ紛れる潤み擬きな厚みが匿う、照らされ裂け霞み張られる張りの強（こわ）過ぎて潤みを更に激しく腐らせるかな穢れた硬みに衝き巡る儘にされる裂け目の痕かに窒がり傾ぎ滑り堕ち懸ける向きの綻び裂ける様が様を暈かし後退らせる硬み異なる薫りの冷たさから仄知れるそれとも、な仄知れの噴き巻かれ散る間際の間際ごと掬い躍らされる切れ目だけが際立つらしい影が影の後ろに影を引き尖らせ窄ませる眩みなら眩み、で無いなら眩み

を窒ぎ腐らせ刺刺しい厚みに砕き触れさせる、に触れられる厚みとの距たりを測り損なうしか無くに眩みを追い逃す窄まりへ堕ち爆ぜる、な爆ぜ限りに眩みを眩み擬きに換える振りで翻らす軽みなら軽みの軽みより淡く翳され漂う眩み擬きを唯平らかに暗く映したいにしみ何処へも映せずに軽みな限りにも垂れ揺らぐ、な垂れ揺らぎの犇めきが薫りろたせる粗粗と凝り暈かされる粘り着きの数えられるかな舞い絶たれが滲ます立軽みを毀したげに数への疑いを定め焦がれて暈け際立つ明明と汚れを醸す滲、の後退りを追い撫で逸って尖り鈍る鈍みだけが尖り延び頽れ果て逸れる向きに背くかな眩み躙りを微かに映し穢す、な穢しを唯乞い続けるしか無い輝きへと隠らす重みなら重みは、疾っくに軽み異なりに換えられ尽きて汚れ撓垂れる明るみに侵されて窒がりそれとも窒がり侵されれ尽きないなら、な窒がりに随い叛くばかりな形︵なり︶を翳し貫く儘に明るみより明るい虚しさに確と焦がれる振りへの疑いの疑いを虚しく出来る積もりでかに吐き垂らしては垂らし明るませ、な限りにも頽れるしか無い無さの暗み窄みの滑り重み偽る暗みとの距たりに有りもしない明るみを贋の虚ろに紛れ崩すかに探し象りたい望みの頽れるに任される澱みに独り繰られ狂う振りを象り放って直ぐ遅れて来そうな狭みに真っ直ぐに囚われ逸る、に逸り頽れるしか無いならないで頽れ直り腐る匂いを偽り放つかに狭みを硬く凝る火で焦がすらしい揉み粘り閉ざされる狭み限りの穴の姿なりを翳し擬えよう振りに自ら拉がれ

潤みそれとも潤み異なる窄まりへ窄まりごとの彩りを砕いて様様に堕ちる振り
を数え已む儘に、な已みに拉がれ凍る喜びを磨いては、に磨かれ細り擦り切れ
る様と戯れ遊ぶ振りを映し滑らせられる、な映し滑らされを狂い無く欺ける円
みの欠片の戯れ甦らされに覗き堕ちては映し滑らされの甦りかを映し滑らされ
に重ねられようかな徴の内を覗き砕き刳り拡げる細み限りな震えそれとも震え
鈍るしか無くて震え異なろうかにも、な徴に熱く係わり尖り窒がり、な窒がり
と激しい限りに擡げ合い係わり直るならば円みの欠片に進んで欺かれようとしな
ければ済まない凍るような窒がりそれとも、凍るように円みを剥いで唯欠片の
並び異なる異なりに躙り堕ち懸け凍る振りを、な振りを振りで欺くのを筋立た
せながらにも凍るような窒がりから円みの偽りを裏向きに貫き滲まそうと尚躙
り堕ち懸けるのを已めない無さ限りに偏らされる窒がりなら暈けるばかりな抛
り棄てられ直ぐに拾われ裂かれ尖り潰される粗粗と粘らされる偏らされの醜げ
に贋めこう、穢れを映し損なうばかりかに影も無い円みの欠片で無さを映し頽
れさせた贋の喜び明るまれる明るみからの欺き刳られる細み拡がり限りに拡が
りを含み震え懸ける震え失せが覆い翳そうとする独り、な失せを穢れ放ち穢さ
れ放たれるそれをそれが匿って揺れ濁る細みに予め光りの濁り窮まりかに知ら
されてよう硬みの纏わり罅割れて厚み鈍らせる鈍みの暈けの暈け窒がりとの係
わりに凭れ刻まれ抗われる為に象られる濁り透けるそれとも透け潤み棄てられ

翳され堕ちて却って有り有りと眩み躙る様を鈍り煌めかせ贋の明るみの凝り過ぎる内へかに垂れ繰られ噴き静まるなら、な静まりを吐いた水を啜り殖やしては時を稼ぐかに弄り艶めかせるかな濁り透けの重たげな舞い回しそれとも舞い回し已みに惹き馴染み穢れ尽きるなら穢れ刻まれ滞るしか無くに翳み潤み象られる象られのあからさまに孕み断たれる程に象られ果てられない丸みを磨き転げさせる透け濁りの濁り鈍りを薄め穢す透けに匿われる透け撥ねる振り限りに貫き已むなら已みの、已み継がれて継がれ照り映え断たれ湧き已まない虚ろの犇めきに靡き撫で過ぎられ弛み透け直る内へなら濁りを撃ち誘（いざな）おう、にも、な透けの逸り頽れ重み重なる変わりように抗い紛れ追われ暗む煌めき擬きな躍り束ねられ吊り砕かれ揺らぐ明明とも暗み重ね塗られる暗みを溶かし吐くかな暗みへと滑り仄暈かされるそれとも、な仄暈かされを束ね剥く儘に約め毀れる透けの紛れを匂わせ圧し噴かされる向きへ痺れ縁取られ延ばされ凝る荒ぶる硬みそれとも熱過ぎて透け失せる厚みの直ぐに失せ放たれ抛り剥かれ翳されれる、に、な翳されに窒がり抗う兆しを吐き厚み静められる滲み裏打たれるかに冴え硬み窄まり流され凝り沈み懸ける潤み瀉みの見えない真下かへ窄まるかしか無いなら、な無さかに距たり接ぎ沿う丸み拡げ薄められる窒がりへ穿たれ頽れ奥まって明明とも眩み滑るばかりに、な奥まりから已まず尖り齎される、塞がりを凍らせ重ねずらす震えなら震え、で無いなら震え拒みを銜え貫く為の

うらるら鈍限と鋭まに拡れてに更すき鈍
なせ狭向らりすさら違が差眩もに狭塞み
鈍らいきさにる、せいりさみ、微さがに
みれ程にれ映熱でるな窒れのなかにり囚
限るに沿るりさ無微いがる底仄な匿果わ
りな測い鈍頽をいか筈る小に透揺わてれ
ならる移みれ隠なさの明さ底けられな欺
鈍滑にりの舐ららに仄明過のばめるいか
みら適映、めす鋭追透とぎ無かき筈明れ
独そうろ窒尖厚さいけ澱るさりにのる狂
りう重うがらみに縋さみ程をの換穢みい、
がとさとりさ、匿るえ穢に裂撫えれの、
独、とす爆れなわか焦れ酷けでた抛已に
りなのるぜ冴厚れにがるくた撓くらみ狂
に距距眩るえみ損円しそ濁震めもれ窮い
毀たたみ爆剥のなみ砕れりえ刻、るま已
さりり躙ぜか熱わ尖こと凝をまな兆るま
れかのり様れされりうもり繕れ望し眺な
縁ら定ののるがる渡と、撓おるみをめい
取波め痕薄、一鈍ろ硬なっう滑に探の限
らの難かく円息さうく澱てとら仄ろ徴り
れ底さを磨みにのと凍み撓すか透うのに
狭へに掠かは散円凍り穢るるなけと湧震
みと拘めれ失りみり傾れ程よ震撫躙きえ
窮かり吊粘せ蒔尖攻れこにうえでり眩拒
まに弱っり尖かりめるそ撓にを潰縮むみ
り撥るて沈りれ渡延限厭る翳態さみ果を
そねし吊み渡てりばりい先しとれ震て拒
れ懸かる仰る巻をさな拒に兆荒腐えのみ
とけ無為がばか割れ震ん捩さ削らる、果異
もらいのれかれきるえでれせりさ、てな
窮れ無重るり歪散鋭を掬捥よにれななら
まてささ向にむらさ堕わがう眩る震させ
り居ををき眺偏そなちれれとま、えがる
異そ滑測なめりうら窮るる傾せかを醸行

なろうにも異なりを厭うかなら、な異なりに擦り寄り滲む汚げにも、な汚げが孕む固められた虚ろめいた偏りに鋭い刃に滑り込まれるかな澱み煌めきの潤み奥まりめく強張りの薄い限りに切り重ねられずれさら並ばされる並ばされに纏わり溶けながらに溶け頽れる痕の細み犇めく鋭さそれとも、な鋭さを固められた虚ろめく偏りの細みで貫きずらし流す、な細み犇めきとの冷たい距たりの狂い無く柔らか過ぎて陰が陰を照らし消すかな陰が匿う明るみの暗み始まるしか無い重みに擬えられよう、尚も汚げに浸み濡らされて拭い棄てられない細み犇めきとも距たり、に固められた虚ろの硬みを奥まり据えられるかに暈け傷もう、陰の陰に陰めいた形（なり）で仄圧し照らされ翳され、な翳されが孕む虚ろからの眩み撥ねられを捏ね傷められるかに損ない象られる、な上辺ばかりに縮み映り硬み重なる潤みに似た滲み拡がりと滲み拡がり異なりとの入れ違い尽きない柔らかみそれとも、に透かされ奥まり曇る仄圧し照らされの圧しの欠片を入り組み窮めて浸みさせ窒ぎ曝すしか無い眩みの眩み躙りへと暗みを穿とう硬みそれとも、な硬みの兆しばかり溢れ逸れ暈ける、な暈けが導く距たりへの陰の現れの齎す硬みの抛り棄てられるかな一振りそれとも一跨ぎに跨ぎ渡らされた眩み躙りの狂い無くも僅か過ぎて失せ抜かれ凝る柔らかみそれとも、に曝かれ侵される窒ぎ曝され震え返るしか無くにも凝り固まる振りなら翳せる明るみ異なりを撥ね接ぎ象ろう、に象られる程に透かし細められて白み昇る煌めき擬き

な先が先を捻り折り堕とす形（なり）の陰が陰を産み延ばし已まない已ま無さ
限りに、な無さに隠れ叛く裏向く向きの向きの消え失せを接ぎ遅らそうと刺さ
る窪まりの鈍り果て煌めく仄柔らかみの仄かさを剥がせれて痛痛しそうにも柔
らか過ぎるなら硬み澱む重みを撥ね穢そう穢れの堕ち接がれ失せる失せに纏わ
り弱まる、偏り果てるなら真上を真下の裏の失せた真上を真下と異なる辺りに
映そう動きに戦ぐ透け穢れへと焦がれ昇らす、に、、な昇らせに添い嵌まり濡れ
よう艶の重みなら重み、で無いなら重み艶めく艶の艶異なり暈け凝る硬みに溢
れ傾く、触れられる暈け眩みに艶めき固まる重みしか無いかな明るみの整い乱
れる乱れの狂い無い放たれは、な儘に戯れに虚ろを込め塞いだかな重げな姿を
晒し隠らせ、な隠らせを刺し貫きたくも均しく犯され重なり寄り凌がれる、脹
れ尖り潰れる様を切り分けられる限りに切り分け接いだ接ぎ目の狭過る陰に覗
く奥かを浅み潤う限りに痛みに走り拗らす拗り方の後を躍り舐めるかに硬み捩
り逸れ懸ける動きを乞う儘に、な舐め躍りが裂き象ろうとする自らの穢れかな
陰の滑り連なる整え静められた鋭さそれとも、な鋭さに匿われた丸み整い懸け
て重たげに触れられる、陰を溜め膨らせたかな距たりの真下しか無い無さに無
さが絡み昇り侵し食い合って食い合う儘に潤み揺らめきそれとも、な潤みを侵
し固まらせる揺らめきの矯め外される向きに向きの無さを差し向ける明るみか
な柔らかみそれとも、な向きの無さ限りに曝され逸るかに柔らかみを明るみに

換えるかな潤みを拗り剥がす、に剥がされる向きが待つ明るみの外に凝り翳さ
れる小さい限りな陰の一震えの震えを止める程に濃やかに乱れよう、明るみ異
なる異なりが含み奥まらせた奥の殖え鈍り澱むかに積まれ沈む陰の独り躍り窒
がって窒がりと窒がりの外を内の外へと裏返そうと舐め苛む、な舐め苛みを懈
げに晒し寄せて硬みに換え詰まるなら陰を凝り丸まらせ損なわせるに違いない、
な損なわせを傷の有り有りと鮮やかな姿に穢し走らせる暗みの裏に象られ焦が
れる裂け潤む静まりのそれぞれに切り離された光りの硬みかな薄い限りに内へ
窄まる厚みの重なりが研ぎ濡らし已まない仄溢れ透ける眩みなら眩み、で無い
なら仄溢れ透けを距たり照らす眩み騒ぐなら眩み失せる儘に曇り明るむ内を腐
らすかに照らし隠す柔らかみに絞め断たれよう、明るみに誘われ曇り曝される
予め窒がり穿たれた筈の重過ぎて穢れすら届かない眩みの真下の穢れに易易と
照らされ直され弛（たる）むように穢れ染みて固められる儘にも竦み震える狂
い無さに自らを裂き阿る振りとは距たり偽り逸れそれとも逸れ異なり、な異な
りの陰を少しでも低くに追い接ごうと撥ね延びる形（なり）を抛り棄てるかに
尖り頽れるのを乞い眩むなら眩み窄まる儘に窄まりの窮みを窒ぎ掻いて掻き弾
かれる勢いに絶たれ絶たれて吐き接がれるようかに已まない狂い無く細みに随い
尖り延ばされる儘に更に研ぎ凝らされるかに高ぶり曲がり静まる、な静まりに
灼かれ圧し昇らされようかな形（なり）を傾がせたい重みを塗り付けるかに曝

し躝らせ、かにも、な躝らせに纏わる穢れで無いなら唯重みとだけ暈け知れ抜ける、上辺は棘棘と騒ぎ暗むようでも上辺とは遥かに隔たり沈められ凝る暈け知らされ擬きな眩み失せを匿う窪まり冷め果てた影も無い円みの影の痕かなその贋めく煌めき限りな縁ばかりに縁でさえ無くに堕ち揺らぎ暈け腐り尖り奥まり伏せ傾がれながらに探られ鈍み震える震え、で無いなら震え鈍みの知られ暈かされる静まりの、鈍みを厭い翳す振りの濁りを透け貫き匿わせる、もう震えに擬えられる震え已みでしか無いか、を巡り歪めて透けを矯め撫で摩る為に乞われる奥まりに窒がり躝られる影も無いなら円みで無いのも明らかな円みの影の痕の曝され頽れかな明るみの拗り細まる尖りようを映し真似たい眩み失せの硬みなら硬み失せに繋がる、眩み失せを疾っくに棄て灼いたかな透けるせいで薄みめいた形（なり）を強いられる、硬みに掻かれ犯されたいかな狂い無い明るみなら明るみ、で無いなら拉がれ果てて暗み窪まり凝らされて暗みを尖り抜けようとする底を斜めに削り穢したげに盛（さか）る静かさかな粗げに圧し煌めかされる縁ばかりな儘にもその暈け知られるなら逃がすように先かが明るみから暈け逸れるらしくに濡らされる様を映そうとして映せないらしい潤みに擬えられ失せ懸け翳される鈍みの、鈍み眩みたいかな頽れ振りが独り過ぎ奥まろう圧され昇る丸みに乞われる向きが求められなければならないかに奥まり懸ける影を探り断ったに違いない鈍みは低みへと抉り逸れる筈の硬みめいた延び窄

まりに昇り捻られ堕ち、に奥まり重ね揺らがされる限りに匿われ延び均されれ拡がり硬み連ねられ、にも疾っくに連ね已んで硬みは更に硬みを暈け巡る硬みと異なる悉くを潰し舐める刺刺しさを受け撥ねさせ、にも、な刺刺しさが匿い損なう硬み連なりの重さを偽りに見せ掛けながらにも刺刺しさ擬きな振りを竦ませ逸らせよう、硬み連ねられを揺らぎ薄まるかには刺刺しくも棘とは異ならせよう眩み鈍みからの汚れ果て距たる濁り透けの鋭さそれとも、に濁り拡がる内に透けの煌めきを全て潰し棄てようと焦がれ透け、な焦がれ独りが焦がれへの疑いを乞い吐こうなりに吐かれ貫かれるなら焦がれの真下に乞われよう、に汚れるしか無い焦がれから暈け逸れて自らを灼き浄めるかな姿の厚み振りに酔うらしい、さも透けと一つな乞い濁りは、に乞う先の滲みの欠片に僅かに兆す濁り已むなら穢れを翳し整えよう透けの堕ち惑うかな振りを焦がれに浸し歪ませ、な歪みに数知れなげにも酷く乏しげに映り泥む煌めきの小さ過ぎるせいで透け拡がる拡がりを厚く閉ざし穢すしか無くにも穢しようの無いのも明らかな硬み狂う限りに潤み窒がる潰れ果てた煌めきの姿をほんの幾つか重く転がし消す濁りの圧し暗みなら暗みが嵌まる途切れ窄まり接がれる隙の無い丸みを象りたいかに騒がしげな潤みへの拒みの拒む儘な限りに透けを濁り果てさせ窒ぎ開く開かれの、暗みを乞う形（なり）を裂くかに仄照らされ抉られる潤みの疾っくに失せた拡がりを滲み矯める、硬みの暈け裂く窒がりの柔らか過ぎよう厚みそれ

とも、な厚みに纏わる色なら色の揺られる薫りの底にそっと硬みを擬える静かさの澱み震える震えの色なら色に犯され掻かれる掻かれ痕なら痕の揺らぎ窪まるしか無くにも、な痕に映る色を拒み呑んで強張り濡れる暗みの細みを乞う一並びを傾げ歪ませるそれとも、な傾がれる歪みを窄み溢れさせて透けを貫く光りに圧され溶けるかな色の色とは距たり異なる薫りの底の硬み自らに捩切られて硬み果てない硬みを掻き回そうと望むばかりな、明るみとの拗（こじ）れ粘りを重げに引き摺り棄てる、に棄てられ揺らぎ静まり偏って硬みを揺らし象り暗ませる陰の痕の澱み灼かれるかな色なら色、で無いなら色に添い撥ねられて薫り異なる光りに匿われる光りで無さに覗き堕とされるかに刺さり潤おう仄窄み溢れ吐かれる、にも、な吐かれ已みの接ぎ已もうかにも已み頽れ懸け已み連ねられ、に棄て翳されるのか潤いばかりが色など確り拒み弄んで拒み暗み、に暗みから滲む陰なら陰の、何の色も脹らそう穢れの浄められたかに陰より細い姿の姿で有りようも無いなら（二〇二四年八月二日）

姿で無さを射し照らすその陰より淡く暈け眩もう予め頽れ透ける透けに明るむ明るみを穢し晒す企みの奥まり振りに高ぶり揺らいで冴え沈む厚みに触れ透かされ掠め擦れ矯められる先を折り惑わせ脹らすかな明るみが孕み潤まそう円み

の失せ果てに隠り溶け細まる限りに逸れ貫かれる暈け眩みを真似損なう、に急き暈け懸けて眩み異なるかなら暈けに滲み堕ちる深み擬きな圧しの唯尖って細まるばかりに円みの失せ果てが穢し接いだ薄い限りに殆ど白い陰の残り滓が口を開けるかな、に口を開ける陰の陰を消し奥まり翳す奥まりの底なら底、で無いなら無い底が底の無さを揺らぎ疵付けて疵を潰し合わせては、な潰され交わり倒され合わされた暗みに余りに柔らかげに犯されるせいか棘棘とも静まり窮まる窮まりに映り狂う暈け知れるばかりに暈けを絶ち暴れ失せさせる失せさせの、失せさせな儘な潤みを硬みで満たそう眩みの穢れ奥まる騒がしさの躙り透ける窪まりの垂れ捩られる潤み振りの濡れるようかにも堕ち撥ね縮み損なう、にも、に縮み奥まりを穿ち乞うしか無い暈け眩みなら、な眩みのその外へと練り拋られた外の眩み暈けに拒まれ圧される儘に穢れ異なりめくかに固まり探られて穢れを縮み奥まりの奥へとも照らし潤ませ換えようと逸る、な逸りの逸り換えられ遅らされる程に酷く遅れ直される儘に、陰の奥まりが噴き曝し已まない疵なら疵でも無くに暈けの暴れ失せにも擬えられよう形（なり）を撫で翳し、ない形（なり）から溢れ失せる明るみの冴え窒がる窒がりの剥がれ已まない限りな明明と漂い偏るかにも、なる偏りに惑い浄め回されよう細みなら細みの兆して束ね継ぎ穿たれる奥まりを潰し溜めて射し撫でられ匿われる剥がれ已まない限りにも窒がり戯け抜けよう形（なり）を繰り掻こう惑い静まる儘に暈け眩みを

を徴み響已已ににさながるる薫み数が銜
裏に刺かみみ水換の儘り、捩り遊のりえ
向はさせ遅にのえ裏にかなれのば厚を潤
け使り燃れ接濁穢の揉ら狂暗徴せみ已す
るえをやががりす延まのいむのるのみ構
勢な締そ真れ燃そびれ遠無厚寄数縁遅え
いいまう上るえれ裂遅ささみせとにれを
で徴りとへ遅るとからをにを潤の映さ接
食擬無厭のれかもれさ煌纏晒ま距えせぎ
いきくい臨を、、拡れめわしさたるる翳
破ば堕繰み弛な遅がるきり逃れりら薫し
りかとり刺ま燃れるせ鈍接しるにしりて
已りし潤させえな均いらがて向違いな陰
まの舐みりるるぞさでせれ姿きい数らの
な滞め直を、かられ透、るもがなに薫奥
いるるさ厭にのれへけにな無抛く裂りま
深滑にれい滴仄ると貫もらくらにか、り
みり違る遅ろ煌先離か、接搾れもれでを
異過い透れうめのしれ狂ぎえて、刺無誘
なぎなけそかき失遣るい換改已なさいい
りてく薫れに窒せら窒無えめみ違れな舞
な偽にりと象がたれがさらら異いるらわ
らり遅のもらり先るり独れれなな徴已せ
、めれ徴、れかが儘かり汚たるさのみる
ない蹲にな圧ら匿にらをれか遅を厚遅狂
異たい擬遅さ真うもの支澄にれもみれい
な深穢えれれ上暗薫遠いん狂は距、を無
りみれらを溶へみりさ遅でい、てで已く
にのるれ刈け臨のののら透無に回無み明
巣堕徴てりるみ透徴向そけく遅しいがる
くちの真越潤刺けをきう貫裂れてな遅み
っ逸欠上えみさ浄光が徴かか遣醸られの
てれ片へる眩るめり狂のれれわさ徴数冴
圧るなのかみ遅らのい薫る延されをええ
し縁ら臨にのれれ徴無り窒びれる拒る窒

穿たれよう縁ならに縁に潤む撫で裂かれるしか無くに伸び逸れ切られ已まないで艶と艶異なりを捏ね混ぜる儘に自らを内の軽みへとだけ犯し逸る惑い戯れに軽み異なりを深みに戯れ擬える振りで刻み憎んで、な憎みが孕み隠す静まりが静まりを裂き棄て逸るしか無い無さの荒み果てたかな狂い無さに疵付けられる透け貫かれる窒がりの危うく頽れ直る徴なら徴、で無いなら、な徴の数かを殖やし厭う穿たれ震える窪まりから堕ちる懸ける陰の粘りに侵される徴擬きにも徴を擬き拒む徴に戻り至れず灼かれる姿をその姿へ射し投げ沸き立つ浅みの欠片の接がれ汚れへ狭まり、透け貫かれる窒がりに匿われ薫らされる透け貫かれへの疑いに据え標されるしか無い、な据え標されの遅れを已ませるそれとも已ませるのを已ませるしか無く拭われる仄温かみを溢れ失せさせる、潤みの消え偏りを焦がれ尖って静まる柔らかみを昇り澄ませる為の丸みを小さく整えたげにも透け貫かれへの疑いとの距たりの浅み限りを舐め抛りたく凝り凍る、な距たりに、な距たりさえ疵付けるしか無い狂い無さの臨み刺さるかに乞われる真上それとも疾っくに砕かれ失せた真上の痕も無い静まりの遅れに、透け貫かれる窒がりの徴一つを淡い染みの姿に冷たく降り掛けたくもそれを厭い乞い損なうならで損なうで、な損ないとの距たりを乞う儘に厭い乞うさも潤みが齎し暈かす淡みを疵付けないでは損ない独りとの距たりから捩れ逸れる恐れに躍り凝ろうか、厭い乞いが疵付けられの傍らに隠し滲ます陰なら陰かの奥に揉まれ照らされる

それとも、な揉まれ照らされが含み翳し捩らせる厭い乞い損ないとの距たりを埋めて埋め余らせる儘に溢れ固まらせる疵そっくりに象られるしか無かろうにもその象られからの遅れに犯され疵付けられるかな儘に却って疵の逆さの姿を写し刻み騒がせて圧すに違いない象られからの断ち抜けが標し埋めるらしい窪まりの痕かな疵の逆さの姿の接がれ棄てられ已まない已ま無さを已み塞いで内へだけ透け約まり毀れて毀れ尽きるなら尽き已んで、な尽き已みが眩み遅れそっくりに明るませよう砕け失せた真上の逆さに甦るばかりな逆さの陰の燃え違えられ撫で差される せい で透け暗まされる限りに逆さの真上に尖り下り躍る形（なり）を翳し棄てそれとも、に、な翳し棄てを接ぎ延ばし逸れて尖り下り躍る形（なり）を削り捩られる反り懸けに消り遅れる振りを経る痛みかなら痛み違えられ、違えられ遅れ整う歪ま無さを走り拗らせるかに反り懸けへのそれとも知れない焦がれを吐き抛らせる筈の眩み躙りの、歪ま無さ独りに絡まり濁り遅れて濁り窮まり乞う構えなら構え損なう兆しに戦き舞う、に遅れを疵付けて濁りを繰り傾げ並べ渡したい鈍みの貫きそれとも鈍みへの貫かれに誘い捲かれる唯滞り生まれ痩せる煌めきの痕かな遅れに染み通される徴に似た薄みを仄薄め砕く薫りか、で無いかなら薫りかを薫らせない仄薄められ果てて砕かれもしない濁り遅れへの延び細まり堕ちる重み擬きな薫り異なりを薫らせ遅れる遅れを已み躙る眩みを映し蒔こう煌めきの汚げな矯め滲み限りに掬われ刺さるそれ

とも、刺さり臨まれる縁を戯れ探るかな厚みに堕ちる振りを厭い接ぐ、小さ過ぎる丸みを孕み並べ過ぎたか煌めきの汚れに圧され舐められる偏りの、棄て深められる限りに浅みを遅れ標される潤みかへの薫り穿たれを拒み接ぎ貫く貫きを翳し明るませ臨む儘に偏り堕ち戯れる喜びの已み異なり接がれる遅れなら遅れ、で無いなら遅れを逆さに象り溢れさせる眩みに浸け低まる徴の重みを纏い冷やす狭み已みへの繋がりを乞い厭おうかに反り乱れる、かにも、な、かにもからさ距たり狂いたい吐かれるような喜びの已み異なり接がれて偏り堕ち戯れる、かにも、な喜びが匿う薫りの仄濁り明るむ、な明るみへの断ち貫きを拡げ潤ませたくにも唯潤みから責め苛まれ透け窮まる窮まりの静まり象られ損ない逸る狭みの接ぎ歪まされる形（なり）の静まりに抗い挫け暗んで更に狭みへ独り直り歪むしか無い穢れを継ぎ映すかな滑らかさが裂き煌めかせるばかりな軽みを強いられ遅らされる煌めきの濁り回ろうと固まり頽れる頽れの厚みに戯れ揉まれる、な戯れ揉まれを反らせ乱そうと、な煌めきの濁りに臨み逸れ凝る形（なり）を厭い標す暗みそれとも暗みより暗い明るみの痕かに堕ち逸れる逸れに添う軽みの重なりが色めかせる厚みを乞い途切れさせる静まりの重みなら重み、で無いなら、な無さに貫かれ裂かれる重みの内に覗かれ冴える尖り静まり惑う穢れと穢れの浄めの絢い交ぜられるかにも、な絢い交ぜへの抗い痕ばかりが棘棘と剥き晒されそれとも、な晒されに映るだけかな絢い交ぜな様の明る

みの痕かへ躙り溢れるしか無くにも、に躙り溢れさせられる明るみの痕と異なり添われるしか無く尖り静まる透けの穢れをも浄めをも貫き歪め撫で騒がす騒がせを矯め鈍り滲ます、薫りめく程に暈け暗む明るみの独り明るみの内へ戯れ破られ積み潤まされて行く内へ強い程に内より強い限りな薄みは、な儘には頽れようかな眩み躙りを強いられわされる狂い無さに移り映る儘に、な自らを薄み異ならせよう狭みに消え揉まれる姿を硬い限りに撫で削りそれとも浸け差し舐めて舐め凝る儘に澄み醸される薄みへの窒がり臨み堕ちる堕ち際に寄り渡される眩みの染み通されが撥ね抛る臨み躙られ彫られたらしい狭みそれとも狭み已む已み限りな速さの速さを断ち越える散らされるかに鋭い濁りの震え粘る煌めきそれとも煌めき失せる汚げに速さを貫き窒ぎ厭う丸まり裂けて歪み直る衝き上がる形︵なり︶の奥まりから、澱み煌めく薄みの欠片の厚く光る硬み延びて溢れ噴く遅れの、羽を摘まれた姿を隠し晒す儘な偏りの切れ切れに浮き舞いたい狭み已みの有り得なさそれとも、な有り得なさとは淡くも異なり有り得ようと脹らみの重みの圧される限りな常に曇り騒がしげに途切れ象られ、にも、な象られの溶け逸っては逸り已む已みを刺し接がせる、窪み競うかに棘棘と映り散る暈け眩みに滲み纏わる光りの、光りより仄薄く堕ち拡がるそれとも拡がり已む、な已みとして映える鋭く丸まり窒がる内に翳され閉ざされる儘なら、な映えに撃たれるように躍り傷むしか無かろう無さの、閉じ尖る煌めき昇りを

喜び狂って、な狂いを繰り明るませる限りな眩みに換わり已まない脹らみの圧し連なりが象る平らかにも尖り鈍る丸みに閉ざされた閉ざされから、平らかに偏り延びて暗過ぎるなら暗みの内の虚ろを響かせ通す筈の染み穢れ塞がって塞がり断たれる暗みの断たれ続ける数を数え続ける切れ目それとも暈け目を据え預けられて厭い酔い痴れるかな弱まりに纏い付かれ渡され、に渡され圧され暗過ぎな流れ固まりの唯流れ過ぎるかな重みへと重みに厭わしげに破られた裂け目を塞ぎ拡げられる向きを向けさせられる少しでも遠くへの距たりを独りで担うしか無い、な距たりが囁くように震え騒ぐ微かにもきっと響き渡ろう響きに囚われ誘（いざな）われ、にも距たりは距たり異なるかして細い限りな響きの圧し詰められたにしろ距たり已もうにも、な已みを尖り乞う儘なら已みようも無く滑り閉じるように眠り明るむかに明明と醒め眩み暗んで暗む儘を喜び貫こう硬みに縋り暈け沈み懸けようかにも沈み損ない傾ぐ濁り窮まりに噎せ戻ろう穢れそれとも、な穢れこそ厭い斥ける汚げに澄み浄められる震える程に動きを微かに揺らし溶かして鮮やかにそれ自ら限りな眩みを照り映えさせる危うさなら危うさ、で無いならそれ自ら限りから剥がされ窄まる眩みに唯粘り鈍り擦（なす）られる危うさを裏打ち滑らせ逸らす、な滑らせを幾重にも塗り重ねたかな厚みなら厚みの脹れ暈ける厚み異なりを標し据えるかにも、に眩みの照り映えを濁らせ堕として穢れを直し歪ませる貫きの軽みを欠こうも重みを逸れ延びる

厭い斥けられて軽みに囚われる穢れの晒される儘に溢れ鈍り暗む僅かな尖る縁に脹らみ已まない、静まり返る危うさが噴き均すらしい静か過ぎる薫りかが抛られ横たわるかなら、陰を棄て火照らす奥の明るみからの圧し透けと透け已みとの互いを入れ差し臨んで常に臨み際に逃れ嵌まる内の濁りを透けさせようとする筈の企みへの乞い埋もれる滲みなら透かさず滲み異なろう証の陰かな明るみの躙り先走られ違えられようと違えられの潰れ失せるなら失せるで、失せ直り已みようも無くに已ま無さを已ませ遅れる鋭い影の暈け尖る硬みでだけは無くに切れ込み逸れるそれとも逸れ已む形（なり）が乞われるなら乞われる為の滲み異なりの証を毀しそれとも毀し擬えられる明るみの曝し埋められたかに遅れ虐げられる徴なら徴、で無いなら、な徴を標し擬えよう逸れ已む形（なり）の知らず呑ませ滲ませられ穿たれ荒む荒みに鋭く厚みを塗らせ圧されよう、な厚みにばかり偏り揺らぐそれとも、な揺らぎはその儘に厚み圧されとの距たりなら距たりな儘に距たり透けて透けを抛り棄てたかろうな抛り棄てへの擬えへ挿げ替え堕ち懸けて却って昇り乱れよう、に透け遅れを昇らせて遅れの丸みを吸い寄せ潤み削らせる冷え冷えと彫られ傾ごうとする厚みなら厚み、で無いなら陰を食うように翳り蹲って陰りを食み出す丸みを抛り棄てる跡が描く丸みを重ね溶かし懸ける柄だけの鬟に鋭く回る濁りを盛（さか）らせる鬟の柄の危うい上辺に揉まれ透け滲む眩みの幾つもの重なりそうで重なりずれる輪なら輪の狭

さは厭われ触れられる儘にも、透け滲みに狭み凝らされ潤み頽れるらしい窄まりの逃げ接ぎを繰り伸ばしても棄て果てないなら、なら果て無さ限りの破れ爆ぜそうにも逃げ接がれる窄まりに収まり窒がる滲み眩みの弛みに覆われ埋められ、にしろ少しも匿われて居ないにしろ何から、と訝られ責められ裂けて裂け偏る内を眩み躙る、輪の絵柄を接ぎ尽きないで延ばし拡げたげな爆ぜた匂いの薄まり収まらなくに硬い虚ろに内から衝き滑らされそうに揉まれ照らされそれとも、に衝き滑らされに均され固まる硬みに呑まれ滲まされる滲まされが硬みを食い犯し犯され食われた硬みが硬みを呑み窒がれば窒がるだけ呑まれ已む滲まされの硬み独り磨き抛られるかな象られに縛られ反り堕ちるそれとも堕ち厭われるだけが乞い盛（さか）る内に象られを直し歪もう貫きを透け遅れる、な透け遅れ限りに静かに回り窒がる輪の唯の絵柄に至り鈍り構えられない彫りの深さを湛え昂ぶらせるそれとも、な昂ぶらせを昂ぶらせた偽りめいて甘げな薫りの小さく脹らみ閉じてその内向きな薫りの芽かを燃やし丸まり晒す色なら色の色を抜き尽くした凍り歪む薫りの乱れ窒がり薫り出されるそれ限りに触れられる厚みなら厚み、で無いなら軽み逸れようとする微かに狂い差されるばかりな振りを振り撒き薫らせ乱れるそれとも乱れ差されを唯仄めかす、にも、な薫らせの触れられる厚みへの狂い無い距たりなら確かに距たりでも無い、触れられる距たりの仄柔らかく狂い無さに纏わり絡もうかな伸び上がりそれとも直ぐに伸び

上がると知れる姿の姿から逸れ盛（さか）る薫りそれとも、な薫りを追い凝り囚われる囚われに身を巻き取られたげに伸び逸れ脹れようとする喜び限りな戯れ静まるに静まりが呑まれ脹れる脹れを含み匿う動きなら動き、で無いなら動きを超え違えて動き過ぎ異なるしか無い前のめりな静まりを転げ晒し裏向けたい望みとの距たりを乞い尽きない儘に割り裂かれる薫りの戯れ已まないかな形（なり）の已ま無さを已ませ異ならせようとする形（なり）に、剥がれ戯れ重なって軽みを逃れるのとは逆さに割り裂かれる薫り限りなそれとも薫りを既に欠きてられる捩れの逃げ逸る速さを囃すかに厚み堕とされ刺されたい望みとは逆さを遅らせ隠らす為に据え絶たれ虚しく騒がれ尽きる平らかに滑り鈍るかな厚みとは逆さな薫りなら薫りの自らに囚われ沈む反り抜けら厭い遠ざける透け厚みが見せて来よう汚げに仄明るむ明るみの途絶え際までの距たりに覗かれ埋もれ翳されて接がれ渡されながらに、な距たりを距たり斥け逸る距たりの明るみの途絶え際をゆらゆらと失い焦がれる儘に弛み撫でられ窒がる小さ振り限りな距たりの明るみとの狂い臨まれる徴を乞う構えの企まれ固まる眩み躙りを淡く映し翳す、どの距たりとも違え撥ねられる距たりそれとも距たり異なりを狂わせ貫く形（なり）を晒すしか無い距たりとは違え失せ懸けさせられるなら失せ果せる限りに距たりは、に距たり已んで已む儘にかにも、な已みの映り逃れへ切り込まれる影に似せた硬みの刺刺しさそれとも硬み遅れ濡れる僅かに丸み

を煌めき覗きき掠めさせるる暗みの厚みに支えられ連なったらしい動きの痕の延び暈け巡る姿の弄られ尽きないそれとも弄られ痛み窮まるかに声の虚ろさを乞い澱む振りかに拗り細まる声を差し尖らすらみ窒がる奥まりの縁から、な奥まりの凍る低みへと絶たれ匿われなければ姿かり贋の、にも失のた声の虚ろに掬われるかに失せ絶たれる姿を刳り逃れる窒がら直しめいた失せた声と声との諍い違えられて反り暈ける流れの尖り冷め窮まる窮まり限りにせえ延ばされ何処へともらばれ彩られよう反り暈け失せの窮われ繰られる、それとも繰られ直る度に厭わればがれる削がれの硬み連ねられ厭に添って偽り喜ばとようともされる、窒がり削貫き已ませる已みの尽き無さるれとも尽き果てるなら已みをさみの擬え回すをし振りを延ばし窄まらせようそまり振りを守り殺すなり換え已ぐなり為損な回果ての匂いかを接ぎ回す反り暈けの拵え劣りを求められる果ての現れそれとも、匂い接がれる窒がりを匂わせて果て已む已み際に埋もれ拗る晒されては暈け失せる彩りの震え鈍り透かされて鈍り延びる儘に暈け失せ巡る低みの絶えるかに薄く暈け失せを銜え接ぎながら接ぎ拒む兆しに据え裂かれる様を照らし溶かし懸ける硬い虚ろを刳り貫いたような光りそれとも光り遅れ、なら裂かれ遅れの匿い翳す光りを暗み遅らせ紛らす光りとの硬みを隅隅まで詰め塞いだ距たり限りに距たり違（たが）おう射し撫でられるそれとも自らを射し撫でる光りの暈け失せの痕かを沿い滑り已む已み際から噴き穿たれる穿たれの姿か

な閉ざされた丸みの内を硬みの穢れかとも覗かせようにも、な硬みの端を穢れを厭うかに激しく回し標して添え欠け巡らされる重みを滑らせ逸らす欠け巡りとの距たりの僅かに反って延び舐められる翳み窮まるような昇り振りにしろ低まりの冷え細まるばかりかに仄明るみ拡がり均される均されの窄まり連ねられて自らを透け貫く、仄明るみの偏る儘に浸け堕ち澄まされる低まりの冷え細まりを撤き放つかに鳴らされよう眩み躙りそれとも躙り違（たが）え撥ね狂わせられる狂わされの狂い無く明るみ平らぐ奥の狭みから真下へ滲み薫り浮き反ろう己を己の温さに拋り断ったような冷え昇る形（なり）を晒し穢して穢れは唯白むなら白み窒がる拡がりの狭みに浮き傾ぐしか無い冷え昇りの虚ろの丸みに犯された重みの、な儘に昇り窄まるなら延び撫でられる上辺の反り乱れが閉じ捻り堕とされる儘な反れ乱れの奥まりが乞い沈められる静まりの重みの幾重にも揺らぎ逸ろう逸りの弛み鈍るしか無い数を拒む繰り返しに堕とされる一つの遅れへと疾っくに暈け窮まり巡ったろう撫で差し疵付けられたなら反り乱れにも叛こう眩みの眩み異なりと狭み繋がり見通される潰し舐められ已まない匂いの縮み窮まる静かさの撃ち弾かれる匂いなら匂い、で無いなら白み重なり揺らぎ接がれる儘に移ろい破られる筈の奥に澄み揉まれて弛み匂う陰なら陰の細み傾ぐ柔らかげに白みを拒む狂い無くぼんやりとした狂い無さだけが静かに何の匂いも匂い遅らせて締め出す冷め切った浅みの穿たれに、匂い異なる異なりの

異なり遅れて反り失せ已まないかな浅みとさえの距たりが圧し翳す穢れそれともも圧し翳しが接がれ急かれる儘に挟み寝かされ撃たれようかに浅みとの距たりを偏り失せさせるあからさまに険しい限りな企みに狭み已むしか無い已みの直り歪みさえ儘ならない歪み貫かれに棄て数えられるしか無い数の数にも満たない静かさを浸らせ凝り連ねさせられ、にも、、な数に満たない数に己を匿い厭い乞うしか無い浅みの圧し刺しに疵付けられる偽りを浅みの透け窮まる底に湧き出す数の兆しを棄て潰す眺めを圧し刺そう静かさの静かさ異なって抉られ延び戻される棄て置かれの棄て置かれる儘な様に照り違（たが）う震え凝りそれとも震え已み下る浅みの透け窮まれようも無い透け暈けとの距たり振りを悉く砕き除こうに躙り繰られ照り戻される細みの始まりかな透け窮まりとの行き違いに脹れ薄まる陰を垂らし外す薫りの軽み限りかに噴き刺さり遅れる遅れを凌いで透け暈けとの距たり振りを圧し丸まらせる外の透け尖るしか無い無さを翳す明るみの明らかな足らなさを暈かし巻かせ濁らせたい暈かし窮まりの毀れた痕を偽り受ける高ぶりに窒がり鈍り連なる揺らぎなら揺らぎ、で無いなら、に揺らぎ窒がる窒がりに照り違えられようと藻搔く振りで窒がり異なりの傍らに滑り隠れるかな形（なり）を象り弛むかにも象り頽れる兆しばかりが硬みを幾つもの欠片と見紛わせ撒いて巡るしか無いなら、とも見紛わされたらしい象り弛みの傍らに延び纏わり巻き断たれる断たれに背き舐め懸かる狭みを絢う徴を断

たれ連なる静かさに換え数え擬え、にも、な擬えを数え恥じよう暗みの遅れ弛みが誘い閉ざす透け暈け違えさせられる狭みなら狭み已みに窒がれる狭みでしか無くに渡し除かれる狭み已みの失せ繋がり窮まろう断ち抜けに標され尖り巡る奥まりの、砕かれるかに堕ち固め躙り重み失せられる滲み抜かれようにも僅かに滲み弛む弛みの丸みに上がり已む已みの拡がり分かれるなら、な分かれは細みの分かれ始めを透かし据えように移ろい弱まる浅みから芽吹くように穢れ滲まされる厚みを偽り誇る逸り圧し鈍る煌めきそれとも煌めきを温め躍り溶かし懸ける形を棄てた暗がりが示し延ばす細い限りに強く尖り抛られ失せ甦る甦りの脇を走り薄まるかな濁り高ぶる細みの暗みを撥ね除く様の震え窪む痕を象り崩す振りなら振り、で無いなら象る振りに映え随う濁りの内に透け貫かれる細み偏りが丸みの陰を透かし切って巻き取るかに反り戻って粘り、な透かし切りを引き寄せ照らそう企みの籠もり窄まり窮まろう窮まりの酷く穢れ弱まるかなり光りのその鈍みの内へしか向かない光りはさも幾重かに剥き散らされ、にも、な光りでは直ぐに光り異なろうと異なり已む光りに曇り注がれて光りに換わる異なりの暗過ぎるなら暗過ぎるを犯す内に照らし異ならせよう、な異なりを掠め戻る陰なら陰の透けを甦らせる為かに誘い戻され弛まされる躙り煌めきの断たれ詰まる舐め尖りに震え纏わり粘ろうと照り匿われる明るみそれとも明るみの奥から明るまされ直される明るみに換わり異なる光りの失せて陰ばかりから滲

み凝る陰を映え昇らせ、に映え昇りながら頽れる暗みの絶たれ現れを貫き射そうと揺らぎ強まる光りに似せた滑らかな弛みの繋がり抛られと繋がり失せとの距たり薄まる薫りを疎らに撒き歪ませ透け揺らぐ切れ切れに舞う距たりの光りを切るかに回り窒がって映え昇りの裏に溶け澱む陰の色でも吸い曝こうと傾げ裂かれる一重限りな回り窒がりの割け滞る浅い窪まりに現れ偽られる低くへしか抉られない映え昇りを映すかに一重が匿う重みの射し走らせる光りを浸り超える形（なり）に窪まり頽れる明るみへの外が晒され躍るかにも、な外なら外の内を晒し標す尖る丸みの静まり尽きる触れられる厚みかな煌めきは光りの果てを滑り抜ける儘に已み眩んでも、な眩みこそ変わらず已み衝かれる儘に常に明るみの外を内へ窒ぎ貫く構えに囚われ受け撥ね狂わされる外からの眩み已みの射し厭われそれとも射し厭われ違（たが）えられる一重の回り窒がりを裂き閉ざし、に眩み躙りに犯される明るみならそれとも、な明るみの細み偏るしか無くに已み暈けるばかりな暈けとも換え繋がる明るみなら、な已み暈けの曝かれ振りばかりが現れ奥まって奥まり窒がる縁に見付け誤られる淡い虚ろにそっと堕ちるように穿たれる潤みの潤み異なりへと繋がり失せ已まない已ま無さの重い限りな光りの欠片の消え失せかに棄て沈まされ冷め置かれる外への乞い遅れの足らなさに縛り戯れられたろうかに象られ仄翳り透け奥まって、な奥まりに静まる外を映し容れる細み傾ぎの一重から流れ揺れて幾重かに凝り滲まされ

る番いな姿に自らを暈け窄ませる外の移ろいなら移ろい、で無いなら移ろい限りに接がれ乱れ戯れさせられる厭われ開き括られる構えなら構えの、外を棄てて接がれ乱れる様を象り昇らせ果てたろう真下への歪みなら真下は歪んで真下では無い無さ限りが構え顧みられ懸ける振りで甦る贋の振りにか外の無さへ翳されよう、に窒がり已む眺めを拡げ距てる暈け移ろいを延ばす外それとも、な外を已ませ映す重みの堕ち返る儘に昇り偏る偏りが匿う恐らくは贋の歪みが歪みに換わる暈け移ろいの移ろわなさでも頑なに匿い鈍らそうか、な無さから頽れ傾れ穢れて受け映え躙り渡される円みかの影の硬みの反り已まない厚みが随わせ照り潰し流した痕の柔らかみに擬えられ懸ける暈け固まる拡がりの塞がり脹れ厚みを誇り狭める細みみ傾ぎの番いな姿を砕き潰しては甦らせる為の硬みを圧し舐め転げさせる明るみの欠片に見入られよう形︵なり︶を挫く円みかの影の硬みに随い巡り溶けるしか無くにも凝り触れられる程に切り分けられ逸つて切れ切れな距たりの犇めきを接ぎ棄てる、な距たりは過ぎられ切れ切れ限りに兆す細み傾ぎを刺し回そう眩みの円みみかの影に似せ断たれようとやはり切れ切れな重みが潤し兆すかにも、な兆しかを掻き貫く反り乱れに厭い偽られる眩みの凝り偽られるせいで竦み潤む厚みに圧され失せるしか無い独り潤み尖つて尖り躙つて潤み躙られるだけの厚みを嵌める切れ切れに纏まり懸けて尚竦み狭められる円みかの影の硬みを真似て破れるらしい細み傾ぎの円みかの影の

硬みを避け厭い潤す形（なり）で抗い自らを窒ぐかに竦み狭められを翳し響かせ、な響かせに噴き擦れ犇めく薫りなら薫り、で無いなら竦み狭められの数知れず厭い象られよう数が吐き棄てる数えようの無くも躍り撥ねる儘に自らを噴き逃し高ぶらせ厭い象られる数を呑み惑っては竦み狭められを狂わせ喜ぶ喜びが奮わせよう灼かれ冴えて騒がしげに揺蕩う数の並びから薫りを滲ます暈け躙りそれとも、な暈け躙りを促しては薫り已んで已み暈ける潤みの細み傾ぎを乞い射そう光りへ臨み刺さるかな澄み接がれは、に接がれ距たり已まない已ま無さに被り尽きて滑り騒ぐかに放たれ裂けそれとも唯裂け鈍って閉じ撥ねる、な閉じ撥ねを呑み棄てる接ぎ目で裂け目そっくりに象られて揺らぎ抗われ竦む狭み已みなら已み潤む狭み已みを差し穢す狭められの重みに圧し窄まり接ぎ裂かれる形（なり）に貫き綴じられるそれとも、に綴じられる形（なり）を貫き孕んで細み傾ぐばかりに竦み狭み逸る一連なりを誇るかな徴らの渡り数えられも為よう暈け躙りを裂き散らかし驕る先に眩み窄んで貫きめく薄みなら薄みを超えるかに薄み異なりを暈け躙りを抜ける歪みに練り迷わせ棄てるかに噴き向かい混じる歪みの消え失せの内に圧し曝されよう黙り込むばかりな暈け躙りの抜けられた痕かにも尚も暈け異なる振りで暈ける限りに静まり尽きない無さの煌めき滲ませられる、貫き綴じられの甦りかに明るみ偽られて汚れ凝る、な様に煌めきを煌めかなさへ戻す暈けの距たり失せるらしい引かれ際の囓り砕かれる

かな明るみを吸い失せさせる失せた細み傾ぎの陰ばかりかに煌めき逸り渡され、暈け躙りへと向かい弛んで果てそうに果てないなら掠れ抗いを脱ぎ翳すかにも、な掠れ抗いに触れようと企ませる明るみに臨ませ揺らぐ明るみ擬きな細まりの尖り鈍る縁なら縁に狂い無く戯れ磨かれる暈けの距たり失せが匿う筈の僅かな狂いの昇り流れる反り乱れそれとも、な反り乱れを凍り丸めようと堕ち圧し迫る遅れの均しされ限りに磨かれ失せる、に磨かれ失せを戯れ狂わそうと狂い無く細まり直ろうかに遅さの重みを接ぎ失せさせる失せさせに擬え凝ろうとする細まりの偏りに厭われてだけ映り延びる僅かな狂いなら狂い、で無いなら暈けを暈かし貫く狂い無さを乞う限りに古びた暈けの痕かを舐め裂く振りで強く煌めき揺るがせる強さ限りに濃やかにも醸されよう薫りそれとも暈けとの距たりに薫り渡る細まりの偏りへの尽きない疑いを貪り砕き映すかな暈けとの距たりの硬みに馴染み暗む暗みの棄て接がれ研がれるなら接ぎ裂け已まないかに失せた煌めき痕に静まり窒がる薫りは、に、な薫りに偏り似せられ円み違えられ、な違えられの外を狂い無く乞い厭う狂い無さの揺らぎ外れる儘に、な外れの外を窺う縁の透けへ堕ち澱み蹌踉めく円み違えられを響き差そう鋭げな薫りを吸い寄せ随えさせる奥まりの奥まり切れないらしいような重みに捩巻かれ失せ昇る、に昇り狭まる限りに煌めきの鈍みを増し孕み殖えようにも薫りの響き差され研がれる振りに撤かれ映され接がれる振りに纏い渡され回されて静まりを噴かし

細まらせよう触れられない狂い無さ限りな細まりそれとも、な細まりを絡ませ穢れる触れられない狂いの凍り騒がれ射し暈ける裏返された暗みかに細まりを脱ぎ外した狂い無さの狂い無さな儘な歪みの貫き辿られる内に浴びせ架かり逸る触れられない狂い無さ限りにも細まりを昇り距たらせる円み躙る形（なり）の映り堕ち慣れたかに毀され映されて射し暈け偏り端（はな）の昇り距たりを臨む円み違えられ始まりずらされ已む荒荒しさを揉み撫で裂こうとして裂き損なわれる偏り昇りの疵付けられるような遅れなら遅れ、で無いなら、な遅れに朧に偏り乞われる未だ無くされた儘かな円み違えられから吸い出され巻かれ窄まる中を角角しく走り頽れる軽みそれとも軽みを失せ遅れた振りに凝り鈍る円みから遠ざけられ澄み厭われる薫りの狂い無く円み違えられに狙いを定めるかに淡く透け濁り延びようかな遅れ鈍りに、な透け濁りの戻り途切れて遅れる匿う軽みを纏うかにも拡げ尽くし逸る遅れの直り歪む限りに、円み違えられが齎す穢れから逃げ盛（さか）ろうと逸り鈍る煌めきを巡らせ翳し窄める仄接ぎ裂かれる形（なり）の形（なり）違えられる儘に接ぎ裂かれ直される透け濁りの濁りを斥けて透け限りに穢れ沈み懸けるしか無くにも、仄接ぎ裂かれる形（なり）を形（なり）から剥がし暗ませて暗みへ断ち抜けられる距たりそれとも暗みを追い暗ませに沿って距たり狂うしか無いなら直ぐに距たりを潰し絞める円み違えられを圧し貫く構えそれとも構えの薫らす刺刺しさを数え研いで剥き取

られる丸みを追い撫でる明るみの細みに射し暈け速まる距たり狂いの危うげに狂いを剥がして距たりを狂い戻す振りで狂いを寄せ呑み懸ける様の何の透け濁りも斥ける静かさに酷く貫かれた、なり酷さ限りを斥け乞う透けばかりな厚みの濁りから追い厭われるかに撥ね被さり懸けられる距たり狂いの痕かな圧し滑り拡がる振りが呼び窪まらせる距たりの失せ撥ねて反り乱されようかにも、な反り乱れの奥まり失せる消え現れに乗り重なって明るもうとする距たり狂いを彫り沈ませる奥まりの薄みが齎す穢れ傾がれる暈けの厚みの濁りへと綴じ貫かれる狭み已みを震わせ抉るそれとも抉り尖り失せる儘に震わせを剞り貫き閉ざし、に閉ざされる儘な真下を曲げ窮めて窪み戻る戻り振りに回され暈け眩むなら、に眩み躙る重みなら重み、で無いなら暈け窒がり鈍る薄みを重ね窮めても厚みへは象られない暈けに匿われた硬みの薫りかな重みとの濃やかに研ぎ脹らされる距たりに逸り躍る煌めきそれとも煌めき已む已みの重みを断ち抜けて已み暈け、丸みを差し濡らすかな濡らされの真下に匿われる明るみ滑り狂うそれとも、な狂いを狂い無く暈かし接ぐ、かにも、な暈かし接ぎを満ち逸らす軽みが取り零す薫りめいた薄みの躍り傾いで濁り淡み失せ懸ける濁りを混ぜ綴じ貫くかな狂い無さへの奥まり抉りに接ぎ違えられて割り透かされる透かされの、濁りを乞うばかりな危うさそれとも、な危うさを逃れ象られ頽れる頽れの狂い無さに汚げな疵に沿い潜るかに遠回りを遅らせる振りに重みを纏わせる暈かされ塗さ

れる明るみ滑りの狂い限りに舞い刳られる重みを晒し已ませ翳し延ばす果てに堕ち窒がり違えられる姿を重ね過ぎては重みの消え逸る鈍みは細かく裂かれ並び透けて透ける儘に冴え沈もう窪まりの僅かに巻き掻かれようとされる動きの兆しを滲ませる、に滲ませられ歪む反り抜けを乞い遅れ已むしか無い鈍みが、な已みに刺さり窒がって穢れを噴き温ませる暗みの重みから距たり匿われる匿われを掴み出し噛み潰す奥に躙り眩み堕とされみれる現れ限りに眩みを操り震わすそれとも震わせ已ませる鈍みの暗みへ照り映え接がれる接ぎ連なりを溶かし凝らす静かさにせけ汚れる明るみ滑りの躍り窒がり尽きない重みそれとも唯軽み異なる振りに透がり込むらしいらしさの始まり欺きを止め散らした痕かな重みにすっかり剥げ失せられて眩みの逃げ止まる暗みの窄まり黙る形（なり）に呑まれ、呑まれる儘に、な儘を貫き綻ばせる撒き脹らされた厚みなら厚み、で無いなら呑まれる儘が齎す暗みへ映え接がれ直す鈍みの疼き吐かれ堕ち吐かれ直され艶めくかな射し狭み尽きない遡りの膨に絡み脹れ厭い震えて、な震えに窒がり滑る重みの白白としたさざめきを曝き噴かせる、眩み異なりとの距たりを覗かせる重みの乱れる限りに失せ現れ昇るそれとも現れ換えられて失せ違われるなら昇り逸れよう逸れ偏りに絡み濡れる兆しの更に濡れ続ける兆しなら兆しの遡り挫ける挫け様に擬えられよう、遡りを始めから拒み延ばし晒して晒し痕に穢れめく円み裂かれを映し狂わせる狂い無さは、に裂かれ退く果てに奥

まり傾れる円み痕かな眩みそれとも眩ま無さを躙り違える儘にも眩み限りを掬い撥ねさせる企みの低まり尖り已んで、な已みを已み異なりに換え遅らせよう動きの動きるけへの絶たれ際に暈け失せて、な已みを彫り疼かせ抱く凍る温もり振りの危うげなあざとさに狭み走らされる僅かな震え鈍り限りな抛られ遅れの遅れを閉じたげに企み已みに呑まれ綻んでそれとも、な綻びに疵付く暗み躍るには狭過ぎる虚ろから滲み襲い届けられる塊の光るなら光り始まり、で無いなら光りが始まらせる光り異なりの集まり窄まる兆しに傾れ震え消え輝く振りを潰し鈍らせる窄まりが匿い晒す鈍みに操られ、輝き褪せるかにも触れ砕けないで透け眩まされるそれとも透け異なる異なりに切られ剥かれる傷口のような眩み重み触れられの触れられ褪せ散らされる真下からの暗みの揺らぎ震えかに映り舐め超えよう狭み已みの已みを捩切ろうと眩み重みに襲い触れ抗う俯き尖る内へ断ち抜け迫り砕ける、にも触れられを乞う狭み已み限りな触れ抗いから已み抜ける振りを眩み重みに重ね厚み裂いて、な厚みを襲う已み抜けに臨み重み裂け連ねられる光りの光りからの重み逸れ現れ消える消え已ま無い無さを撮み標しては光り濁る厚み擬きの柔らかみを贋の匂いを舞わせ躱す狂い無さに委ね弱らせるかにも偽り厭われる匂いを滲み超える重みそれとも重み裂かれて厚みを覗かせる光りなら光り、で無いなら光り異なる徴に絶ち向かい割かれては穢れ白む反り抜けへの暗みを求め殺し劣らせ劣り狭まり乱れる匂いが隠したら

しい弛弛と贋めく奥まりを籠もらせ混み低ませ垂らさせる温みの暈かされ断た
れ続けるらしい丸み連なり懸けの隙から隙に隙籠もり傾ぎ煌めく隙を僅かに脹
らませ已まない光り異なりの上辺を真似るかな弱さに穢れめいてこそ失われよ
うも無く透けよう、な透けに自らを呑ませ呑んで呑む形（なり）に触れようと
贋の匂いの消され掻かれて棘棘しく濁り暗む兆しの汚げな痕を曝かれ脅される
かにも、な曝かれの掻き消され煌めき鈍るなら、な鈍みに絡み偽り厚み貫かれ
て煌めき毀れる儘に濁り暗む兆しを呼び晒す欺き始まりへと光り異ならせ、な
異なりの兆し滲みた奥深さを脅し曇らすかな偏りだけで窒がり拡がる拡がりに
齎されよう躍り逸りめいて却って逸り遅れる遅れのどれも窄み裂かれを競うか
に失せ表されるしか無くに、な無さに留まり捩れ、な捩れに呑まれる呑まれ捩
れを呑み返して返し尽きるなら尽きる儘な重みを接ぎ裂き掴み違える振りに振
り乱されるかにも乱れの狂い無さに繰られ触れられる柔らかみを探し浸かろう
とされて傾ぎ狂わされる乱れ振りを絶ち怖じさせる儘に躍り偏り溷ませ、な躍
り偏りを偏り覗き除けて除け残り擬かれるそれとも、な擬かれの裏を覗きめい
て拡がり欺かれる軽み已みの欺き返す儘な抗い振りに裏返るなり凭り掛かろう
構えの構えが構えを裂き窄ませる窄まり限りに拡がりの軽みを殺ぎ靡かせて靡
かせに重みを標す細みの貫きは已ま無くも、な已ま無さに已み奢る円み違えら
れ痩せた震え窒がりを拒み異なる異なりの失せ暈かされ貫かれる貫きの縁に刻

まれ眩まされめく暈かされ限りに操られ褪せるしか無い拉がれに擬え損なわれ
測られ覆われるかなら円み痩せ躙る儘に躙り擡げ懸かる欺きを拒み翳す筈に円
み痩せを射し清め狙う構えなら構え頽れるしか無くに淡み果て褪せ遡られる徴
に裂かれ脹れ靡き凍る拒み振りに沿い随う細みに撫で剞られ巡ろうとする徴な
ら徴、で無いなら細みの厭い棄てられ暈かし裂かれる円み躙りそれとも失せ切
れない痕に躙り滲む痺れかにも鮮やかに円み痩せの逃げ脹れる跡を追い損ねる
なら無い跡に触れる振りに背き丸まり直る歪みに煽られるかに覗き堕ちさせら
れる暗みから暗みを覆い裂き射す光り擬きな軽みの並び戯れる様を衝き綻ばせ
る狭みの真上へ断ち抜けようと眩み滑る重みを重ね掠める、に尖り拉がれ、拉
がれ拒む拒みの已み果てない衝き綻ばせへの貫き失せに委ね明るむ細み限りに
限り違えられては、に限り狂うばかりに拒みの已み果てを已み奢り企もうかな
徴を探し倦ねて円み躙りの痕を舐め煌めかせ、な煌めきの濁り去り果せた静ま
りを覗き眩みたくに躍り彷徨くなら彷徨くで、で拒みの已み果てへ臨み傾れよ
うと乞い細み尖るそれとも、に乞い偏り除けられようと硬みに圧し距てられ、な
距てられは隈無く裂け続けて疵の潰れ重なりなら疵でも無くに疵でしか無い様
を硬みの圧し距てられの縁に縋り差され穢れるかにも、な穢れの狭み已む先に
暈け走り晒されて静まろう硬みを薫りに捩り撥ね鈍らせるかに距て直される切
っ先の裂け目の奥なら奥を探し澱もうと僅かに震え俯く円み躙りの痕の内それ

堕拉えたごら穢のれれてるにい切のると
ちがてりうれれ沈尽と靡透眩なり圧円も、
背れ逸接とるをみくもきけみら距しみ
こるれぐ独儘知拗す、裂を擡、て距のな
う徴傾接りなるり徴なか曝げにるて影痕
狭にぐぎ焦形箬静か儘れくら、窄らのの
み白狭目る︵もまにをるそれなみれ失無
のみみが掠な無ろ淡疾兆れる光はをせさ
狂滑已刺れりくうくっしと透り失淡刳に
いろみし抗︶に丸偏くにもけにせみら躙
遅うの堕いを、みりに集、貫沿てにれり
れ兆透とを欺も振重頽りにかうも換重丸
てしけす誘きうりみれ標しれら光えみま
遅を遅緊い晒穢にめ挫さろのしりらめろ
れ割れい臨それ揺くいれ曝さいなれくう
るきそ限むう沈ら細たるきも様儘よ偏と
儘接れりに断みぎみ透均透円をにうりす
にいとに任ちで褪なけしけみ躍光澱へる
狭でも狭せ抜させらのくるをらりみの偏
み接遅みてけえる細確頽し映せ窒の欺り
已ぎれ絢欺へ無しみかれかし厭が内きの
む絶距わきとくかのさ静無たいりへを狭
已ちたれ失靡に無均ばまい影乞已狭企い
み向っるせきもいしかるなのうまみむ限
限かて穢貫た欺明くり窮ら痕徴な垂痕り
りう狭れかげかる頽にま、かのいれをな
に反みのれにれみれ硬りにに徴光走蝕平
細り急影舞細遅の直みな眩係をりるみた
み抜くなうみれ穢さ傾らみわ厭な褪揺さ
かけ細ら、限違れれぐ窮にりいらせらに
らへみ影なりえなる透ま貫靡已光過ぐ映
距とにを舞をらら騒けるかこまりぎかり
た送覆刻い乞れ穢がが儘れうな、てな刻
りらわみとい違れし覆に靡といで姿硬ま
丸れれ違距接えはさわそいす徴無をみれ

まる圧され潜りを潜り迷う、にも、已み限りの退き已まない已ま無さを抜き曝くかにも曝き晒して迷い直る歪みに取り撥ね込まれる掠れ躍りに抗いそれとも抗い切れずに已ま無さを窒ぎ懸けようにも掠れ拉がれる迷い限りな已ま無さ限りを放ち暈かして暈かし抛れない狭みからの射し暈けに臨み逸れる堕ち抜けを向かい割く已ま無さとの距たり窄みを厭い乞うしか無い尖り白んで白みの鋭さに貫き反れる掠れ躍りを掠れ果て去らせへは窮められない圧され迷いを、かにも掠れ抗う形︵なり︶を現し覗かせる窄み暗みを差し軽みめかせる透け貫かれ已みの已み抜け細まる透け窮みに届き焦がれる割かれ抜けの先を絶ち暗ませ背いて背き已まない偏りなら、測られ透け硬み振る明るみの暗みからのたりかに晒し躍らせ、なら圧され迷い窄まる明るみの拉がれ直り歪んで歪む限りのその限りな狭み已みに凭れ凝ろう、に細み綻び、な綻びを衝き違え重ねる疚しさかな拉がれ振りが俯き整え刺そう偏りそれとも偏り異なりながらな綻びの衝き違えを並ばせ刻みたい望みに走り煌めく内を覗かせ毀す、な覗かせの揺らぎに添い誘われる儘に欺き負われる限りに震え濺ん濺み並び繰られ果てる暗みなら暗みの失せ違えられるし無い無さ限り偏を偏らせる、に偏り躙るなら躙り失せようかにも狂い無く偏り眩み誘われ、な誘われを偏り躙らせるそれとも躙らされる儘な欺き負われに剥き焦がれる煌めき異なりが標し剥く偏り躙られよう惑い辿られるかなら剥き焦がれは厭い甦るしか無くに、な甦りの換わりに苦く

も兆される筈の細み振る綻び異なりめいた剥き焦がれ浄められよう細みな形（なり）を冴える遅らせて甦りを裂き綻ばせるに違いない暗みの差し貫かれそれとも堕ち毀される暗みを暈かし尖らす明るみを剥き冴え距て窮まらせる窮まらされの縁を撫で揺らがせ、な揺らがせを翳し示す薫りなら逸れ窄み薫り頽れる儘に惑い回され、に尽き、な回され尽きが剥き裂く距たり擬きな明るみの暈かされ様の暈かされ違え剥かれる掠れ抗いを現そうと焦る陰なら陰擬きに擬えられ直されるように吊られ、吊られる儘にも擬えられを拭って陰を垂れ窒がせる歪み迷いそれとも迷い違え歪む歪みを陰へと歪み糺す贋の薫りめく、な薫りめきを束ね窄める明るみ振りなら陰の迷い限りを暗み裂かせるかな澱みの逸れ頽れる反りと撥ねとが汚げに距たり競おうにも、に歪み傷んだ距たり独りが剥き溢れるかに陰の影を迷い違えさせる弛みを纏う儘にも迷い違えを潰し乞おうかに失せたにしろ薫りを射し剥き回そうとする徴を探り零そうとして零され溢れ失せる陰の影に匿われ滲む陰に隠れ接がれて接がれ剥かれる絶ち回りなら回り抜ける先の絶たれ已まない無さ限りの薫りの偽りを曝き噴かせようかにそれとも曝き眩んで偽り際を崩し溶かす高ぶりなら高ぶりに冴え沈んで滲み已む陰を延ばし果てさせ、に、な果てを爆ぜさせる薫り擬きな細み綻びの滲み盛（さか）って絡み接がれるなら、な接がれの綻びを真似るかな、にも除け遅らされよう接がれ振りに縋り紛れそれとも、に燻む紛れを陰の失せ痕に絡め溶かす薫りの透

けるの限りな明るみの唯、な明るみが薫りを細み綻びから縋り距てる疵の硬みし
か象らない偽りの薫りに侵された陰の脹れる欺き振りにしか影を射し煌めかせ
られない内に弛弛と陰の紛れに紛れる形︵なり︶の陰それとも、に付け込み巻
かれ呑みながらに陰の衝き捩れの緊い開かれに欺かれる振り繰り矯め透かす
丸みかへの圧し迷いめかせて爆ぜる射し煌めかせを顧み凭れ揺らごう企みの潰
れれされる潰れ直されへ堕ち撥ね放たれる陰の硬み現し暗ませて追い躙る狭
み均けなら断ち歪む儘に狭み企まれ甦ろう陰に叛いて陰の影への硬みを剥き乱
す抜りの濡れ尽きた痕を舐め損なうかな明るみそれとも明るみを呑み軽ませる
なら軽みの反り結ばれを照らし緊み崩す、陰に至れない暈け窒がりめく小さ振
りに摺り戻される明と暈け窒がり已刳り衝く重みなら重みで無いなら照り
頽れる捩れを零し煌めかせる煌めき重み限りに細み窮まろうえの窒潤む滑り
倦ねに臨み削がれる縁に沿い狭まる重みへの驕りを断ち潤ませてその潤む儘の
穢れを浄め偽る遅れ象りを撫で圧し迷わせる明るみなら明るみの反り結ばれへ
抜け細り進む刳られ偏り懸け渡そう毀れ際に細み傾ぐ、な明るみの削ぎ眩ま
され躙られ鈍る儘な外が乞われる透け貫かれに紛れ揺らぎ剥かれる明るみの欠
片の撒き翻されるかな眩み違えられるしか無い細み頽れる明るみ振りへ約め接
ぎ裂き綻ばされる反り狭みの先が先を差し標すなら標で標し損ない鈍る鈍み
の割かれ苛まれるかな尖り過ぎて反り狭みを狂わせ炙り放つ徴なら徴は徴より

外ごと静まり果てる細みに綻びを冴え渡らせようと自らを毀し溶かす狭み已み
を匂わす細み揺らぎそれとも揺らぐ徴に約め暈かされる狂わされ放たれる硬み
から細みへ冴え剥かれ開かれる狂い無く反り乱れる筈の潤み遅れに、冴え崩れ
る硬み惑いそれとも硬み直りは、潤み失せ逸るなら窒がる儘にも狂い無さを照
り透け翳そう、な狂い無さ限りに照り顧みられ透けて透け抛られる姿の吊られ
揺らいで照り接がれる均されたる明るみに臨み溶け穢れる陰の姿無く象られる陰
の影の躍るかな、にも陰を明るみに混ぜ毀す硬みそれとも硬みとの距たりが匿
い散らす丸みが衝き距てる丸み違えられる明るみとの距たりかに窒がり裂かれ
る褪せた陰の姿を重みめかせて陰への驕りを欺き回す軽みなら軽み、で無いな
ら軽みごと刳り庇われる狂い無さを呼び眩ませる透けた眩みを通い衝かせ罅割
れさせて鮮やかな曇り振りを粒立たせる見晴らされの冷たく円みの欠片を包む
かな白み滑りを真つ直ぐに濃い限りに映し煌めかせ窮まらせよう切れ切れな軽
みなら互いに軽みを通い衝かす、な通い衝かさせの内なら内、で無いなら内を
束ね剥く彩りめいて映し煌めかせを欺くかに抉り途切れる影の深みへ堕ちたげ
な捩れに、影の失せる徴を知らず招き滲ませ、にも、な徴が徴な儘に舞い続け
る為に影の捩れを撥ね暈かそう窄まりを抜け裂く暈かしを射し接ごうと影の失
せる徴との距たりを測り急くばかりに失せた影が照り映えよう様の堕ち爆ぜ丸
み縮まるしか無い無さ限りな儘な失せた影の照り映えとの隠し抑えられる距た

りかに暗み褪せて埋め沈まされるように浮かび細み已まない逸り尖る煌めき
の幾つかを追い眩もうと偏り翳る翳りの濺かな映え抜けけ絶え透ける陰に匿われ
た細み已ま無さとは異なり磨かれ驕る明るみそれとも明るみ眩んで眩み抛られ
る贋の丸みを切り接ぎして細み已まない煌めきの鋭く曲がる縁かを穢し鈍らせ
る、に細み已ま無さが明るみ眩み抛られに接ぎ沿おうと溢れ固まるなら固まる
にしろ細み已ま無さの陰より柔らかく揺らぐ揺らぎに導かれ縮む限りに噴き裂
かれ驕り傾ぐなら、な驕りに柔らかげに厭き吊られる細み已ま無さ異なりを射
し暈かす眩み偏りの翳り閉じて暗み褪せる先の白み繕われる行き成りな丸みの
裂かれ撥ね違えられる軽みを磨き偽ろうと濃やかに褪せ暗み戻す狭み抜けを裂
かせ堕ち抛られる影の欠片の鈍みなら鈍みが散らして影を違えさせる欠片、で
無いなら影を暗みから遮って溢れ延びる通い衝かせと驕り傾ぎとの距たり振り
を常に濁らせ窒ぐ重み滑り損なわれる損なわれの外から差し伸べられる細み已
ま無さの乱れ異なる陰の煌めき潤む儘な重み滑りを照らし揺らがせよう、に影
の外かな陰の煌めき潤みを潤ませ直し鈍らせるそれとも、な潤みへの反り抜け
を磨き添う振りで細み限りを舞い已ませ凝らせる細み綻びの翻され撥ねる向き
の窒がり接がれる接がれ痕に触れ穢れる光りに匿われる丸みの欠けなら欠けの
尖り乞われる様に滲み凝る、に光り異なるならば影を裂き陰を貫き暈かして、な
暈けを狂わすばかりに、な狂わせの誤りを接いで細み綻び暈かしそれとも溶か

し灼いて欠けを丸みの失せ現れへと尖り乞う儘な贋の重みを磨き外す、歪み貫きの貫く儘に接がれ越えられる穢れめいて明るみをすっかり剞り貫かれるしか無かろうにも懸かる光りに溢れる穢れを齎し衰える暗みの偏りなら明るみの高ぶり掠れる反り接ぎの接ぎ直されに途切れ勝ちにも影と陰のあからさまな甦りを鈍り避けるしか無かろう、に磨き外し直されるなら疾っくに光り異なって円みの唯重みだけに圧し透け曝かれる窪まりなら窪まり、で無いなら窪まり光り振る様を細みの重みへの翻りに擬えられもしよう形（なり）に明るみ衰えて衰え尽きないなら、な尽き無さの細い限りに靄る遠くを焦がれ掠れて凝り傾ぐ傾ぎの内へ傾れ反る硬いばかりな光りの唯丸み懸かる真下に穢れめいて静まり溢れ窒がる重みに晒されるかな歪みそれとも重みの静まりを凌ぐ歪みの狂い無さが切り出される先への硬みを距たり温ませる温みの僅かな歪みを温みが許さずに狂い無さの硬みは障り籠められ重みの影に遮られるかな歪みへの歪みなら酷く窪んで何の明るみからも後退る振りへ逃げ偏ろうとする狂いしか無い兆しの常に窄まり裂かれ已まずに、な已ま無さの細みへと濁り崩れる濃やかさそれとも狂いしか無さを撮み延べるかに細み綻び違われる透け貫かれめいた窒がりが窒がりの縁の僅かな欠けを翳し苛んで、な儘に細みとの距たり振りを現し殺す滑らかさの強くなぞり駆られる内へ回り延ばされるかな褪せ偽られる儘に駆られる内を割き窒ぐ狂い無さの硬みに彫られ固まる歪みそれとも歪みに直り強め

られて障り泥む形（なり）の溢れ象られ映る、にしても映るのが唯透けへばかりでは障り泥みから滲む狂いが狂いを明るみ映しながら呑み失せさせる柔らかみの暗みに割り差され込む明るみそれとも明るみを欠くせいで明るむ狂いにしか兆さずに翳され照り映える窪まりに追い締められ際立たされ窪まりの向きの僅かに狂うらしいなら、な狂いを明るみに象られる歪みに届かない届かなさを拉いで歪みを細みの穢れ已まない姿に擬え偏らせ、に偏る儘な透け已まない狂いの揺らぎかな失せた真下が汚れ果てて汚れを躍らせ明るませる歪みの映し曝されに添い煌めく翳りなら翳り、で無いなら明るませ限りに接ぎ暈かされるかにも暈けだけは斥けられよう眩み振る、明るみの外を絶やすかな細みの穢れの微かな傾れ込みそれとも、に細みの穢れを翳し射し衰えさせる真下からの眩み逸り失せ磨き現れる明るみの外の内かに外を探し惑って明るみ躙り厭う儘に真下を窄める限りに裏返し曝す惑いの内を走り劣る狂い無さの明るみの外でも内でも無いなら細みの穢れを危うくも確と超える振りを濁り荒ぶらせる細み綻びそれとも細み綻びだけは許さない明るみを必ず細みへと狂い無く狂わせる、明るみを均しく頽れ躙り眩ませる軽みの縁かな陰だけで象られた脹らみそれとも、に明るみを撥ね失せさせて尖り厭われる眩み躙りの縺れ冴える痺れから痺れ鈍りを接ぐらしくに明るみの障り重みに堕ちる脹らみの剞り貫かれる姿を影のようにに撓み舞わせる、内へ歪んで陰な陰に歪み直る明るみの障り重みの接ぎ割か

れる割け目の淡く乞い探られるせいで揺らぎ躙る穢れの堕ち失せ溢れる影の綻び衝き裂き溢れ撒かれる様は騒がしく切り込み損なわれ、な損なわれに付け込む穢れ果てた明るみの明るみ褪せ照り翳される儘が荒ぶろう、に穢れ限りに躍り失せる影を衝き暈かし凝らせる緊さなら緊さ、で無いなら緊さを狂い宥める狭み已みに叛き乱れる明るみの割け目を強く乞い逸り抜けようとする眩み限りに穢れを浄め灼いて灼き尽くせないなら無いで、な無さを掠り展べ軽ませる軽ませに匿われる、触れられない穢れの驕る姿を映し写す浄め除かれるしか無くにも磨き褪せる傾きかな眩み躙りの縁に切り剥かれた穢れの透けを暗みと混ぜ逸り鈍らせる煌めきかな潤み乱れる煌めきの果てに煌めき潤み失せ濁り窒がる穢れは、にも穢れの高ぶり違えられる眩み躙りの裂かれ綻ばされて穢れを裂かせ噴かせる明るみの揺らぎかに暈け窒ぎ違えられる眩み遅れなら遅れ偽られる眩みは違えられるしか無くに煌めき潤み失せさせられる狂いが狂い限りに炙り厭われる刳られ偏りには、それとも遅れ偽られる眩みめく煌めきを競い迎え冴えさせられる冴えに纏わり呑み懸けられて潤み衝き刳られる穢れなら穢れ、で無いなら眩みめきを棄て舞わせ褪せさせる穢れ厭きたかな潤み鈍りを刺し貫き暈ける狭みの内へ拡げ和らげる穢れとの距たりを支い窪まらせようと潤み衝き刳られ勇んで映え擬きに拠ろうと急く振りに嵌まる偏りかには、唯偏り延びて潤み爛れ窄まる暗みの浄め抗おう穢れの向きへの晒し躍らされが並び数えられ

るかに接ぎ剳られ、にも、な浄め抗いを潤ませ奥まり強いる傾ぎ狭まりを已ま
せる穢れとの距たりの距たり異なるしか無い抗い遅れ翳される痛み驕つて眩み
を包み曝す徴の穢れに透かされ乞われる眩み躙りの厚みを測り損ねる振りの濡
れ固まるに違いないなら捩れ超えようと縮み高ぶり逸るらしくに、燻むしか無
くに光るらしい鈍みの暈かされ狂う偏りを抜け接ぐ筈の厚みめく眩み躙りへの
放たれが途切れ勝ちに争われる先かの偏りは除け白んで白み狂う限りに刺刺し
く白み堕ちる窄まりに抉り滑らす重みを迎え褪せる形（なり）が白み狂いを匿
う様の偽りに曝され衝かれ、にも凝り揺らぐかな狂い独りが湧き映え躍るなら
沈み駆られ傷んだ形（なり）の眩みを戻し昇り偏らせる儘に光り泥む虚ろが乞
い窒ぎ接がれよう重みの湧き映え已む向きへ触れられ結び違えられる唯光りの
已み潤む影かな丸み染みた重みそれとも潤み已む限りに映え窪まる軽みの裏を
抉り撥ねる硬み傾ぎ厚み驕る偏りの縁の脹らみその儘な重みの、に重み異なる
兆しに溢れ倦ね繰り揺らぐ刃のように鋭い綻びの明るみを滲み象ろう眩み限り
な重みの痕でさえ無さそうにも、な無さそう限りを堕とし翳ませるしか無い無
さに浸み眩む狭みの断ち貫かれ尽きる鈍みそれとも鈍みの潤み崩れを煌めかせ
鈍る鈍みに縋り狭まる僅かな狂い無さが狂わす仄明るむに違いない脹れ懸ける
硬みの綻びめいた厚み驕りめく偏りとの透かされる距たりに均され暗むなら必
ず明るみ已まない眩みの頽れ招き均して明るみ窮まらせよう穢れの溢れ荒ぶる

明るみ異なりに差し繰られて眩み独りに溢れ裂け已む、穢れに欺かれ絶ち裂かれるかな仄薄まる細み躙りの眩みの底かへの低くへと褪せ衰えるか、な衰えの除け違えられ抜ける丸みの已み乞われよう光りに被さり滑らされる嵌まり逃れる狭みを象られ弱まるそれとも、な弱まりに腐り曝され呑まれる微かな揺れの激しくも裂け均され溢れさせられる穏やかな暗みの暗みを厭い潰す狭み暈かされ直されたた象られに映り掠められる仄明るみを偽る潤み躙りの暈かし接がれよう兆しがその兆しを避け燻み延ばす真下への明るみの陰の極濃やかな眩み躙り異なろうとも穢れめく眩み躙りの穢れに映り惑うかなそれとも惑い偽る姿を晒し揺らそう煌めき撃たれ明るみ裂かれる象られに添い撥ね燻む柔らかみに傾れ通い逸れたい丸みへの暈け惑いに、辛くも驕り縮むしか無い明るみ裂かれの授け割かれた尖り堕ちる影の硬みかな穢れ潤みとしか明るみには映りようも無い眩み独りが丸みへの静まりへ逸り撥ね挑むらしくにも眩みの狂い無さの激しさに影ごと裂かれ転げさせられるかな歪みの揺らめきは予めかに環を描き漁って乱れ滲み抛られ、な環とも環を異ならせる勢い限りな環との距たり測り、穢すそれとも痩せ光る兆しの明るみ異なりに溶ける遅れは圧し白み違えられ、に堕ち違えられて見上げられよう眩みの環の狂い無さが賫す災いの僅かにも反り現れを負い渡すなら渡すで反り躙る弱みが溢れ違えられ、に躙り弱る明るみ異なりから痩せ光る兆しへと通い接ぎ絶ち向かわれる細み潤む儘な穢れ異なりそれ

とも穢れの浄め揺蕩う眩み偽ろうと焦るらしい環と差し向かい回り遅れる形（なり）で遅れ逸る遅れは、明るみ異なる光りが穢れに触れ弱らせる潤み厭い乞われる硬みから滲む硬みな儘の光りに擬えられて明るみ異なりから距たり接ぎ均される揺蕩う様を痩せ細り続ける丸みに見せ掛け盛（さか）る予め穢れ果てた暗みを今更に曝す環の痕かと、ですら怪しい環との距たりの狂い無さを寄せ転げ戻す眩み窒がる儘に環の痕なら痕を割き響かせる響きの割かれ映され穢れめく僅かな響きの乱れかな環との距たり偽られる先に窪まり舞う狂い距たり繰られる綻びを避け負い欺く明るみ異なり異なりめく、舞い疎がる窪まりを数えても一つもの数に至れない明るみ剥かれる限りの暈け細まる窪まりの窒がり荒みたい望みの棘棘と裂き損なわれ已まない細みが内深く匿う細みの窒がり舞うなら舞い震える硬みを明るみ剥かれが接ぎ渡そう焦がれ締まり抜けては狂い無く乱れ撓み偏りながら撓み切れない細みの窒がりの褪せ乱れ象られる揺らぎ振りの、環の陰さえ無い無さの舞い逸れ脹れる程に、な程を厭う細みは重みを重ね堕とす狭み已みに舞い尽きる褪せ乱れと換え透け衰える儘に、な儘の乱れ撓みを貫き偽らされるそれとも独り偽り逸る眩み狭みをそれ限りの響きに換え翳して眩みの綻びを拐かし毀し躙らせ回し断っては眩みの微かな偏りを論い、磨く歪み貫きの均しく混じり明るむ映え擬えを暗み限りへと擬え直し煌めかせ、にも直ぐにかに、なく煌めかせの眩み窮まり躙り驕り縮んで呼ばれ損なわれ已まない円み

の欠片の縁の縁より奥を拒み尖り巡る縁を逸れ曝き隠らせ直して明るみ異なりの異なりを通わせ拒もうかにも煌めかせの失せ凝る硬みさえ潰し匿い果て翳されるる丸みを乞う響きの痕めいた薫りなら薫り、で無いなら薫り違えられて接ぎ流され失せる脹らみの彩りを重み逃し煌めかせ異ならせて硬みの溢れ褪せる姿を酷く斜めに掘り照らし窄まる歪み鈍る鈍みと重みの距たりを裂き溢れ回す、にも、な溢れ回しの影の湧き窪まりが乞われ超えられるしか無いなら無くも無さは歪み鈍みに重なり衰えて重みの増される限りな煌めかせ異なりへ映り破られる硬み捩れ振りの翳され潤むそれとも潤み抗う明るみの溢れ褪せる褪せが知らせ穢そう穢れの浄められ絶え収まる収まり独り限りに衝き煌めいて煌めきは剥げ逸るかにも剥げ象られる穢れを乞い射ろう光りの現れを隠し距てる煌めきの剥げの濡れ表れるかに重みめく象られかに縮み接がれ裂かれる裂け口の開き汚れるしか無さと同じ眩み躙りに添い標される煌めき異なりの果て固まり湧く汚れるしか無さの接がれ暈かされ浄められるせいで煌めきの剥げ異なりの細かく刻まれ潰され炙られるかに重なり衰え盛（さか）る形（なり）に、な形（なり）が重なり数え逸り圧されるしか無い限りな衰えそれとも盛（さか）り堕ちる反り乱れが眩みを指すらしい丸みめく儘に、な儘を剥がし束ねて断ち切れる限りに断ち切り尽くし留められるなら揺らぎ驕る辺りから脅し薫るそれとも薫り躙り潰される兆しに弱り溶かされよう尖り振り独りが薫りを奮い剝る限りな

い柔らかみを塗り脹らませ隠らそう穢れ捧げられる明るみ穢れ貫かれた反り乱
れを薫らす眩み躙り厭きられて滑り抉られる柔らかみの崩れ数えられ逸れる儘
に腐り盛（さか）り堕ちる重みに象られる粘粘と薄まり硬い限りな燻みを鋭く
溶かし鈍らせ眩み躙りの揺らぎ堕ち懸ける重みかを斬り回す形（なり）の濁り
偏るなら厚く歪む虚ろを翳し驕って尖った声で潰れた声を囲み荒らす丸みの暗
みを差すように映して映る儘な燻み歪み整う窒がりそれとも窒がりの切り裂か
れ固まり脹らむ煌めきに塗られ潤まされる声の響き限りな窒がりに転げ眩むよ
うな反り乱れを逃れ強いられる儘に匿われ明るむ独り犇めき延び刈られ暈かさ
れる傾きは、に眩み躙り違えられ切り分けられる弱みから硬みを割き接ぎ揚げ
る捩れそれとも捩れ偽られ失せて刳られ磨かれる軽みの騒がしさを粘り溢れ褪
せさせよう、な形（なり）で向かい狭み染みた偽りの戯け狂う振りを翳し擬え
暈かす、重く狭み分けられる程に大き過ぎる明るみの透け高められ昇り凝って
失せ欺かれる透け衰えの響きを重ね絡ませたかな高みを急き貫き返す返し際の
贋の裏を素速く見せ抛って、な抛られを照らし映すらしい透けの白み漁られる
軽みそれとも軽みの響きに崩れ白む様を超えて尚も透かし映える贋なりにも裏
なら裏を匿わせ強いて匿い逸らせる窪まり限りな距たりの距たりに背く透けと
の距たりを驕り塞ぐ距たりに狂い違えさせられるしか無い明るみそれとも暗み
揺らぎ異なる狭みの鈍み限りに暈かし接がれる平らかな弱みの残り滓かに勇む

汚れ窪む振りを流し滑らす軽みの匿われ痕なら痕、で無いなら窪まり照り渡る偏りが数え暈かされる度に明るみを途切れ勝ちに潤い掠れ漂わせる、窄み割かれる兆しに掻き消される振りを自らへのみ戯れ已まない窪まりの、な戯れの外へ響き照り拋られる透けの僅かに小さ振る丸みの厚みに圧し拉がれるかな仄かな穢れに馴れ添うしか無い窄み割かれる兆しの割かれ直されよう噴き狭まる鋭さそれとも、な鋭さを斬り纏い転げる影の虚ろを駆り回すかな透けを貫き汚し已まない刳られ衝き揺らぎに圧し犯され躙り狂わされる偏りそれとも、な偏りへ抗い荒ぶる驕り縮む狭みに凭り掛かるしか無い撥ね怖じる戯れ擬きな刳られ衝き潤みを乞い継ぎ躍らせその戯れ擬きの僅かな狂いを炙り曝し逆巻かせて眩み固めたい望みの望み無さとの捩れが覗き拡げる偏りに、穢れ射られるしか無いかな眩み躙りを置き移そうと眩みを破り暈かそうと焦る企みが曝かれるなら曝かれ滑る儘にあやふやにずれて躙り潰されそれとも潰し延ばされる果てが裂き綻ぶ徴の暗く沈み始めた偏りから撫で湧き響く丸みの溢れ光る光りの内へとだけ衝き煌めく形（なり）の溢れ揺らぎ直り歪む明明と脹れる姿限りに眩みを舞い回す兆しの透け弱るばかりな勢いに凍り暈けて容易く穢れ染みる振りを遅らせ盛（さか）らせる偽りを隠さない穢れの裏を抉り失せさせられた脹らみ已まない静まりそれとも静まり尽きる果ての震え煌めく眩みの戯れな、にしろやはり偽りを隠さない静まりの偏り染みた驕り振る虚ろを潰し移ろわせる静まり

との距たりの影の虚ろを影の外から満たす丸みの連なりに柔らかみを差し延ば
すしか無い光りそれとも、な丸みの連なりを内から暗ませる光りの震え凍る僅
かなり偏狂わせ犯す丸みと丸みの境を滑り凝る明るみの内を隅隅まで集め裂
いて固め、に、で圧し爆ぜ残る窪まりの欠片の欠けようでも光りの内の暗みは全て
汲み取れる深みを拵え熱く白み振らせて眩みの欠片かを照り纏わらせるなら纏
わらせるで、な深みに堕ち白む眩みの尖り震え驕って丸みが指す明るみの底へ
底に相応しい光りの丸みそれとも丸みに拉がれ輝き溢れる熱さを浴び惚けるか
な暗みに紛れ尖り、にも、な惚けた様を祝い漁るような形（なり）を追い鈍ら
せて鈍みに疲れの乱れ差し撤かれるのを厭いもせず眩み迎えて甘みに渇くかに
迎え回すなら回すで疲れの恵みを施されたかな丸みの均しく穢れ煌めく欠片か
欠片を呑む光りの虚ろの光りに添って離れない光りの穢れとだけ淫らに当ても
無く交わり衰えるかにも衰え失せた痕と痕の外が交わす光りの暗みの綻び限り
に艶めこうと硬みに覆われる穢れに窒がり煌めき嵌まって光り異なり象られる
眩みの衰えを兆す厭われ繰られる薫りとの距たりの重みの纏わり泥む姿それと
も姿の無さが驕り貫き失せさせる光り異なりとの境なら境染みてだけ境の暈け
崩れ煌めき鈍る穢れへ躍り裂かれ必ず何の薫りでも無い唯薫りなだけの薫り過
ぎて褪せる内への窄まりが撥ね翳す外の丸みが暈かし延ばす影に触れようと擦
れる捩れなら捩れ、で無いなら捩れ無さを擦り欺く丸みの影との距たりの狂い

無さが抜き翳す触れられる厚みに滲み失せる薫りの痕の薫りの薫りとの距たり
を差し標す狭み已みの奥から拡がり迫る古びた環を延ばし画きたげにも環の始
まりから責め殺す、薫りの内に匿われて噴き響く偏りが磨かれ窮まった明るみ
に絡み迷う振りを翳し濡らす、かにも擦れ已まない響きの偏りは硬い限りな丸
みの影に閉ざされ断たれるそれとも断たれ丸められるようにか圧し刳られる硬
みは、影の裏を抉る丸みに負け駆られるかに圧され傾いで傾ぐ儘な姿から深ま
り滲む響きの震えるのさえ許されないで透け濁る果てを絶たれた拡がりに額ず
き渇き傷むばかりな髙みの降り滑る重み染みた、穢れでさえ無くに絶たれた拡
がりを延べ探る高みに束ねられる明るみなら自らを反り撫でて穢れと一つな硬
みを拒みを招こう、な拒み招きが潜り荒ぶって高みを掻き震わせる企みを仄めか
そうと、に噛み合おうと遂に画かれなかった環の腐った影が影の内を内へ裂き
咲かす花かに映え抉られる重みの堕ち穿たれて浮かび深まる縁を綻ばせる明る
みそれとも明るみ異なりが均しく衰えさせる絶たれた拡がりの奥を曝き窒ぎ、な
曝き窒ぎに照り縮む尚も画かれようとされる環の徴を探り弄るそれとも徴の痛
みを滲ませ象ろうと未だ徴の形を知らなくて徴な徴を集め貫く遠回りかに咲く
花ならぬ何より穢れるしか無い穢れの噴き爆ぜを翳し回し巡らそう、な巡らせを
堪え抛り転げる低い限りに低みを延ばし拡げ絶って眩み躙らされの後を追い厭
うしか無くに偏り響く傷みの徴を垂らし巡らせては傷み鈍る、な鈍みに塗り刳

られ躙る深み擬きかに傷みの徴の響く明るみを拒み貫くなら穢れに醸され澱のように明るみの縁に刻まれる尖り逆剥け鈍る儘に失せ距たろう、な距たりこそ先ずは失せ厭われる儘に失せた穢れの痕を恨めしく舐め凝るかに狭み通う光りそれとも光りに冴え匿われ掠れる微かな響きの光りとの距たりへずれ接がれて細かく裂かれ粘る脹らみの始まり尽きた痕を、痕とは異なる強いられるように湧き均される煌めきばかりへと象り移し映して穢れ直される徴なら徴、で無いなら徴と徴異なりの噛み合いながら互いを隙無く変え已まない緊い光りを呼ぶばかりな震えの濃やかさを偏らせるにしろ、な呼ばわりの偏りは光りが僅かにも来ないせいで偏りを傾きに擬えられて凝り煌めきとも呼ばれようかな毀れる徴と徴異なりの隙の無さに彫られ溢れる暗みの触れられる重みに湧き巡る穢れを偏りに溶かし、贋の湧き均される煌めきを剞り窄めて窄まりの内に深まる丸みを騒がしげに沈む偏りに浮かべ向かわせる眩み躙りが厭われる儘に贋の凝り煌めきの陰の痛みに接がれようにも偏りから滲み浮かぶ軽みの、捥がれた翼を贋の凝り煌めきに潜らせ磨かせたような偏り失せる呼ばわりの丸みそっくりな仄明るみの奥に甘く小さい限りに象られ匿われて光りを暈かし放つ窪まりの小ささを窮め誇って滲む陰の晒され窒がる形（なり）を衝き現すかにも、な形（なり）の詳しく裂かれ細まる細みの厚く噴き奥まり開かれる開かれから始まり已まないそれとも裂かれ已んで光りを避けるかに窒がり縮む、呼ばわりの偏りに

貫かれた痕に似せた干涸らびた様を翳す呼ばわりの光りとの距たりに窒がり躙る振りで偏りには負えない変わり振りを沈ませて窪まりの陰を窒がりへ接ぎ躙らせよう明るみ乱れて撓む偏りの失せ已む様に怖ず怖ずとも馴れた手付きでかに覆いを滲ませる企みばかりが漂い定まり、に贋の偏り痕かを透け潜り果せたなら硬い匂いの傾ぎ滑り舞って舞い下る儘に高みの暗みへ暗みの裏を探るかに深まり逸る、かにも偏りの失せ已みに滲まされた覆いかは斑に透け撓み乱れて乱れ明るむ撓みを重ね巡らせよう兆しなら兆し、で無いなら兆し果て穢れる儘に穢れを刳り眩ませて明るむ撓みの震わせ兆されて貫かれた痕の撓み乱れへと滑り差す泥濘めいた透けに絡まる薄っぺらな濁りの始まりが誘い高めよう、明るみを絶ち接ぐ徴の拵えた窪まりに嵌まり割き湧かされ衰える眩みの乱れ流れるかにも眩みの掠れを鈍く強いられ傷んで傷む儘に眩み捧げられる高みの直り貫かれ乱れ流され絶えない偏らせならら、高みに匿われ厭きた始まり果せた円みの触れられる影の厚みを滅ぼし迎える身振りかの偏りの滑り込む果ての痛みに庇われ確かに守られる小さ振りに自らを擬えようと痛み逸り頽れる幼さを翳し明るませる細みの響きの奮い拡げられる儘かな甦りそれとも、な甦りとの諍いが彫り向かう向きに丸み振って明るみを刳り裂き盛（さか）る痛みの並べ磨かれるそれとも磨き違えられ撥ね狂わされる明るみの失せた徴に徴を被せ裂いて、な裂け口の撥ね伝わるなら独り高みを薫らせる澱に埋まり隠る痛みの果てに甦

る並び磨かれ尖る光りの高さの競い合われ光りの内へとだけ動き震える眩みの
硬い限りな衝き上がりを痛みの果ての柔らかみに貫かせて翳される僅かな圧し
偏りの恐らくは象られは、薫る限りな高みを一息で濁り盛（さか）る明るみを
潜り漁る丸みの棘棘と陰を産み出し已まない暗み傾ぎ狂う振りの笑い凍るよう
な狂い無さを圧し殺す、高みの薫りに叛き驕って滑り鈍る重みの尖り尽きて細
み傾ぐしか無い無さの疵塗れを装つて痛み脹れる厚みなら厚み、で無いなら抛
り戻される重みの内の刳られ捩れる丸みを匿い閉ざそうと謀られよう笑いの狂
い無さに包（くる）まれた眩み躙りの硬く動きを殺す動きに擬えられた荒荒し
くも滑らかに暈け脅すかな形（なり）を圧し偏りに圧し偏らせ頽れる眩み躙り
の掠れよかとする企みの予め抗わなければ磨し偏りが映し堕せす圧し偏みの痕
に吸い抜かれよう弱さそれとも弱さが迎え磨く圧し偏りを厭い抛る徴の湧き均
される縁を撫でる影の硬みに集る圧し偏り異なる徴との入れ替わりに萎え摩ら
れる、圧し偏り異なりの堕ち傾れ巡ろうとする贋の影ならば噴き荒れる様を崩し
崩し遙かな円みの欠片に添い紮すかに贋の内を抉り回して粘り深まる危うさを
弄び固め已んで已み重なる欠片を偽る姿を象る、明るみの欠け鈍る暗みの溢れ
褪せる傾きの鋭さに映り滑らされる光りなら光り、で無いなら円みを拉がせ過
ぎたかな痛み限りに象られる低み逸って却って高みに窒がり環を描こうと企む
企みの薄く丸みを帯び震えるそれとも震え凝る奥に僅かに覗く水の陰かな、そ

れとも陰に匿われた水の虚ろな姿に映る明るみの欠け鈍りを齎し貫く高みと明るみの差し違えを象り逸れ已まない已ま無さの圧し偏りの奥まり躙りを欺き浄るるしか無い振りで互いの喉の奥を吸い潰す喜びをなぞるかな構えの、けれどめえの薫りばかりを戯れさせて奥まり躙りを呑み合い穢し合う形（なり）から構めてその形（なり）に貫かれた望みを震わせ蕩かして光りの厚みをその形（なり）の中へ流し映したいかにも、な映されの穢れ果てた眩みは光りの厚みの蕩け絡まりに重なり謀られる濁り躙りを映し企もうと薫り震える、な薫りを欺こうと圧し偏りの奥まりを透かし接ぎ違える構えを細みを曲げ深めようとする限りに乞い被せて高みに逃れ窒がるかに澄ましに懸かる贋の薫りを抉り回そうとする縁に湧き頽れ厭い曇る影の兆しを刺し暈かす震えを撫で絶つ限りに乱れ滲ませ眩み遅らせる果ての崩れ始める徴の穢れなら穢れ、で無いなら穢れの徴の内を巡り走る痛みの延べ失せ偏るしか無い捩れを追い滑るそれとも堕ち暗んで低みを暴くかな眩み躙りを映し凝らせ已む、な已みに炙り放たれるかな明るみの偏りばかりを尖らせ固めた光りの粘りに纏わる眩み已みを仄めかすらしくにしか無い低みなら偽りの明るみに向き驕るかに偽り泥んで泥み透け潜る艶を撫で接ぎ貫くかして光りより古い古さ限りな圧し偏りの萎え傾げ刳られよう暗みを乞い漁るそれとも、な暗みのさも偽りめいて薄く重なりずれる厚みを囲み絞めて暈け穢れる震えの明るみを出し抜く程の狂い無さは、圧し偏りの古さ

を新しさに換え穢し流し舞い驕らせて、な儘にさも疎くに拉がれた円みの影を
映す濁り躙りの縁を舐める穢れめく高みそれとも高みが高みな儘に光りの奥へ
真下に堕ち刺さる速さを呑み違える薫りと明るみの絢い交ぜられ光りを溢れ倦
ねる障りの頑なな荒ぶりの硬い揺らぎでしか無い既に円みの疎さの影の影の頽
れから円みは失せ果せて影との異なりでさえ無いなら唯光りの圧し偏りを乞い
除けるしか無い無さが堕として見出す隙の奥に覗き象られ縮み果てた高みそれと
も、な象られが象られの外を接ぎ違えるしか無くに高みを潰し絶つ圧し偏りの
衰え傾がれながらも衰える程に偏りを増して象られの外を断ち崩し掻き裂いて
は自ずと噴き出す眩みの厚み振りの躍り翳されるなら翳されるで、な翳されを
溢れ斥けさせ光りへ捧げ呼ばわされ幾つもの欠片へと回し抉られる翳されと翳
されの互いを並べ貫き掻き断ち明るませる企みの古さへ距たり絡もうと震える
振りを窄ませ偏らせる眩みの失せ躙る形︵なり︶の形︵なり︶より外へ穢れ抜
けようと捩れ焦がれて震え擬きな真下への光りそれとも光り異なる尖る限りな
重みの重みを穢し抛るそれとも抛り驕る限りに密かにも艶めいて円み違えられ
る振りを誘い頽れる黴を僅かに回し懸けるように残す光りの痕かな低みそれと
も低みの底を滑り失せ拡がる影を裂いて裂け目の奥に浮かび鈍る震えと明るみ
の向き逸れ向かうなら向きの果て無さに静まり放たれる塊の仄白む明るみに抗
い溢れ違えられ湧き裂かれる軽みさえ帯びない小さな丸みの暗みを上滑る様が

見上げられ、に高みを見上げて暈け失せさせる明るみとの距たりに貫き吐かれ呑まれる明るみを明るみの明るみより明るい外へか貫き逸らして高みに叛く限りな明るみとの距たりを圧し偏らせる細み傾ぎを、、高みの痕の有り得なさを映し追い疵付ける濁りに匿われる痛みに似た細み傾ぎを暈け翳ませる眩み躙りの断ち抜けられる翳み沈み窄まる速さに添い縮む濁りが震わす重みの明明と乞い塞がれる内から内の裏へと食み出したげに内へと煌めくらしい重みに隠る硬みの縁を辿ろうと高みの底に擬えられる硬みの奥まり滲みを曲がり撫でる、、にも射し映され照らし鈍る震えなら痛みを拒み驕ろう構えに自ら囚われ痛み遅れては痛みを褪せ接ぐばかりな白み滑る硬みの顇れ沈む痕が、、な痕に噛み合うかに溜まる影を揉み綻ばせる明るみとの距たりが距たり異なる儘に距たりと距たり異なりとの距たりを痛み遅れに嵌まり溢れそれとも嵌め撥ねられて散り窄む震えの明るみから滲み堕ちる淡い陰かな仄穢れめいて暈け已むなら硬みを乞い招きたい痛み遅れの象られ映えて痛み遅れを衙え損ないで衰える小さい限りの陰の薄み限りが独り抛り試され盛られる浅みに侵され堕とされ汲み窪まされる眩暈擬きな犯され已みから眩みへの裂け厭われて粘粘と積み濡らされ低みの上辺限りに傾れ浮かび顇れる、に深過ぎるなら陰を溶かし抜かして明るみの透け浄められ削り紡がれた眩みが匿い潰す虚ろの痕かを裏打ち鎮め深め翳す、な裏の消されるかな深みの厭い奪われる微かな丸みに囚われ擲たれよう響きの暗みの揺

蕩う奥まりの狭み直って奥まり偽る象られに滑り流れる、閉ざされ盛（さか）って白く煌めき暈け固まるなら円みの真ん中を裂き求めて堕ち丸まる影の濁り傷を矯め圧し砕いて兆させ重たげに舞い鈍らせ斑に揺れ捩らせるかな厚みの内の狭い深みから照り返される乞い裂かれる響きとの距たりに透かし浄められ回り、舐め懸けられるまた違う響きの鋭さそれとも鋭さ異なる異なりに振り絶えたれる煌めきを撃たれる躍り匿う裂き標されて置き暗まされた窄むばかりな奥まりが暗みの裏を探し巡ろう、な奥まりの汚れた丸みが見出されるなら、な丸みは失せようかに奥まりの奥に影の濁り傷を乞い抉る鋭さ異なりが招き向かい倦ねる穢れなら穢れ、で無いなら乞い裂かれる響きとの距たりに逸り割かれよう捻れて暈け損ないを欠く円みの真ん中の重みに紛わせ換えたそうに穢れを継ぐかな深過ぎな様を逆さに向け脅される唯穢れめいては独り白み滑る硬みの頽れ沈む痕に圧し偏られよう拉がれた形（なり）を透かし煌めかせ、かにも、な、かにも、を、拉がれの痛みへ揺り戻し凝り滑らせて穢れを擬えようと窄まる奥まりの狂い無さは、奥まりに叛き驕る儘に（二〇二四年十月三一日）

濁り煌めく暈け翳みを溢れ違えさせる暗いばかりに緊く散り溢れ戻る見通しを見通される儘かに刻み透かし騙し通す穢れ照らされが象り匿う、仄温くざわめ

くかに影の濁り傷を離れよう丸く脹れ冷め奥まって曇り透けるのがやっとな幾
重にも重なり溶ければ一重をさえ保てない陰を、な陰を陰とも明るませられず
に低み抉られ陰が隠す薄みを剥き鈍らせる靄り拡がりに抑え衰える傾きから溢
れ異なる潤みの冴えなら冴え、で無いなら陰が隠した薄み限りを剥がし除いて
陰とは係わらない僅かな明るみの潤みを纏うかに象られる白み滑りの奥に擲た
れ戻り静まり冴える眩みの匿われは、直ぐに陰の明るみでしか無い温い硬みを
透かし細ませる白みに圧し暗まされよう、な暗みに照らし侵され撤かれる薄み
へと棄て象られる徴の溢れ驕る騒がしさを潰し曇らせ、な曇り鈍る縁の丸みを
惜しみ裂いては低く通り絶たれるなら明るみとの距たりを顕わに外して暈け損
なわれる贋の円みの影の揺らぎを満たし標して欠ける、かに窪まり吐かれる兆
しに厭い擬えられる揺らぎ限りの外を薄みに換え失せさせる眩む狭み貫きを追
い裂き包む、仄犯し照らされる薫りを駆り舞わせ揺らぎを驕り抛る眩みの静ま
る縁に沿つて狂い無い揺らぎの象られの知れ無さを回し浸ませる、な狂い無さ
を揺らぎに裂かれ抛られて傷み潤む薫りに贋の円みの影の揺らぎを添い溶かす
一渡りな狂い無さの乱れなら乱れ、で無いなら乱れ損ない光る白み擬きの透け
頽れる奥に滲み褪せる光り異なるせいで白みとは逆さに薄みを奥まらせ明明と
窄ませ換え照らして触れられて窪もうと艶めく丸みの刻まれ繋がれ乞われる幼
さかな細みを装い喚く薫りが通い崩されるなら、崩され積まれる厚みに微かに

も汚れを拒む圧し偏りからの小さい限りな厚み失せを籠めたかな鋭く短い光り
の数数の戯れ集り窮まる一冴えに整え翳まされる喜びなら喜び、で無いなら喜
びを装わされ厭い穿たれる底に待ち溢れ直る眩み躙りの、駆り躱されながらの
抜け擡げられ振りを固め穢そうと喜びを喜びな儘に厭い穢すしか無くにも、な
厭い穢れに躍り砕ける光りの仄翳されて噴き堕ち狭まる痛みが痛みを締め惑う
限りに眩み躙りへの狭み歪みが乞い焦がれ抜かれよう刳られ捩れでは、潤み傷
む硬みを纏う形︵なり︶に自ら浸り乱れる望みを連ね整えようと窒がり窮まり
損なうしか無くに途切れ照らされ欠け翳される痛み異なりを崩し上げ已まない
已ま無さは溢れ溶かされそれとも、涸れ重み暈かされて暈け通り撤かれ歪む儘
な貫きに直り欺き負わされる果てに躙り翳されるしか無い眩みの冴え振りを驕
り固める細み傾ぎの、溶け溢れるかに貫き違えられ湧き涸れる兆しを傷みの薫
りに換える構えを衝き頽れさせるか、に傾ぎ躙る薫りを翳し捥ぐ潤み傷みの冴
え鈍る限りに眺め貫かれる硬みに偏り擬えられる細みを湧かせ犯す硬み振り、
それとも硬み偽られ薫り塞がる崩されの、微かに崩され穢れ直る窪まりの濡れ
鈍るかな底に矯め照らされ斑に透ける象られを乞い通す贋の薫りの溢れ騒いで
仄已む暗みの戻り散るかな形︵なり︶の温さに微かに溶け静まるそれとも、な
温さを惜しげに煌めき曇らせる徴の奥に剥がされ接がれよう拉がれた喜びを混
ぜ逃れさせ温さの汚れを暴く静まりの白みらしさに汲み掠められては傷み潤ん

で薫り躙りの陰を兆し産み違える透け連なりを繋げ捩らせよう暗みに、傷み潤みを劈き眩ませる静まりから搾り流される透け貫かれに異なり照らされ、な照らされを穢し明るませ崩し暈かし已まない喧しさの鈍み逸る煌めきめいた形(なり)に独り濁り通され溶かし晒されるなら、な形(なり)を拒み隠す明るみが映され暈けては頽れ窒がれる様の途切れ丸まり懸けて透け曇る儘に舞い脹らむ煌めきを剥がし射す光りなら光り、で無いなら煌めきを窒ぎ溢れさせる僅かな重みの驕り傾ぐ上っ面に独り圧し結ばれ驕りに擬えられ濁る濁りに絡み爆ぜる兆しかにも、薫りの静まりに斬らされた光りを泳がせ侵すかなる均された驕り躙りから込み上げて淡く穢れ遅れずらされ濁りを汲み騒がす明るみの抛られ腐らされる向きへと遅れ已む明明と贋の陰を呼び刻んでは綻び荒ぶる静まりを撫で眩む内を差し分かち、戻れない環を閉じようと失せ泥むかな凝る丸みへ接ぎ滲もうとする潤み傷みを翳して光り研がれる透けの陰と一つな細みを宿らせる光りへの明るみそれとも明るみの失せ曝されは、明るみ頽れる凋む陰かの殖え已まりない奥まりに塗られ震えて溢れ掘られる薫りの冴え兆しかにも、な兆しを縒り添えようと萎え尖り拉がれる光りそれとも、光り已むしか無くに穢れに叛く構えを暈かし驕らす、光りは剥がされ唯已み限りなり連なりの、薫りに擬え偽られる明るみ頽れの接ぎ抜かれて、な接ぎ抜かれを距て厭う冴え兆しにに偏り除けられるなら、な偏り除けられを舐め尽くそうと弛み綻ぶしか無い自らを贋の薫り擬

きで裂き曝くかな勢いに耽り褪せて汲まれ騒ぐ眩み躙りの冴え兆されに映り堕
ちる重みを裂き窄ませ、に絶え改まる暈け翳みが躙り堕とそう内を穢し隠す陰
の仄砕けて眩みへ堕ち明るむ反り狭みそれとも、反り狭み已むなら、な已み限
りに光りを拉がせ砕くかに陰の穢れを載せ磨かせる、明るみを距て透かす透け
距たりとの触れられる偏りの狂いに惹き惑わされる陰への犯し戻りが潤ませ直
す偏りの狂い已む狂い無さを翳し崩して、躙り絢われるかに割き窒がれる狂い
已みの痕を挽き象る偏りの偏り違えさせられ躍る透け濡れるかな狂い無さの奥
を拡げ凝らせ、に凝り荒んで潰れ撥ねる狭みを兆し逸れる儘に遅過ぎるなら激
しく均され暗む窪まりの失せ穿たれ通される一貫きの厚み違えを呼び移す振り
に慌て窄むかな触れられる狭みの兆しの透け接がれて微かな厚みに匿われる狂
い無さの無さ限りに狂い已んで穢れ狂う、なら、な狂いに浄められ被さる濁り
窮まる靄りのずれ遅れに割り磨かれるかに狂い已んでの穢れ狂いは贋の薫りを
抜き超えて冴え耽り褪せる兆しの割き窒がれめく際を崩れる姿へ統べられよう
かにも、隠し詰められた裸を晒し脹らす穢れ躙りの堕ち映り翳され丸まり窪ま
る縁の揺らぎかに重たげな彩りを粘らせて置き流され懸ける穢れの滞りそれと
も、な穢れ躙りに象られ遅れて傾ぐ影が明るみの拉ぎ刳られる先に仄翳され円
みの縁を映し絶って独り浮かび磨かれる冴えの揺らぎの重さが、触れられる縁
なら縁を求め溢れ僅かなその縁らしさでも濁す偏り振りに拒まれ明るまされる

硬みから汲まれ騒ぐ暗みに侵され弱るせいで穢れ躙りに耐えられない影の明る
みかな、にも、に刳られ噴き惑う躙り冴える限りに欠けた円みの縁の痕を標す
暈け翳みを撫で厭かし舐め尽くし頽れる儘な冷たさを抛り匿って匿い穿たれよ
う虚ろの硬みを真似負ける片硬みそれとも、な片硬みに撥ね溢れる重みを負け
損ないかに偏らせるしか無くに明明とも片振る穢れ擬きを犯し已む片已みに崩
れ巡り戯れる已み限りの連なりの冴え劈かれる透けに咬まれ撒かれる徴として
の片已みの甦り隠ろうと望むらしくに、な、らしさに惑い揺蕩う靄りから微か
に静まり偽られて漏れ測られる重みの濡れ低まり振る突き乱れに震えさせられ
圧し示され抜け貫かれるかな掠れた薄みの、薄みの奥を裂き表す片已みの掠れ
盛（さか）る徴なら徴に叛き曝され溶かし寄せられる向きの一振りに乱れ斬ら
れる儘な向きの重みに傾き垂れて高められ褪せる低み刳られなら、な刳られに
低みを違えて抗う儘に片已みと片已みの裏を固め拉ぐ鋭さを擲ち滑らす鋭く堕
ち窪まる影擬きの噴き昇りは、揺らぐ振りで片噴く振りを自ら嘲り直りながら
に片已みの甦り隠りを抛り舐めるように薙ぎ犯しそれとも、犯し泥む儘な象ら
れに屈み固め換えては、な象られを戻し遠ざけ、な儘かな、けれど必ず、な儘
とは異なろう拉ぎ刳られ独りが隠され尖らす揉み尽くされて映える儘に凝る裸
かを晒し濁らす濁り限りに失せ盛られる見窄らしい疵でしか無くに表されて疵
な自らを侵し矯めるかに固め噴き堕とす揺らぎの兆しそれとも、な兆しを疵と

だけ象り照らし崩す裏返りを乞い上擦る響きの鈍みへは傾れ射し剞られ届かな
い届かなさを割き驕る徴が揺らぎの兆しを兆し返して焦げ失せるかな疵との重
みを孕み透かし合う綻びは、綻びな儘に兆し返された兆しの姿限りに拉ぎ剞ら
れ懸ける様へ剞られ放たれよう暗みを暗みへ圧し照らす疵との距たりに満ち澱
む重みが重みに傷んで丸みへ逃れたいかな暗みの衰え振りを滲み拡げ、にも、
な滲み拡がりに重みを匿い遅れさせる遅れに遅れ鈍る割き驕りの僅かな過ちか
な傾れ滑り根差され溢れる汚れ騒ぐ力なら力の外からの、力とは異なる異なり
振りに触れ萎える真っ直ぐに透け偏るならら微かにも疵を其処に映し射そう仄象
られ侵される潤みと丸みの互いを割き違える力異なり振りの振れ荒ぶ流れの自
らを濁らせ砕く鋭さに統べ暈かされて予め冷め奥まったかに行き止まる奥まり
の向き直る姿に凍り果てるかな遠い穢れを粘り映して片撥ね溢れ細まり窄む、
に潤みと丸みの割き違えの衰え已まない已ま無さに触れ萎え直る力異なりの萎
え躙りへと裂け拡げられる内へ萎え捩れて傾れ下る贋の距たりの贋の明るみへ
向き回ろうと暗みへ嵌まり荒ぶるなら荒ぶり醒め撥ねる裸かが、裸かの外へ蹲
ろうと乞う窄まりに凝り差される暗みに沿う穢れの晒し窒がりを逃がし消すそ
れとも、な晒し窒がりを拒んで直ぐに拒み已む疵を失せ盛られたかに割かれ驕
る徴を汚げに浮かべ纏い懸け剞り遅れる拒み已みとの距たりの狂い無さに撥ね
違えられる儘に乱れ結ばれよう明明とも捩れ拒み已み已む已みの折り返され窮

まろうと已み直る限りな、にも唯已みの狂い無さに醒め撥ね惑って蹲る形（なり）に塞がる儘な姿を失せ盛（さか）らせるしか無い無さに甦り隠る重みの撥ねそれとも、重みを犯し頽れ曝す狂い無さに研がれ果てたかな拒み已みを擬えるらしい細みは、な狂い無さに纏われ汚れる重み白む騒がしさを摩り尋ねる振りに躍り溶ける果てに脹れ流れるかな儘に重み白みを割かれて驕りの陰かに換え傷ませ移し割いて割き穢される驕りの陰を象り浸らせ慣らし、に、な陰が匿う割き驕りを曝き惑わせる企みに犯され馴染む儘にも、な企みの溢れ潤んで剥かれる先に点る裂かれ馴染まれた煌めきを滲ませるかな凝り差される拒み已みを透かし騒がそう虚ろを映し忍ばせては辺りに構え延べられる割かれ驕りの裏を向きたげな薄い限りな陰に触れ白み連なって独り穢れを撫で接ぐ一撥ねに齎され懸ける乱れが開け交わらせる、に濁り剥かれるしか無いなら無いで、な無さの無さ異なる重みに撃たれるような上辺から真下へと浸り溢れ重み標される穢れと穢れに叛く穢れの影との失せ合う合い目から射し統べられ密やかな匂いを芽生え浄めさせる上滑る限りに穢れに叛く影とその影に匿われ現れる穢れを兼ね撃ち傾れさせる儘に潤み重み失せるなら失せるで失せ已み潤む潤みへ犯され甦ろう贋の割かれ驕りが呑み崩し減らす、にしろ呑まれ減らされ逸る浄められの象られに囲われ薫る影の、な薫りが曝し眺め歪める裸の彩りかを透かし衰え刳ろうと已み潤みの已み遅れるしか無い内へ匿い失せた已み異なりの異なり

失せ嵌められ透かし盛（さか）り傷む狭み已みへと傾れ翳される、な盛（さか）り傷みの崩れ舞って置き厭きられるそれとも、鈍く舞い均される儘に裸の彩りの失せ固まる重みに蹲るかな形（なり）を傷みの崩れ振りに結び違え舞い躙らされて溢れ細まるなら細まり明るむ外へ明るみを貫き窒ぐ、な潤み振りが逃がし消そう数えられるしか無くに絶たれる、な数えられた数の無さに兆し犯されるる明るみが凝り通い鈍って濡れ沈む様を狂い眩む奥まりの奥まる程に奥まりの裂き延ばされ尽きて尽き捩れる捩れに換え鈍らせるなら、な捩れに逆らう狭み已みへ狂い眩み裂かれる兆しの尽き捩れは独り蹲り映る重みを見えない裸に剥くかにも尽きない陰かに狂い眩みの堕ち粘り失せる痕かな明るみに匿われ剥かれて醒め驕る微睡みかに萎え躍り、眩み躙りを兆し冴え偏る偏り限りに真下への暖かみの鋭さを鋭過ぎに彩り逸る厚みの薫りの滑り盛られ映される傾きの欠片が偽られる弾みに冴え偏る限りに兆される明るみは、眩み躙りに剥き被せられ、かにも薫り限りが磨き掻かれるかに響かされる形（なり）を拗り孕んで孕まれ冴える片撥ねの淡い影かな甦りに喉され透かされて窒がる先に寄せ曇る、な窒がりから拒み盛（さか）って褪せ脹れる冴えを一重な拒みの姿なら拒み已むしか無い、な拒み已み限りな仄傷む象られを傾がせ絶つ細みは細みに溢れ冴え劈かれる儘に円みの欠けの欠け限りに招き標されて細み伏し惑う姿を自ら撫で眺め弛ませようと拒み已みを触れられる傾ぎへと甦らせ象るらしい狭過ぎる

眺めかな眩み弛みそれとも、眩み弛み違えられる仄傷みに接がれ統べられるか
にも触れられ萎え蔑まれ盛（さか）る仄傷み冴えの暗みへ差され晒されて棄て
馴染まされる円みの欠けに砕かれ映される環を丸み違え抜いて丸みを現し頽れ
たかな丸みの丸みの外の冷たさへの圧し偏りに因って失せ拐かされる裸の丸み
欠けが眩み弛みを圧し斥けるなら斥けるで、な斥けを映し惑う拒み已み際を昇
り撫でる、にも、な昇り撫でが圧し斥けに負け奮い光る偏り已みを割き匂わせ
曲がる細まり已まない厚みは、埋め辿れられる陰の淡過ぎる優しさの逃げ驕る
姿を焦がれ貫こうと圧し斥けを隠らせ映したい望みを望み異ならせるしか無く
にも圧し斥け戻される戻されの、眩み弛みに繋げ透ける様を翳し震わす丸みの
外に映るかな贋の圧し斥け擬きに眩み弛みを割き驕る振りで、眩み弛みと僅か
に距たるに違いないこれ見よがしな裸の光りを欠け躙らせ、に圧され透かされ
る仄傷む象られをその奥まりへと誘い撫でる儘に撫で拒み已むなら必ず拒み已
みは拒まれ直されよう、に眩み弛みとは距たりようも無い丸みの頑なに仄傷む
象られを拒み急くそれとも、拒み已む已み限りを割き弾いて研がれるように匂
い通わされる透けに匿われ傷んで傷みを拒み躙ろう、に眩み弛みを圧し標し直
す様を狂い無く暈け翳ませる眩み躙りへと換え明るませる儘に、な新しげな明
るみから匂い砕かれ弾んで眩み衰える内に明るみ驕る、何処へか已み溶かされ
る姿の眠り転げ撃たれる振りかに次次に現れ絶たれる渦を描きたげな数の唯毀

れ急く形（なり）へ頽れ誘（いざな）われよう、な頽れ誘われの静まりに擬えられて冴え已まない已ま無さを凝り舐めるかに傾げ凍らせ崩して崩し厭われるなら毀れ急く形（なり）は静まりを傷み濁りで埋め窒ぐ儘に、円みの欠けに砕かれ煌めかされ映される環に擦り沿い果てて果て窮まり泥むかな薫りを象り焦がれるかにも、な象り焦がれは、な儘に静まりの薫り冴え已ま無さを呑み転がして冴え濁るしか無い重みに還り砕けてさも賑やかに窒がり返り、に円みの欠けの影に堕ち脹れるかにも重みを拉ぐ重み昇りを象り鈍らす冴え接がれる象り焦がれの明るみそれとも、抜け駆けを独り許された予めかな明るみ已みの、奥深げな彩りを極める白み滑りを砕き浄めたかろう穢れ限りな弛みが眩みを拒み已ませるなら已ませるで、にも已み已む重み昇りの必ず反り戻り繰られよう明るみの冴え濁りから弾かれ潰される透け眩みに促される象られが乞われ已まずに斑に接がれ、に象られ接がれようとも却って絶たれるらしい重み昇りの、明るみに触れ萎えて裸に剥かれるかにだけ丸裸かの、な裸かの外へ柔らかく奥まり割かれる僅かな弛みの兆しを抉り通す確かな揺らぎ凝りは、凝り限りに剥かれ冷やされる企みを匿い腐らすかな弛みの兆しの溢れ冷え凝る眺めから明るみを奪い割く筈の尖り盛（さか）る重みの片脹れるなら、に偏り逸る弛みの兆しの痕かに匂い冴え拉がれるしか無くに凝り揺らぐ已み已む重み反りを細み凌ぐらしい冴え濁りの既に有る儘に甦り薫る透けの片抉られ奥まりに裂かれ静まる

濁り重みそれとも、な重みを拒みたげにも重みに塗れる震えを纏い傷むなら拒み已みに誘われ溢れ腐る、な腐りを象り孕んで重み尖る光りの冴え毀れて影を汚げに零し浮かす丸みを乞うかなり傾きの上辺に隈無く沈み萎える疵なら疵、で無いなら疵異なる事も儘ならずに自らの姿を撥ね転がし明るませて、な明るみへ堕ち尖る凍らされた匂いを真似て鉤型に遅れ弾かれる形（なり）を晒し凝らす重み拉がれの裏を晒して呼び招かれる冴え濁りの限り限り明るい限りな陰は、疵を萎え擬える軽みに響き寄せられるかな静まりを傾げ弛ませ、な弛ませを裂き冴えさせる疵を抉り絶とう振りを匂わせる仄傷む象られから剥き尖り透ける眩み躙りの兆しそれとも、兆し拒まれ陰を拉ぎ浄める狭み已みへと濁らせ標す窪まりに構え逸らされる限りな独り捌かれ凝る形（なり）を孕み晒す、かにも、な形（なり）を剞り暈かして棘棘とも軽みを呑んだらしい陰を暈かし薫らせ窮める眩み彩りの伏せ滲まされて細み褪せるしか無くに陰めいて直るなら直るで直り鈍り貫かれる貫かれ已みに圧し庇われる窪まりか脹らみかの孰れにしろ裸へと重みめくかなる細み傾ぎが尖らせ逃がす僅かな暗みの現れに眩み彩りを甦らせるらしい低まりを延べ均す明るみの醒め昇る様を追う象られが自らを奥まらせ匿い頽れ澄むなら、な頽れ澄まされて透ける影かに打たれ匂わされ刺さる眩みを掠め弾く狭みへと隠り窮まるかな幾筋にも細まり裂ける明るみの夥しさそれとも、眩み彩りから距たり惑って惑い埋まるしか無い黴を溢れ映えさせる、

映えるにしては鋭過ぎる細み傾ぎ冴えの下は尽きた真下へ堕ち垂れる儘かな剞られ衝るかれの失せ溢れ已む已み際で無いなら已み際かに孕まれ迎えられる明るみの痕かを艶めき仄めかす陰を咬み距てるような薫りに、徒に絶たれ蔑まれて衰え驕る眩み迎えの圧し砕かれ冴え標されるよう陰なら陰の古さの浅み据えられ溶かされ弛む彩りなら彩り、で無いなら彩り験される限りに彩りを砕き潰す重み掠められる疵の映り過ぎるかに凝り象られ、な象られの僅かな偏りを接ぎ撫でようと乞い響かされ縋る、酷く緊い丸みの奥に消され根差される様に薫らせ捩らせる陰を裂き綻ばせるなら必ず、な必ずは砕かれ過ごされる脇に、な裂かれ綻びの薫りを盛（さか）り蹲らせよう形（なり）の丸みを匿うその丸みの外へか溜まり甦るのを焦がれる余りに、裂かれ綻びの薫りの内へと暗み透け窪まる儘に丸みの外を一眩みかに触れ萎え急く、かとも眩みへと刺し逃れ惑う丸みの痕の暈け煌めき驕り衰える衰えは激しく爆ぜ薫り冴える儘かに裂かれ綻びの薫りに怖じ耽ろうに、な怖じ耽りに取り憑き断たれ穢される眩み迎えの自らの陰の窄まり艶めく重みの透け失せるせいで独り砕けた痕が延び伏し惑うかにも、な惑いなど予め呑み均して怖じ耽りへ易易と掻き渡した、眩みに抗い俯く鈍み染みた冷たさを繰り返す象られの戯れ閉じ已まない撓みなら撓み、で無いなら撓み頽れ懸けて数知れず接ぎ乱れ静まる裂かれ綻びの撓められ薫る響きの映え独りを、重み窄まる偏りに渡し轟かすかにも既に軽軽と速く響きに隠り浸って

裂かれ綻びの陰を装う柔らかみに塗れ窪み驕る形（なり）を裸に剥き刺すかに強か孕み絡ませ、かにも、凝り躙り渡される響き異なりそれとも、撓められ尽きた薫りを弾き重み迎えて刳られ接がれる薫り異なりの痕かな圧し躙り已む内に異なる姿を標し沿わせる響きの映え迎えに薫り返されるそれとも叛かれる、静まりを渡し混ぜ生す限りに裸かな綻びを疵に擬え延べ透かす褪せ細まり棄てられるしか無いかにも疵の陰かを欺き負い違えるなら、に薫り異なりの痕を痕異ならせて甦らせ暈かそう、に薫り已み暈ける静まりの褪せ驕るなら尚薫り異なりを吐き裂こう、に尖り接ぐ形（なり）に纏わり溢れる刳られ失せめいて唯偽りに拉がれる色を入り組み絡め巡らす、眩みとの繋がりを仄めかせ綻びるにしろ、な綻びも贋の刳られ失せに被さり躙られる既に欠けた縁に丸みを匿い尖らす重み昇りの裏返されるなら窄まり窮まり研がれる影の鋭く堕ちるしか無い閉じた疵かな暗みめく狭み冴えて失せ響く響きを厭き舐めよう眩み躙りに預け距たらせ、縋り埋もれ直され漂い傾ぐ偏りの凝り嵌められる綻びの偏りに次ぐ偏りなら接ぎ乱れ撓む偏りは、な儘な片失せ細まりに纏わり響くかにも解（ほど）きようも無く縺れ薫る柔らかみに差しずらされよう限りな静まりに失せ尽きない透け震えが眩ませ揺らし狂わせる、焦がれ已むかに薫り異なりに孕まれ逃れる、触れられ濡らされるかに澄まされ浸る満たされ鈍りの既に欠け堕ちたなら甦る外なら外違えられる違えの外の更に満たされよう満たされに射し裂か

れ接がれる萎え重み昇る眩み已みを、昇り頽れ逸り冴える冴えに翳し砕いて毀
し舐められる綻びの裸しか現さない影かな疵擬きが影から逃れ寝かされる窪ま
りそれとも、窪まり刳られた後に引かれる匂いは断たれての色めき失せに背き
曲がり抛られる溢れ響く内へとだけ贋の裸を纏わせて匂い断たれの静まりを裂
き呼び晒す、かにも、な裂け口に象られて口を噤み仄冴える躙り冴えの孕まれ
已むなら已むで、に已み已む仄冴えめいて見渡され硬み暈かされようかな兆し
が浅ましく漁り接がれる噤まれた儘を偽り反らされる裂け口の奥に望まれる響
きを匿い養うかな割れ目それとも、割れ目の窒がり擦れて割れ已むしか無くに
何の象られからも距たり標される儘に望まれる象られの悉くを拉ぎ響かせ冷や
す奥まりに擬えられるしか己の響きを漏らし驕りようも無い、割れ目儘ら背き
接がれ剥けて剥け裏返されめく窒がりの溢れ余らされは、余らされる悉を削ら
れ乞う形（なり）に成り果て溢れ験され、な形（なり）ごと象られのかくから
の距たりの底へ蹲り流れるかに翳し誤られよう拉がれ硬み迎える光りみな眩み
違えの躙り重なり剥げる果てに籠もり撫でられる、戯け延べられる狭、に換え
泥むしか無い、な換え泥み驕る様の静まり砕ける向きを砕き映すかにも、に光
り已むかな鈍みの孕まれ薫り異なる異なりようから異なり限りを接ぎ窒ぎ撓め
る彩りそれとも頽れ薫り撥ねる仄冴える綻びを射し刳る響きそれとも、響きご
と濡らされ縺れさせられる眩み違えからの距たりは、な距たりに埋もれ惑う躙

り冴えを拒み迎えよう綻びが障るに違いなくに鈍み偏る刳られ揺らぎは、に堕ち違え標し湧くしか無い無さに被さり濡れる眩み躙りを映し損なう程に小さ振りからの巻かれ閉ざされる響きの兆しを暈かし迫ろう濁りなら濁り、で無いなら濁りを剥げ乱す尖り溢れる静まりの裂け口に傾ぎ焦がれる狭み冴えからの圧し験されを浮かせ震わせる透け重みに逆らい耽り、な透け重みから撥ね戻され距たり抜かれる、な距たりを奥まりに擬え損ない堕ちる薫りを偽る振りを圧し翳す眩み躙りの影に切り込み明るむ眩み違えの徴のびっしり並び流れる何処までも平らな脹らみなら脹らみが平らかさを匿い盛（さか）らせてよう僅かにだけ狂い根差される孕まれそれとも、孕まれ已みの象られた痕を仄めかそう鈍みの重なり響き溶かされようなら匂いのような細みの円みの外に擲たれ狭み尽きない無さが躙り渡すらしい抛り刳られ暈け現れる透けの、細みから衝き沈まされる狂い無さ限りに細み貫き揺らぐ、なら片細まり、な騒ぎ脅す為の戯け脅す振りを消し絶え驕り割く筈の近やかに距たり躙られて溢れ叛かれる奥めく儘に触れ弾かれる数に焦がれ寄る厚みを透ける影の延び孕まれる様が砕き響かせる丸みに貫き射される這い汚れた静まりの眩み違えに匿われた薫りそれとも剥き出しの綻びは、凝り刳られ差し惑わされる震え距たりに贋の眩み違えを仄めかし透かし堕ちようなら、に紛われる影を庇い漁る窪まりの奥を覗き験そう綻びに偏りが片寄ろう狭み振りの開け溢れ窒がれる透けの重なりに隠り浸る内へと

狂い昇るしか無いらしい、な、らしさの失せ映えて繋がり浄められ懸かる穢れ
塞ぐ丸まりを凌ぎ添い検める徴の弛くに統べ抛られる外なら外が外限りに剥き
出しの接がれ失せに躙られ騒ぐ、失せ置かれる象られを孕みなぞる透け眩みな
ら眩み、で無いなら眩み奥まり果てる細みの惑い足らなさを映し偽るかな円み
の外を匂わせ絶える映されに象られ直り荒び擦れて厭き捩れる狭み已みの暈け
醒め頽れる限りに透け眩みの外が乞い遅らされよう一つ限りなら輝くしか無い
唯奥まりを示すばかりな震え偽る形（なり）を低み刳り已まない重みの穢れ衰
える貫かれに映り冴え鈍る驕りに、穢れ砕かれる影の舞い沈む様を描き迎える
距たりの近さが撃ち曝こう明るみからの標し渡され暈け盛（さか）らされる距
たり直り凝る近さを厭い惑って微かに触れ萎え疼く、な疼きに近み渡され孕み
咬まされ暗みを滲ませ添わす反り乱れかにも、重み渡されるしかない、な暗み
から溢れ繰られ劈く響きの凝り固まる形（なり）を剥き晒す堕ちるばかりを喜
ぶかな象られに圧し腐らされ群れ恵まれる映され窄まりに冷め接がれる、舞い
沈む影の動きを激しく厭い遅れようかに刳り奥まり明るむ、な明るみの自らの
激しさに破られ暗む照り映えを従えて冴えなぞる触れ萎えの掻かれ過ぎる儘に
滑り白み綻ぶ芽吹きめいた奥へ丸まる奥を丸まらせ裂く奥まり明るみの奥まり
を拒み惑う撓み尽きたかな薫りの甦り擬きな静まりから湧く穢れ彩られた透け
硬みの、な儘に硬みを零し透け仰け反ろう暈け根差しの現れに纏い褪せる伏せ

除かれて響かせ掻かれるなら奥まり標される儘な奥を割き喜ぶ繰り返しに浸り
耽り厭きる滑らかに片円（まど）やかな撃ち色めく姿の消え驕る脹らみそれと
も脹らみ偽る偽りの艶と惑う艶に溢れ喘ぎ擬えよう頽れ已まない明るみから眩
みを滲ませ掬う硬み限りな象られの小さ振りに射され砕かれ煌めく驕りなら驕
り、で無いなら驕り惑う切れ切れの喜びを埋め散らかして仄浮き冴えたかな何
の彩りも拭い溢れさせた陰の滑れかさを驕り窄まり明るませる、な明るみの眩
み這う限りに散らされ埋もれてらみ偽り深まる贋の暗み彩りを上辺に塗り濡ら
す陰は、陰と偽られる儘な偽りの偽りに耽り回る振りを匿い翳し、な匿い翳し
限りな驕り脹らみの真下へ昇り静まる先に弛み穢れる兆しそれとも、な兆しを
拒ませ薫らせる眩み溢れ隠される窄まりの映り孕まれを、酔わせ拐かすかな堕
ち舞う様を固め蹲る狭み已ま無さの、狭み已みへと怖じ溶かされ渡される近み
重ねられるばかりな明るみの冴え匂わされる狭み已みの接ぎ違えを衰え通して
已まない、な已ま無さの危うさの狂い無さに細み傾ぎめいて汲み吸われ迎え除
けられる果てに頽れ已まないなら、な已ま無さに被さり積もる陰の透け限られ
る象られの翳し抜かれる勝り振りは、かにも、な陰の仄圧し偏る明るみの流れ
去りに擬え失せるしか無いなら無いで、に象られ直されるかな細み傾ぎの噴き
溢れ涸れる、陰を孕み掻き砕く勢いの鈍み下る硬みな限りに片撥ね唸る重みの
差し盛られる滑り様を濫りがましく吐き尽くそうとも、重みの差し盛られから

片撥ね唸りを移し受けて重みを近み距てよう様の窄まる儘に圧し傾れ溶ける弛み穢れの弛み損ないを、圧し晒し揺らがせる濁りへ滲み堕ちて荒ぶり失せようかに惑い醒めて、に醒め惑うかな逆さな遠い響き汚れに濡れ違え散ろう様の象られ懸けるなら片撥ね唸りを乞い滑るしか無い重みの隠されようも無く穢れ円み削がれる薫りの塊が塊の内へ偏り怖じ驕る、穢れからの堕ち違えに障る重みの綻びそれとも綻びを偽り擬える幾つにも尖り散る硬過ぎるなら喚きたげな薫りの明るみへと向かい放たれる窄まりへ更に敢えて窄まり透け馴染む儘に重みの綻びを刳り差し回す明るみの被さりから、な被さりの明るみが除き舞わせる薫りを標し距てる艶の硬みに浸み迫る狭み冴えを受け裂く揺らぎを厭い已まない已ま無さを匿い焦がれる明るみの綻びの衝き衰えなら、な衰えを映し衝き冴える筈の狂い無く小さい一つ限りな陰の仄掻かれ縮んで震え明るみ始める、にも、な明るみを欺く限りに唸り躙ろうと明るみの這い褪せる望みに接ぎ乱される、向かい已む狭みの縁へ還り滑る重みそれとも重みを過ぎた軽みの軽過ぎる近み距てへの暈け頽れ盛（さか）る企みを、重みを棄て深まらせる明るみに根差され覗かれる真下へと斬り込まれるかに曲がる裏返りめいた失せ孕みを翳し拡げる先の贋の暗がりへと払い穢して血に眩む綾に沈み纏い懸かるかなら始めから爆ぜ窮まった脹らみを標し違え噴かせるしか無くにも指され凝るしか無い儘に、な儘な様に掻かれ下らされる偏り重み弾けて片冴え明るむなら見知らぬ

限りな陰に隠り損なう姿に象られよう清まり匂う濁りに差し惑う光りそれとも
光り異なりが蹲らせて負わせ傷む、な傷みを庇い塞いで分かり分ける距たりか
に灼き靄って握り迫る、抜け庇われる誤りを拡げ矯めて陰より僅かに濃い傷み
のりり冴えそれとも冴え拒まれて堕ち違え微睡むかな拡がりを偽り暈かす冴え
のなだらかに疼き裂ける裂け限りな傷み振りを重く巻き乱す薫りなら薫りの疵
から溢れ孕まれるかな傷みから距たり狂う障り泥みへと、掻かれ下らされ直る
なら直り殖える、で無いなら直り惑い回される暈かされ冴えが殖やす陰を乞い
絶ち直り靡く障り泥みの纏われ傷むらしく剥かれ堕ち分けられる陰の欠片へ
堕ちる振りへ直り異なる、な異なりを距て埋めて疼き裂けに映り遅れて遅れを
厭い兆す疵の已み果てられようも無い眩みの光り異なりに纏わり付きたい望み
を棄て暈かす暈かしに迫り窄まる響きが醸し砕く傷みの冴えが示し違え拡げる
緊さそれとも、な緊さを直ぐに割き震わせ拒んで傷みの冴え荒みの奥が乞われ
験されよう弛みを孕み拒む緊さ違えられは、絶たれ流れよう光り異なり置き
棄てたかに浮かび散る傷みの奥まり惑わせる接ぎ撓みを翳し剥いで剥き回し窒
ぐ振りを色めかせるあざとさが冷め奥まらせ狭み冴えの、削られ擦れ捩れる
割れ目の縁に滲み余らせられよう棘棘と剥き欺かれる窒がり振り囲い宥め透
かし、かにも透かされ泥む窒がりを象り験そう傷みの奥まりを擬え偽る孕み拒
まれめいて浮かされ接がれ背かされて光り異なりを添い避け窮まり已む、かに

も贋の孕み拒まれを翳し尽くすなら窒がりの象られ振りが嬲り躙り貫こう形（な
り）を兆し標す窒がり裂けの拒まれ孕まれる儘な形（なり）へ移し溢れ已ませ
る悉くへの割れ目の堕ち重みめく真下それとも真下を真上異なりへ換え窒ぎ抜
く先それとも先の無さが片撓みを拉ぎ象り已まない窒がり裂けの行き戻り擬き
な戯れ接がれを回し途絶えさせ、な様の拉がれ尽きない傷みの奥まりの裏返り
続けるかな冷めて溶け溢れ澱む厚みの戯れ接がれに掠れ抗うそれとも抗い滑り
刃向かう切れの鋭さを鈍り響かせる奥まり異なりが搔かれ覗かれる光り異なり
との距たりは、な異なり限りへ叛く兆しのせいで傷みを暈かし削ぎ已まなくに
酷く危うそうな縁から来る躙り冴えの障り泥んで異なり直り歪もう知らず重み
を匿うらしい陰の欠片それとも、欠片でも無くに灼かれ澄んで爆ぜ眩む真下異
なりへ堕ち翳され開かれて甦るかに陰が自らの仄かさを奥まらせるか、陰に厭
い孕まれる仄かさより更に弱い明るみなら明るみ、で無いなら明るみこそそっ
くり陰な光り異なりとの距たりを陰に換え象らせる眩みの唯薫るだけな乱れ窒
がりを爆ぜ片違え傷めて直ぐに傷みの痕を探し偽る儘に薫りを標す振りを贋の
薫りへ振り撒く振りの盛（さか）り醸される透ける限りに濁り脹れる陰にも擬
えられよう近み冴えて映え惑い戻る窒がり已みを、な儘に裂き恥じらわせるか
に仄冴え鈍りめいて標し験される兆しの欺き圧される狭みに惑い欺かれるそれ
とも惑い已む已み限りを反らせ弛ませ距てる近みを剞り穢して已み限りを腐ら

せ断つ片遠いかにか奥まり倦ねるかにも奥まり果てない無さに惑い已みを再び指し接ごうと渡し響かされる独り冴えが冴えを呼び慣らし晒す、かに鈍り象られるなら濁り窮まって仄硬くに陰の薫りを孕み響かせ逸る撓み遅れ過ごされる過ごされ方の内に宥め乱され囲われる、冴えの独り挫け惑う重みの砕け顧みられる奥まりの果て無さを偽り翳し暈かして陰の澱みを真似厭きる滑らかに撓み遅れ直す振りの立て続けに剞り傾ぐ様の、な様からの、な様に叛く濁り果て弛まされるように静まり響く冷え冷えと描かれ擲たれる震えそれとも惑い揺らぐ形（なり）に揺らぎ已む凝り振りに揺らぎ窒がり懸ける狂い無さは、予め薫りを断たれ澄ましたかに眩み撓みに撫で渡されて濡れ裂かれ過ごされたかに重み迫る捩れの兆しを晒し躍らせるらしく惑いを兆し堕とすなら翳り拒むしか無い儘な贋の傷みか傷みの痕かを絢い交ぜに澱み掻かれ呑まれて薫り冴える、に冴え薫って滲み濁り直される晒し躍らせに揺らぎ惑うしか無くに内を剞られ窒がれた重みの兆しから均され乱れ響く、にも、な乱れ響きでは解（ほど）かれ窪まり割かれるしか無くに薫り冴えに片根差され偏り堕ちるなら真下を冷え噴かせよう更に下に重なり擲たれる狂い無さ限りな翳されの、予め薫りを逃れ戯れて冴え薫りを指し回る窪まり割かれの顇れ隠るなら直ぐに甦ろうかにも割かれ剞られる儘に接ぎ乱れる様を湧き返し、かにも冴え薫りの濁りに擬えられるかに失せ盛（さか）らせられる陰の厚みを唯仄めかすだけな眩み透けそれとも透

け偏りが眩ませ躙らせる揺らぎ窒がりの狂い無さを揺らがせる、に堕とされ遅れ偽らせられるならら遅れ砕け撓む儘な兆しをさも粗くも迎え欺くしか無い閉じた疵に似た躙り砕かれ渡され延びる眩みそれとも眩み異なりを負い窪む薫り頽れるかな眩み逸りに、に因ってか吸われ添われ傾れる眩み異なりの断たれ様の鮮やかさそれとも鮮やか過ぎるなら薫り頽れに耽り泥む尖るばかりに冴え乱れる薫り頽れの透け冴えて冴え薫る儘かにも、な冴え薫りとは逆さに剄り乱され重みを乱れ散らばらせる幾つかの徴を暈かし象り損ねる、乱れながらに柔らかげにも薫りの陰を一筋浸み通らせるかに薫りの冴え乱れ頽れる眩みへの堕ち凝りに照らされ消える窪まりに流し反らされよう澱み違えなら戯れに直ぐ様違え直されるかに乱れ冴える兆しに窪まりめいた眩み冴え異なりの切れ切れに漂う陰を呼び焦がれよう、な向きへの狭み曝かれへと窄まり尖り尽きるかにも、な尽き無さを絶ち静まらせて並べ拉がれ纏い丸め固め染みるようで、な鈍みを幾つにも割き舞い回して暗みへ堕ち固まらせる巻き断たれ続ける偏りの断たれる度に尖り腐って頽れ曝かれる暗みを晒す薫りの澱みなら澱み、で無いなら澱み無さの窒がり揺らぐ贋の行き帰りのあからさまな遠ざかり翳し捻られ、な捻りが自ずと照り映え乱れ正される鋭さに斬り眩まされる厚みかは、直ぐに冷め濁る透け痕が象られよう兆しの外に擲たれ静静と嗤われ煌めく儘に、な煌めき異なりを匿い曝く様に塗れ惑うかにも厚み窒がり割かれて戯け透ける行き戻りを

翳し匂わせ濁り異なり懸けるか、に何時からか冴え窒がる儘な厚み眩みの明るみを拐かし下り噴き巻いて濁り異なりを絶ち已まない已ま無さに濁り盛（さか）るしか無いなら無いで、な無さ限りを眩み冴えの反り抉るような真下へとも堕とし暈かし、にも真下を消す暈かし欺かせを偽り回そう失せ渡されを狂い躱す乱れを宥め狂わす振りで眩み冴えの耽り隠る儘な冴え薫りの晒されを拵え毀すかにも狂い無く埋め抜かして浅い厚みの透かし覗かれよう暗みと明るみの境を狙い舐（ねぶ）らせて舐られ躍る儘な、な境の外からさえ距たり狂い迎えられる陰に擬えられるしか無い乱れ冴えを孕む響きの、響き頽れる冴え暗みの厚みに逃がれ爛れた明明と冷え切った一つ限りな醜さを誇り穢れる脹らみの慌ただしくも暗みを裂き已まずに、な已ま無さを重ね爛れさせる尖りばらける揺らぎを戯れ回す、曲がり尖り泥んで片窄まる丸まりの縁から奥へ抉り隠らされるかな陰の綻びの躙り浸みる連れ貫かれ砕かれる陰の先に独り映え響く円みの影を断ち堕としたかな冴え奥まりは、擦られ薄まり果てる近みへ宥め過ごされる高みを埋める静けさから剜られ零れる薫り響いて凝り叛かれる厚み眩みに誘われる儘に、冴え限りを砕き迎えて嬲り翳らされる煌めき躙りの奥まりを逆さに惑い接ぎ剥いでから何も触れられない丸みを偏らせる重みの渡り脹らみ過ぎる明るみの尽きない失せ撓みへ、失せ戯れ傾ぎ巡る内から内の重みの爆ぜる外を縁取り損なう煌めき躙り已みめいた乱れを嘲るかな朽ち白みが白み零れを差し均

して乱れに匿われたと偽る暗みを噴かせ浴びせ、な勢いに窪まり逸る傾きを轟き崩すかな静まり振りで濁らせ渡し伝えよう逆さな薫り響きそれとも響きを裂き薫らせる冷め透け張られる明るみから明るみしか馴染まない距たりを浮かべるように撃ち傾れさせる鮮やかな滑らかさそれとも、な距たりを逆さに渡し懸ける濁りが醸す響き掠れる傷みに向かい滲ませて明るみの抗い失せる兆しを欺く薫り澱みは、薫り綻んで自らを煌かき凝らせようかにも綻べば薫り異なるしか無くに、な異なりに擲たれる厚くめい影かの延び逸る姿の撓み堕ち接がれ抉られるなら絶える狭み已みの逆さな硬めきの欠片めいて独り光り抜け捩れ過ぎる、暈かされ淀む高みから圧され覗煌れる重く仰向けに剥け尖って根絶やされ濡れる薫りの欠片の殖え接がれる外を剥ぎ均し、かにも戯れに響き爆ぜる贋の厚みを削ぎ匿う冴え孕まれて眩みを煌めかせ鈍らすかに乱れ叛かれる傷みの射し走る薫り異なりを埋め損なうか、な埋め損ないの爛れ刺され割かれる縁から染みよう暗みを偽る甘みに映える仄濁る翳りの鋭い反り溢れの重み昇りの上辺に描き静まり棄てられる片撥ね巡って甘みの薄みに添い響くらしくに撓み懸ける儘に埋もれ剥ける独り逆さにそれとも逆さを絶ち窄ませる歪みに悶え晴れる眩みの戯れに擬えられる響き爆ぜの躙り已ま無さが障って、響き躙りへ惑い逃れたい望みの暈け接がれて接がれ窒がるしか無くに響き躙りが匿う濁りを撃ち凝り剥こう、かに溢れ剥かれる様が凝り拉がれ静まる響き限りとの距たりな

ら距たり、で無いなら距たりの兆しが距たりを異ならせて障り劈かれる響き擬きの傷みを纏うかな薫りを裂き回して距たりに抗い距たる明るみから、仄欠けるる薫りの陰の独り静まり奥まる鈍み染みた偏りを示す酷く冷めて戯れに貫かれて凝る響きから剥げ堕ちる暗みの厚みの反れ塞がり渡される狭み延びて已み難い光りを真似ては細み返る円みの穢れを映す翳りが流れ馴染もうか、に生え盛（さか）る朽ちて萎え千切れる拡がりに弛み臨まれる徴の薫りに貫かれるばかりかに窒がり惑い片逸れ懸けて項垂れ窪む剥き出しの薫り響きそれとも響き掠れて薫りを途切れ勝ちに円みの穢れに添わせ撫で付ける、明るみなら明るみの薄焦がれ振り裏煌めく形（なり）の脹らみ失せ懸ける煌めきを裏で接ぎ揃えて冷め朽ち白ませる眩み戯れの奥ごと浮かび爆ぜる躍り惑う濁りの明るみから逃れ難くに静まり固まって失せ煌めき鈍る、に失せ甦る逆さな煌めく形（なり）の捩れ渡って失せ甦りを弄びたげに間延びする揺らぎを衝き逃す、失せ煌めきを遙か暗みに根差し走らせ殺すかな厚み掠れ浮き移り剥かれて濁り惑う振りを振り染め失せさせる、な染め失せを圧し嵌め去らせて失せ染め厭われる儘に棄て置き叛かれる贋の傷みそれとも既に疵の白みでしか無い傷みの痕かを暈かし澱ませ惑い騒がすかにも、に騒ぎ締められる薫りの独り、独りを絶やし濡らして暈け裂く重み染みた姿を怖じ躱し懸けて躱し切れない眩み窄みの真下の果てに腐り転げ芽吹くかに噛み砕かれ裂かれては、裂き薫らされる痛みの冴え孕ま

される円みの穢れを映し損なう響き失せた痕を覆う煌めきに静かな程に激しく
換え乱される、な乱されの端の遅れが逞しげに晒し躙り延ばすに違いない堅い
移ろいが被さり堕ちる溜まり震え消えて衝き甦らされるなら戯け怖じるしか無
かろう、に咬まれ窒がって掻かれ染まる儘に静かさの内に冷たく騒ぎ狂うしか
無くに戯け直り叛く儘に溢れ浮き移らされる映されに沈み泥んで冷め溶け凝り
溢れよう惑い冴えるかに仄偏る陰なら陰の刻まれ已まないで項垂れ揺らぐそれ
とも掻かれ揺らぐ儘な鈍みに暗みを遮られて細み締まる先で響き偽られる小さ
な限りへ明るみを揺らがせる、奥まり冴え躱されて傾れ窒がり尖ろうと焦る危
うさに厭われ染め鈍らされる輝く厚みの内へとだけ重みを重ね授ける眩み躙り
の円み擬きな濡れ惑いを距てて陰を偽る窄み薫る響きの濁りを途切れ浮かせる、
な濁りが刺し翻って響きの薫りを騒がせ絞める兆しの転げ剥かれ已まずに狭み
延びるなら延びる薫りの穢れる限りに穢れ躙り歪んで歪みの重みを象り乱れる
かに撓み棄てられる薫り異なりの痛み静まる冴えの曝かれ撫でられる狭み躱さ
れを躙り遅らす、片煌めき濡れて明るみを並べ溶かす冴え剥かれる奥まりに飾
られ生って頽れ下り乞われる窒がれた窪まりに接ぎ撓み乱れる象られは、明る
み已む兆しに独り惑い映え狭まって虚ろな厚みを乱し狭める堅く撃ち通り透か
されたかな真下へ深み歪むそれとも、歪み暈け直って暈け偏るか仄染め失せる
響きの傷みを真似たかに暗みに溶け惑う円みの穢れ染みた穴を呑むかな形︵な

り）に臨み障る、うねり圧し絞め騒ぐ形（なり）へ渡り抜け接がれる粗い細みの鳴り薫る濁りの小さ振る疵を仄薄れ望み溶け懸けて煌めき鈍る徴の奥まり転がる遅れを、撫で交わし兆す響きの奥まり偽られる暗みの丸く拉がれ尽きるなら尽きる痕に丸み限りが残る様の均し渡され静まらせる、戯け染みて削がれる儘な厚みを重ね潰し沈ませる歪み遅れを囲んで丸みの狭みを爆ぜ騒ぎ移ろう穢れなら穢れの突き捩れる影ばかりな姿に自ら囚われ透け傷む接ぎ溢れ貫かれに、なら貫かれに光り尽き直ぐに尽き明るみ放たれる暗み初めて深みに捩れ窪まる触れられる厚みの刻み延ばされ象られて影を孕み刻み出す姿なら姿、で無いなら姿が姿を弄び翳ませて翳まされる儘に屈み絶ち抜かれる真下を欺き直る中に伏せ怠ろうか、にも怠り醒めながらに醒めないでは何の影からも片距たり微睡むなら明るみに揺らぐ濁りを斥けよう、に揺らぎ拡がり窄まる触れられないで脹らみ暈け已まない厚みが擬える光りの偏りに焦がれ尖る硬みを薫り怖じる痛みの柔らか過ぎて冴え覆われる失せた響きが灼き爛れさせる暗み限りに過ぎ戻って微睡みを貫き回すかに棘棘と影を影とは異ならせて傷みと傷みを毀し穢す震える細みが細みの為の仄移ろい呼ばれる虚ろの内に堕ち澄み脹れ傾れて浮かび嵌まる、とも知れない眩みの、何処へとも厭き翳り偽り映って映る傷みを延ばし約めよう澱みの厚みを増し擲たれるなら覗き込まれ翳される眩みの内に濁り狂い窄まり纏まろうか、な窄まりの隙無く暗い果てから響き返される翳みの崩

れる縁の彩りの夥しさを嘲り巡る尽きない柔らかみの惑い固まり流れる内それとも内しか無いなら内とも定め難く狭み薫る拡がりに暈け燻み沈んで翳り限りを巡り脹れる眩み泥みを、そうとも知れず明るみの真下へ真下を刳り覗いて明るみに拠る戯れ限りに醒め並ばされる響き乞われ飾られる行き戻りの堅く奥まり剥かれて剥かれる程に狂い無く乱れ揉まれ擲たれる戯れの繰り返しと、な戯れを重い薫り一つで絶ち揺らし芽吹かせる芽の薫りの奥まりそして尖り掻かれる繰り返しの途切れ勝ちな揺らぎ静まりに浄められ濁る穢れとで、眩み響く筈の覗かれ煌めく光りに恥じらいようも無く怖じ抗われる眩みの剥き丸められて影を失い接ぐ、に躍りに燻む外ばかりが震え凝り垂れ頽れさせられるなら、な外こそ飾り辱められる砕け燻む様が障り置かれて煌めき捌けるまで厭き増し重なろう内の割け窒がりが擦れ透かす危うさに躍り傾ぎ遅らす細みの、惑い抗われ損なう仄翳りの消え匿われるかに真上を裂き拡げ外れる細かな幾つもの影の硬い、な硬み限りを象り穢すなら、な穢れを備え臨んで醒め揺らぐ一塊の拉がれと自らを綻び回して薫り貫かせる穢れとの距たりに傾れ通る様様な騒ぎ明るみに明るみを溢れ染めて重ねる贋の脹らみの贋限りに擬えられて奥まり据えられる独り轟き静まる傷みの痕かな狭み薫りさえ棄てられるに違いなくに、な狭み薫りを備える振りに接がれ艶めくそれとも、な艶めきの唯戯れでしか無い傷みを翳し暈かし削いで生り渡る限りな、な形（なり）なりに繰り返されて均され凝つ

てその陰を添わせ揉む柔らかみに剥かれ叛かれる綻び違えが差され映されよう、高みと高みを外れ飾られる汚れた厚みを分け隔てようも無くに狭み薫りを醒め揺らがせる荒ぶる静まりの裂かれ懸けて転げ咆えるかに綻び違えを厭き掻く惑いなら惑い、で無いなら惑いを欠き回って見えない影ばかりを呑み涸れる穴の拡がり裂けるかに蹲り嵌まって、な象られを穢れの薫りに映し躙らせる厚みなら厚みを有るか無いかなそれぞれの狭み已みに断ち刻み抜けるにしても、に向かい抱かれ異なる柔らかみの澱み恥じて堕ち尽きない響き尖りを重ねるのは、な響き尖りに項垂れ混ぜ撫でられる震えそれとも震え舐め表される荒ぶる光りの始まりを掠め擬える繰り染め窄まる硬みを響かせ、響かせ頽れる儘な翳りが障り抗う重みに抛って薫り根付かされる曲がり向かう障りを抛り棄てるなら、抗い堪え暗む硬みの頑なに薫りを拒んで静まり尽きない筈の、触れ失せ遅れる絞まり刺された傍らに堪え下る儘に掠れ尽きない形（なり）を尖らせ晒す抜け焦がれ固まる硬み縋りに擲たれ剥かれる、独り淀み抜けて微かに遡る遡りが遡りを擲ち転げるかな抛り棄てられる様を表し焦がれる象られの、揺さぶられ脱がされ細み削がれ下り重なる重なりが狭み薫らす重みに、な重みの厚みを映し醒める濁りの浮かび染まる綻び鈍る弛みばかりが際立ち傷むせいで歪み解（ほぐ）される狭み薫りの陰の冷え距たって静まり轟く綻び違えそれとも綻びから滲み装われる陰の失せ染まり彩られる兆し擬きの、兆し頽れる傷みに暈かされ

る歪み断たれてその暈かされの上澄みの澱み回される撓む陰の細切れに吊られ
震える刳られ覗かれる戯れ振りは、窒がり急く儘な溶け溢れる様を偽り磨き昇
らせよう限りに薫らせ戦く様を飾り馴らしそれとも、な飾りを棄て馴らす振り
を接ぎ現れさせ、にも棄てられた儘かなら刳られ覗かれの陰を呑み馴らして薄く
絡まり回るあざとさに似せて映り躙らされる独り惑いそれとも惑いを毀し戯れ
る飾り外れ溢れる穢れなら穢れを躙り映し失せさせるしか無い、かにも穢れに
臨み躍る震えるばかりに奥まるまたその奥の眩み明るむ硬く円みを切れ切れに
浮かべ尖らせて色めき懸ける薫りの頑なに透かし脹れる厚みの濁り煌めきに鈍
り惑い直される、かなら戯れを穢し擬える濁りの頽れ鏤められ浄められる贋の
映り躙りに絶たれ爛れよう陰の欠片染みて澱み窄まり渡される片濡れる儘に拉
がれ堕ちて真下を揺らがせる濁り煌めきの移り行きを厭き接ぎ掠れさせよう明
らかさの静まり回り裂ける裂け目の棘棘と取り取りに芽吹くかに鳴らされ覗か
れる柔らかみの暈ける限りに流れ剥かれて小ささへと刳り流される綻び鈍りの
響き震わせ尽きない円みの失せ痕なら失せ痕、で無いなら円み異なりでさえ無
かろう影限りの失せ痕を静まり晒す虚ろな重みの兆しに撫で染められる温くも
冴え傷み仄近付かれる円みな形（なり）を已め躙る奥まりそれとも奥まり剥か
れて剥かれ磨かれる艶の贋の深みが測り知る薫りの重なり已まないかな鈍みの
綻びが差し拡げ驕る、な驕りに叛き障る惑いを迎え醒める薫りの重なりの撓み

溢れ窄まるかに頽れ暈けて暈け切れなさに擲たれる、奥まりを危うく拒み覗いて直ぐに均され果てる奥まり躙りかに怖じ泥む障り異なりへ歪み留まろう抜け違われ伏せ拉がれる失せ壁る儘に翳り揺らぐ姿の、な姿を自らでも無くに接ぎ撓め遊ぶかな溶け掠れ澱む深みを滲ませ深みに染まる奥に乞われ已まない筈の掠れ接がれそれとも、な掠れに抗い躱される転げ傾いで傾ぎ懸ける儘なら項垂れ嫐られる様を絡め違わせる唸り埋められる騒がしさそれとも静けさの馴らされ傾いで傾きを研ぎ棄てるに違いない鋭さが響かせ薫らせる、うねるとも無くに片塗されて惑い濡れ断たれる捌け口かな丸みの尖り含まれ圧される傾れ振りに響き翳る狭み已みを爛れ躙らせる、にも、な躙り重なりにか乱れ崩れるかな薫りを爛れ逸らせ、薫りの翳りに絡め殺され掠れ暗まされる姿に触れ擡げる染め剥かれて揺らぎ研がれ浸みる陰に触れられる暈け騒ぐ細みの光りより明るい撓みを撫で回し絶つ明明と冴え眩む重みそれとも追われるかに砕け撒かれる躙りを破り堕ちる重みの虚ろな影かな響き爛れの凝り爆ぜ異なる象られが強か穢れ裂ける勢いのさも奥まり已まない硬みが巻かれ唸る、穢れを絶ち転がし埋めて何の躙りも一眺めに収め侮り薄める歪みをなだらかな深みと共に匿い響かせる滑らかさを、傷みかに爛れ迎えられる躙り綻びとしか深みの外へ映り通らない一筋に裂かれ窒がる光りの乱れかに薫り厭かれる爛れの躙り刳られて細み限りかな穢れに被さり懸かられる静かな脹らみの上辺に汲まれ砕かれて細みを仄

擲ち暈かす陰に擬えられ堕とされる浸み綻びを煌めかそう、な煌めきの窪む縁かを探し冷まして煌めきの深みを歪ませ孕ませる狭み已みへ溢れ傾れ脅す企みなら企み、で無いなら企みの兆しから漏れる戯れ傷める明るみの硬い薫りに絶たれ冴えるしか無い、細みを嘲り尖らす掠れ抗いの為す儘に染め裂かれ凝る高みの仄転げ呑まれて眩み拉がれ尽きるそれとも尽きない限りに厭われ触れられる失せようとする重みの厚みかに響き染まる、穢れを爆ぜ染め失せさせる窪まりの自らその眩みを怖じ渡す薄く圧され強まる高みからの距たりが色めき傷むかにも、な距たりを逆さに埋め昇らせる微の徴限りに爆ぜ透かされ均される煌めき異なりの異なり限りに濁り冴える、な冴えが匿う陰の透け綻びに違いない、にも違うかも知れないなら冴えの薫りの綻びが陰を圧し砕く煌めきのその内へ綻び染まるしか無い浅みに纏われ響く、な響きの彩りが失せれば重さでしか無い一塊を装う穢れが走り抉る企みの奥を薫らせ躙る贋の響きに掻き濡れ嵌められる騒がしさの象られ尽きない狭みへ、な狭みに惑い已むかに、な象られを逆さに衝き標す溢れるなら溢れよう飾り馴らされた円みの欠片の仄堕ち失せる影を翳し曇らすらしい影に揺らぎ埋もれようと厭い宥め分かれる分かれ目の有り得無さに剥き狭まるしか無い、それに過ちかに傅き零れ随って裂かれ驕る真下の噴き刳られを映し象ろう静かさの拡がり翳される脹れ震える刃に似せた溢れ傾ぐ穢れの高みそれとも、な穢れを見下ろし躱す片衰える儘に転び暗む高みと

の距たりが彩り失せる尖り滞る儘に柔らかみを守り誘う振りが光らせ暈かす薄めらめられる限りな穢れから、競い騒ぎ侮られる縁ばかりかな短い姿の鮮やかさに汚れ撥ねられて薄煌めき暈けては高みの暖かみに恵まれたかな傾れ撫でられ薄め叛かれたい望みばかりが荒げに乞われ際立つ狭間なら狭間、で無いなら煌めき暈ける果てない拡がりを偽り暗ませる、光り異なりの厚みの窄む速さの徴が拒まれ驕り静まる静かさに脱け騒ぐ遠く響き失せ白む儘な硬みの溶け濡れる様を象る濡れ棄てられて暗みの内に奥まり過ごされる鮮やか過ぎる小さな芽吹き染みた響き流れて衰え已まない騒がしさが呻き埋もれ盛（さか）る光りが自らの速さを測り損なうそれとも、な測り損ないの徴ばかりが湧き棄て保たれる、にも徴が匿う速さのせいで徴は揺らぎ項垂れる儘に湧き逸ろう熱い窪まりの内に凝り溶け回り光って光る薄みが走らせる影の暈け浮き剥かれる僅かな光り直されが損なわれるそれとも、な光り直されを逃れ果てない薄みを含み破る光りの小さ振りに窒がれ静まる穢れ透かれる硬みのその硬みの底を舐め砕く透けた翳りの窮まりに光りを投げる、恐らくは濡れ棄てられた奥まりに生える微かな脹らみが透かし転がす小さ振りが下らせ戻す光りの擲たれる儘に繰り返し乞われる乏しさが、知らず魘されるかに霞む程に拒まれるその速さに乗り擦る光りそれとも光りの唯徴でしか無い透け窮まり移る翳りを刻み包もう兆しのうねり穢れる逸り過ごされに躱し懸けられ、かにも、破られ映える光りに依るしか無

い速さの僅かな窪まりの汚げな清かさに拋り照らされる小さ振りが蠢き立って
冷め翻されるる失われ振りに付き纏う筈なら、溶かされよもう無い透け凝りの溶
け乱される向きが兆し延び転げよう陰の透ける限りな色を盛︵さか︶り堕とさ
せる硬みの乱れる兆しの乱れ奥まり浸み拡がる疑いの重なり蠢くかな滑滑と冴
え暖められる振りを細みに暗ませる、揺らぎ仄傷む傷みのなだらかに剥かれ裂
かれて巳まない騒ぎしかれる穢れそれとも贋の穢れが翳され穢れる鮮やか鈍り
被さる影が二つに割巻窄んで先を違え回る穏やかさの飾り縮むなら丸みを刻み
包ませる濁った光りれ短さは温みを噴かせ凝らすようで、かにも、逸り擲たれ
る真下の象られが素のく躝り浸みる後を追うしか無くに、項垂れ光る濁りの冷
え冷えと湧く彩りか速脱け尖り回る乏しさの戯れに随い圧され薄まるしか無い
小さな翳り限りに暈ら震え撫でられる高みそれとも、暈け翳る内に罅割れる隙
間から覗く高みの唯けるみばかりな狭み失せの裏から零れ窮まるかな煌めき薫
る暈け叛かれに濁り明われる乏しさへの戻り回りの静かさを押し下らせる棄て
られた明るみの汚れ拭てた高みかにも僅かに傷み薫るそれとも、薫り堕ちる穢
れの冴え限りでしか果い、剞られ捩分けられを拒み擬える静かさが必ず孕む激
し過ぎる甘みに似た無の奥まりのあざとさかに際立ち縮んで暖かく裂かれ弛む
霞み奥まる内の薫り仮がるらしい頽れ尽きようと腐りよう の無い無さに擬え厭
われる厚みなら厚み、で無いなら爛れ包まれ薄まる薄みの暈け巳まないせいで

濁り盛（さか）って光りを揺き棄て散らす微かに窪まり換わる高みの堕ち浸みる辺りの傾れ薫り剥かれる硬みの棘棘と綻び溜まり束ねられ失せるかに尖り驕られる醜さを、傷み鈍らせ回そう厚みの刳り捩られに長長と抜き震え換わり偽られて明明とさえ透ける熱い濁りを重なり光らせる幾重かに色分け薫らされる明るみの軽さなら唯その重みに順って零れ響き堪えるしか無い、容れ巡り放たれて驕明透かされ抛られる速さに宿り丸まる濁りから滲み騒ぎ逸る狭み限りに溶け高りり衰える、映え頽れて頽れの片底を走り刻むかな細かな軽みの連なりに僅かまか明るみを眩み貫かせて重みの薫りを撃ち馴らし染めるかにも、な重みに軽みを馴染ませ交わせ溶かすなら凝り反り返る深みの訪れにも臨み削がれ乞おう筈の硬みごと透け震える厚みを帯びては大きく揺れ回る綻び輝きを奪い得る儘に静かさの擲たれ絡まれよう、昇り衰える振りに厭い響かされ爛れる爛れを象ろうと割け円み染みて却って尖り爛れる荒荒しさそれとも、穏やか過ぎる光りの近さから弾かれ迎えられる濁りの波立つ激しさに隙無く射され馴らされる明るみの更に明け静まって割け円み已みの映え誘（いざな）われを拒み与えられるなら容れ堪える屈み冴え明るんで内へしか光らない光りを匿い棄て晒し深みの影かに擲ち擬えよう、な擬えの古びた痕を躙り濁るしか無い濫りがわしさを抜け含み重ね、に、な様を映し騒がす光りの外からの埋め覆い隠る澄み冴える暈け眩みの短い限りに奥ごと円く抉られ拡がる薫りかな滲みの徴が徴を

拒み慣らす、かにも、な徴の疑われ刻まれる光りの外への近みの絶たれ堕ちる乱れ振りに染まり厭うかなら、な乱れの綻び一つ無い無さが綻びを乞い寄せる僅かに白み戯れるように拡がり回ろうとする翳りなら無り、で無いなら翳りの下り砕ける新ためかした徴に厚み吸われる儘を自ら爛れ包む眩み高みの、穿たれ移される外への近みしか無い光りの短さの衰え飾られる触れ流されて湧き頽れる奥へとだけ明るむ高みの衰えを眩ませる緊く接ぎ触れさせられる濡れ置かれるかな小さ振りを已み輝かせる、剥げ拡がる向きを従える象られに圧され蔑まれる硬みの偏りに照り延びる割け円み擬きを装い失せるなら剥き出すしか無い厚みを強いられよう眩みの高みを擲ち堕とす、な堕ちる様を描き溶かす奥まりに噴き断つ煌めきそれとも、な煌めきを迎え濁らせ縮めて贋の高みの内へ穿ち薫らせる薫りを片脱がせ透かして透けるなりに奥まり冴えよう醜げに上辺限りを爛れ曝す筈の陰の奥まりに、乱れ穢れを孕み暗む光りの欠片ばかりが響き静まり合えば何にも触れられない眩み堕ち懸ける窪まりの已み躙りなら、奪われ圧される軽みの厚みを挟んでは途切れがちな連なりの過ぎ窒がる限りな翳りばかりを響かせ轟かせさえする円みの欠片の繰り返し撒かれ奥まる内へとだけ円みを映し暈かす、に暈かされ下る重みを躍らせ匿う透けを挟み繰って、にしろ囲われ傾れる光りの短さが纏い厭う冴え転げるなら小ささへ行き染みるしか無い衰えの、な衰えを躱し過ごして眩み高みを乞い迎えよう仄透かされ失せ偽

られる煌めきに誘われ撃たれる傷みの衰えから刳られ掬われる穢れの浮き呑ま
れ乱れる躙りたげな現れを映え貫かせ醒め絶たれる濁りの短さは、片円み裂け
て爛れ拒まれる近さ染みて束ね接がれ捩れる撓みの、円みの影を追うかな爛れ
拒みを写す姿へ自らを触れ絡ませよう綻びの痕かに失せた円みの失せ様をなぞ
り標して高みの偽りを堪え挫ける軽みの僅かな揺れを噴き穿つ眩みの欠片に擬
えられて眩み爛れを盛（さか）らせ躍らせる濁りの延び映えては絶たれない形
（なり）の深みの陰を匿い象ろう光りなら光り、で無いなら高みから堕ち染み
る贋の軽みの虚ろな軽みの内との響き合いに圧し荒らされるかに湧き換えられ
る厚みの額れかと弛み拋られる暗み異なりを、厭き象るしか無くに硬み褪せる
細みで無いなら衰える限りな高みそれとも高みの剥き絞められて戯け転げる速
さを狭み已ませる穿ち震えてさも笑い尖り尽きるかな細み異なりを刻み繋ぐ、
かにも高みは厚みを棄てて高み異なりへと逃れ偏ろうか、に、な逃れ偏りの痕
を異ならせようと謀る戯け振りの透け抜かれるような、纏わり付く影を悉く漁
り凝らそう裏返された匂いの騒がしく擲たれる静かさの、逃れ偏りの痕を脱け
戻り傾ぎ接がれる厚みそれとも厚みを拒む偏りの片縁から堕ちて丸まり懸け滑
る異なり展べられるかに何の影も消され煌めく騒がしさの騒がしさを殺し傷め
た割かれた強張る声かを歪な限りに潰し掲げる拡がりへ拋り留めて影から搾り
抜かれる贋の血の色の緊く透け驕るばかりに棘棘と映り脹らみ已まない艶めき

と艶めきずれるならずれ飾られる内に艶めき戻される儘に、明るみ渡されて射
し濁らされる眩みの短さばかりを抉り曝して惑い撓む縁に艶めきを宿らせたい
望みから痛み溢れる光りの揺れ脹らみは、うねり消え映える揺れの影を眩みに
換えようと高み異なりを転げ重ねて重なり尖る厚みを暗み狭まる硬みへ圧し窮
め照らし、な圧し窮めを更に眩みの短さへと凝り果てさせようと濁りを噴き拡
げる冷め切った抉り偏る透ける限りな窪まりの狭み粘り閉ざされ已む硬みに映
り斬られる厚みの柔らかげに磨かれ下る先に標される裂かれ驕る重みの尖り厭
われて弄ばれる翳りの短さそれとも短さを貫き剥いて狂い無く光りの姿に象ら
れ直される、な姿の重みに昇り輝き眩む狭みが翳し躲す裂かれ拡がる高みに擬
えられてしか映り現れない薫りにも似た眩みを孕む明るみの産み出され已まな
い速さから砕かれ吐かれる硬みと入れ替わり驕られる穢れそれとも、穢れ失せ
を埋める為の硬みを磨き駆る速さを被り狂わす速さの危うく彩られるかな翳り
から零れ堕ちる切れ切れな陰の明るみの傷を拡げるかに鮮やかに暈け躍り頽れ
る速さ染みた映り已みの零れ已まないでは冴え刻まれ詰められ溢れる硬み薫り
の徴の傾ぎ回る濁り振りに揺さぶられ象られる失せ染まる光りの痕を埋める暗
みしか無い明るみの穿たれ褪せる、貫かれ迎えられて掠れ砕ける揺らぎの、唯
戯れ綻んで傾ぎ曇るなら曇る儘を騒がしさに暈かし消し表す、細みの虚ろしか
翳し震わせ動かさない浅い拡がりの内に窒がり摩られよう形（なり）を包み表

す圧し偏られる弾みを守り尖らせる勢いを標し欺いて浅みの危うさを喜び沈ませるかな眩み躙り振りは、自らの姿を曇り尖る拡がりの内から外の已み曇る乏しさに溶かし薫らせ、にも、な薫らせを曇り掻き窒いで穢れを偽る透け濁りを奥まらせようと一つ限りに輝く光りを擲ち砕くかな身振りを乞い恨むなら恨みなど唯の透け濁る光りの乏しさに縋り堪えるしか無い自らの身を吸われ抜かれるように装われ傾れ厭われる、薫らせの掻き窒がれから明るみ滑らされる色なら色、で無いなら色を切り裂く薫りが匿う明るみを曝け出して細み異なる厚みを転がし穢す、に穢し回され厭い藻掻き楽しむ形（なり）を透け鈍らせる重さを遅れ爛れさせるそれとも遅れ捌く為の拡がりを穢し齎す細み傾ぎを置き滑らす、明るみに翳され蠢いて芽吹き割かれるかに湧き圧されるそれとも、な湧き圧されを疑い抜こうと焦がれ堕ちる、抛り誘（いざな）われる薫り異なり染みた光りの乏しさの衰え果てれば却って明るみ狂うにしろ酷く弱弱しげな様を驕り標し爛れさせるかに（二〇二四年十二月三十一日）

断片　二〇二四

著者　u_

© 2025 u_　但シ死後ノ著作権ハ放棄スル。

Independently published